

ニ交付スヘキ覚書案（発表スヘキ分）

支那南北両軍ニ交付スヘキ覚書

（昭和三年五月十六日決定）

永年ニ亘ル支那戦乱ノ結果一般国民ノ生活ハ極度ノ不安ト
困憊トニ陥リ支那在留外国人亦居ニ安ンシ業ニ從フニ由ナ

キ状況ニ有ルヲ以テ戦乱カ一日モ速ニ終熄シ統一セル和平

ノ支那ヲ見ルニ至ラムコトハ外支人ノ均シク熱望スルトコ

ロニシテ殊ニ支那ノ隣邦トシテ利害関係特ニ深キ帝国ノ翹

望シテ措カサル所ナリ然ルニ今ヤ動乱京津地方ニ波及セム

トシ満州ノ地モ亦將ニ其ノ影響ヲ蒙ラムトスルノ虞有ルニ

至レル処抑モ満州ノ治安維持ハ帝国ノ最モ重視スル所ニシ

テ苟モ同地方ノ治安ヲ紊シ若ハ之ヲ紊スノ原因ヲ為スカ如

キ事態ノ發生ハ帝国政府ノ極力阻止セムトスル所ナルカ故

ニ戰乱京津地方ニ進展シ其ノ禍乱満州ニ及ハムトスル場合

ニハ帝国政府トシテハ満州治安維持ノ為適當ニシテ且有効

ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアルヘシ然レトモ交戦者

ニ対シ嚴正中立ノ態度ヲ持スヘキ帝国政府ノ方針ニ至ツテ

ハ固ヨリ何等変改無キ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措置ニ出ツ

ル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法トニツキテハ兩者ニ對シ何等不公平ナル結果ヲ生スルニ至ラサル様周到ノ注意ヲ払フノ用意有ルコトヲ確言ス

（付記一）

（五月十六日起案）

措置案（発表セサル案）（極秘）

一、最近ノ機会ニ北方ハ張作霖及南方ハ蔣介石等ニ外交機（付記二）

関ヲ通シテ別案覚書ヲ交付スルコト

二、右覚書交付ニ當リテハ和平ニ對スル希望ヲ略説スルト

同時ニ戰乱一旦京津方面ニ進展シタル以後ニ於テハ南北

何レノ部隊タルヲ間ハス武装軍隊ノ満州ニ出入スルコト

ヲ阻止スヘキ決心ナルコトヲ明瞭ニ説明スルコト

三、右ノ外張作霖ニ對シテハ同時若ハ交付直後最近ノ機会ニ非公式ニ引退ヲ勧告スルモ若シ右勧告ニ応セサル場合ニハ更ニ対策ヲ講スルコト

四、第一項覚書提出期ハ全般ノ情勢ヨリスレハ今日ヲ以テ既ニ其時期ナリト認ム

五、北方軍隊ノ閏外遁入及南方軍隊ノ追撃阻止又ハ武装解

二 滿州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

64 昭和3年5月15日 在中國芳沢公使より

田中外務大臣宛（電報）

張作霖より和平統一に対する列国の援助要請

について

北 京 発
本 省 5月15日前着

往電第六〇三号ニ閑シ

十二日外交部沈秘書ヨリ天羽ニ対シ電話ニテ今般大元帥ハ

和平統一ノ目的ヲ以テ停戦命令ヲ出シタルカ（後程右原文及英訳文送付シ越セリ）日本モ予テ支那ノ和平統一ヲ希望

セル事實ニ鑑ミ右目的達成ノ為此ノ際日本及各國ノ援助ヲ

得度右大元帥ヨリ外交總長ニ命令アリ總長ノ命ニ基キ当國公使ニ伝ヘラレ度シ通シ來リタルニ付天羽ハ公使ニモ御

伝ヘ致スヘキカ右援助ノ結果ハ内政干渉トナラサルヤト質シタルニ單ニ「モーラルサポート」ノ意味ニ過キスト答ヘ

65 昭和3年5月16日 閣議決定

満州治安維持のため南北両軍に交付すべき覚書について

付記一 五月十六日起案

五月十六日の閣議に提出された「措置案（発表セサル案）」

五月十五日起案

五月十六日の閣議に提出された「南北両軍

二 满州治安維持に関する覚書と張作霖爆死關係

前ニ毀損サレ彼レノ失脚近キニアル旨一般ニ噂サルルニ至リタリ
右報告ス

本信写送付先 在支公使、在奉天、吉林、長春各総領事領事

昭和3年12月(4)日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

吉会鐵道敷設契約の実行は吉林省との連合省
議会に付議する必要があるとの張学良の談話
について

奉天 発
本省 12月4日後着
第七一二号

十二月三日張学良ニ会談ノ際談偶々目下交渉中ノ鐵道問題
ニ及ヒタルヲ以テ本問題ノ取扱ニ関シテハ總司令ニ果シテ
誠意アリヤ否ヤヲ疑フモノアル旨語リタルニ学良ハ自分カ
吉会線工事ノ契約ヲ認メ居ルハ數日前在北京張繼ヨリノ詰

問ニ對シ回答セル電報ニ依リテ見ルモ明白ナルカ唯之カ实行ニハ自分ノ實力不足ヨリ種々ノ困難伴ヒ居リ現ニ吉林省議会ヨリハ東三省臨時公約ニ依リ本問題ノ如キ重要問題ハ決定前省議連合会ニ付スヘキモノナルカ總司令ノ意向如何ト尋ネ來レルヲ以テ然リト回答シタル關係モアリ旁結局連合省議会ニ付議セサルヘカラサルヲ以テ目下同会方面ノ諒解ニ努メ居ル次第ナルカ時勢ハ往時ト異リ無暗ニ圧迫スル訳ニモ行カサルヲ以テ日本側ニ於テモ焦慮セスニ俟タレタシト述ヘタリ依テ本官ハ連合省議会ニ付議スル時ハ群集心理ニ駆ラレ到底通過ヲ見ルコト困難ナルヘキヲ以テ同会ニ付議セサル様取計フノ可ナルコトヲ勧メタルモ結局ハ何等カノ形式ニテ付議セサルヘカラサルコトトナルヘク從テ本件解決ノ難点ハ如何ニシテ無事ニ同会ノ通過ヲ見ルカニ存シ学良カ此ノ為如何ニ努力スルカニ依リ其ノ誠意ヲ觀取シ得ヘシト思考ス御参考迄
北京、吉林へ転電セリ

一 满蒙懸案解決交渉

至ラサル様周到ノ注意ヲ払フノ用意有ルコトヲ確言ス
第六五〇号(至急、極秘)

政局に関する姚震の談話および張作霖の関外
退出方勧告要請について

66 昭和3年5月(16)日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)
北 京 発
本省 5月16日前着

ス段ハ通電ヲ発シテ各方面ノ意見ヲ徵シ國是ヲ定ム
四、右ニ対シ閻ハ贊成ノ電報ヲ発シ各方面ヲ糾合シテ之ニ
賛同ス

トアリ南、周及姚震署名シ居レリ

右ニ基キ姚ハ本使ニ対シ頻リニ張作霖ノ閔外退出ヲ勧告セラレタント申出テ種々問答ヲ重ねタルカ本使ハ張力段ニ政権ヲ交付スルトスルモ段ニハ兵力無シ故ニ馮軍ニシテ保定馬廠ノ線ヨリ以北ニ入ラサル時ハ京津地方ノ治安維持ノ責ハ何人カ之ニ任スルヤト問ヒシニ姚ハ馮ハ露国ト惡縁有リ支那各方面ニ人望無キ故ニ馮ノ存在スル間ハ支那ノ治安維持セラレス張脱出後ハ何レ近キ将来ニ閻ト馮トノ戰有ルシ其ノ結果馮ハ二箇月後位ニハ倒ルヘシ張脱出後何人カ入京スルヤハ問題ナルカ狡猾ナル馮ハ自分ノミ入京セハ前面張アリ後方ニ閻アリ腹背ニ敵ヲ受クルカ故ニ閻ト共ニスルニ非サレハ入京セス閻モ亦入京ノ意無キニ付結局馮モ入京セス從テ北京ノ守備ハ曩ニ奉天軍ニ改編セラレタル涿州城ノ主將傅作義ヲシテ当ラシムルモ一策ナルヘク其ノ他何等カノ方法アルヘシ尤モ段ハ張脱出後モ直ニ立タス万端ノ準備成リタル後初メテ入京スヘク一方閻ハ将来馮ニ当ル事ヲ

二、保定馬廠ノ戰線内ニ馮玉祥ニ勧告シテ同軍ヲ入レシメス馮若シ之ニ從ハサレハ山西及南京側ハ馮ヲ援助セス(即チ馮ヲ討ツ事ハ外國側ノ勝手ナリトノ意味ナリ)

三、張作霖ハ中央ノ政權及近畿ノ治安維持ハ段祺瑞ニ引渡

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

覺悟シ居ルニ付張ノ全滅ヲ欲セストノ趣旨ヲ説明セルニ付
本使ハ南京辺ニテハ馮先ツ入京シ鹿鐘麟ヲシテ北京ノ警備
ニ当ラシメン意向ナル由聞込ミアリト述ヘタルニ姚ハ之ヲ
否定シ南京側ニテ兵力ヲ有スルハ蔣介石ノミナルカ蔣ノ最
モ信任セル何應欽ハ既ニ段ニ款ヲ通シ広西派亦段ニ内通シ
居ル状態ニテ馮ハ全然孤立無援ナルカ故ニ進テ入京スル事
カ不可能ナリト答ヘ尚最近日本ハ新ニ第三師団ヲ山東ニ増
派セル由ナル処山東ハ最早事故ナキヲ以テ其ノ内約一個旅
団位ヲ當方面ニ派遣方望ミタシト希望セリ依テ本使ハ日本
政府ハ恐ラク之ニ応セサルヘシト答ヘ尚日本ハ一党一派ニ
偏セス支那ノ内政ニ干渉スル意無キ次第ヲ説明シタルニ姚
ハ自分モ亦日本ニ対シテ一党一派ニ偏スル事ヲ希望セス唯
政權ノ授受ヲ円満ニ行ハセン為張ノ出閑ヲ希望スルモノナ
リト弁解セリ惟フニ右ハ姚等安福系ト山西派トノ陰謀ニシ
テ之ニ応酬スルニハ細心ノ注意ヲ要スルモ今後張逃出後ノ
政局ハ馮、蔣、閻ノ各軍中何レカ入京スルカ或ハ三者共同
ニテ入京スルカ何レニシテモ相當紛糾スヘキ形勢ニアリテ
政權ノ確立迄ハ相當ノ曲折アルヘク殊ニ将来濟南事件滿蒙
鉄道問題等我方トシテ幾多暗礁ヲ控ヘ居ル現状ニ鑑ミ出来

67 昭和3年5月16日 在中国芳沢公使宛（電報）
張作霖に対する引揚勧告差控方にについて
本省 5月16日後3時発
第二〇九号（大至急、極秘）
貴電第六五〇号末段ニ関シ
一兩日中ニ當方ヨリ訓令ノ次第アルヘキニ付貴官ノ思付ト
シテ勸告スルコトハ差控置相成度シ
奉天、天津へ転電アリタシ

68 昭和3年5月16日 在中國芳沢公使宛（電報）
戰乱滿州に波及の際は同地方治安維持のため
有効なる措置を執るべき旨南北両軍に通告方
訓令

本省 5月16日後9時10分発

第一(1) 第二〇号（至急）
一、漢口南京事件ノ如キ近クハ濟南事件ノ如キ不祥事件モ
一二支那動乱政情不安定ニ原因シ又各国ノ均シク苦痛ヲ

得レハ此ノ際段及閻ノ如キ溫和ナル分子ニ政權ヲ取ラシム
ル事何カト便利トスルカ故ニ此ノ際姚ノ申出ヲ直ニ真正面
ヨリ断ハルハ余リニ「タクト」ヲ欠クモノト思考シタルニ
付暫ク考慮シタシトノ意味ニテ然ルヘク應酬シタルニ姚ハ
明日御返事ヲ願度シト述ヘ引取りタリ以上ノ次第ニテ姚ノ
本使ニ依頼セル要点ハ唯張ニ對シ最短期間内ニ本使ヨリ出
閑ヲ勧告セラレタントノ事ニテ夫レ以外ノ事ハ全部彼等一
派ニテ手配スル趣意ナル處現在ノ政局トシテハ我方ハ姚ノ
依頼アルト否トニ拘ラス場合ニ依リテハ進シテ張ノ出閑ヲ
勧告スルカ如キ時期來ルヤモ計ラレス旁考慮ノ結果姚震ニ
対シテハ同人ノ依頼ニ応シテ出閑勧告ヲ為ス事ハ出來難キ
モ若シ右ノ如キ勧告ノ必要アル場合ニハ自己ノ「イニシエ
チブ」ニテ勧告ヲ為ス事アルヤモ計リ難キ旨明日回答シタ
ク右ノ如キ回答ナラハ我方ニハ無害ニシテ後累ヲ残ササル
ト同時ニ有利ニ利用シ得ヘシト思考セラレ若シ近日張ニ面
会ノ折アラハ場合ニ依リ本使一己ノ思付トシテ巧ニ張ニ勧
告スルヤモ計リ難キニ付御承認ヲ請フ
奉天、天津へ転電セリ

慮スルノ余地無シトスルニ於テハ帝国政府トシテハ之ヲ

強制セムトスルノ意思無キハ勿論ナルモ右ノ結果不幸ニシテ京津方面ニ於テ両軍接觸スルカ如キ事態ヲ生スルニ

於テハ滿州ノ治安維持ヲ重視シ同地方ヲシテ内外人安住

ノ地タラシメムコトヲ以テ方針トスル帝国政府トシテハ

滿州治安維持ノ見地ヨリ必要ナル措置ヲ講セサルヲ得ス
右ノ如キ場合ヲ予想シ殊ニ張作霖不利ノ場合同人及滿州

軍ノ進退ニ関連シ日本トシテ執ルヘキ措置ヲ研究シタル

結果左ノ如ク決定セリ即チ

(イ) 滿州軍カ南軍京津地方ニ到ラサルニ先チ形勢非ナリト

見テ早キニ及ンテ軍ヲ滿州ニ返ヘス場合ニハ日本トシ

テ表面上之レヲ拒ムヘキ理由無ク而シテ滿州軍一旦滿

州ニ引上タル後南軍之レヲ討タムトスル場合ニハ日本ト

ハ戰禍滿州ニ及フヲ避クルノ見地ヨリ南軍ノ山海關以

北ニ進出スルコトヲ阻止セサルヘカラス

(ロ) 南北両軍京津地方ニ於テ交戦スルカ若ハ仮令交戦ニ至

ラサルモ両軍著シク接近シタル後ニ於テ北軍不利ノ状

況ニ於テ滿州ニ退却スル場合ニハ南北何レノ軍隊タル

ヲ問ハス武装ノママニテ滿州ニ進入スルコトヲ許ス可

四、尚ホ貴官ハ張作霖ニ対シ此際一日ヲ後ルニ於テハ満州軍ト雖モ武装セルママ滿州ニ帰還スルコトハ遺憾ナカラ之レヲ阻止セサルヲ得サルカ如キ事態ヲ生スヘキコトヲ充分注意セラレ又張作霖以外張學良楊宇霆等ニモ公使館付武官若ハ貴館員等ヲシテ充分説明セシメラレ成ルヘクハ武装解除ノ如キ問題ヲ起ササル様御措置アリ度シ別電ト共ニ上海奉天南京濟南青島ニ転電シ奉天ヨリ在満各領事ニ又上海ヨリ漢口広東ニ転電センメタリ別電ト共ニ天津ニ転電アリ度シ

編注 別電第二二一号覚書は、五月十六日閣議決定された「支那南北両軍ニ交付スヘキ覚書」(六五文書)と同

文につき省略す。

69 昭和3年5月16日

田中外務大臣より
在上海矢田(七太郎)總領事宛(電報)

滿州治安維持覚書を南方代表に交付方訓令

本省 5月16日後9時30分発

第一〇八号(至急)

(六八文書)

在支公使宛往電第二一〇号ニ関シ

貴官ハ明後十八日(金曜)黃郛若ハ南京政府ノ然ルヘキ代表者ニ面会シ同公使宛往電第二一一号覚書ヲ交付シタル後

前記往電第二一〇号第一項及第二項ノ主旨ヲ篤ト説明ノ上

張作霖援助等ノ誤解ヲ起サシメサル様充分御留意相成度

上記帝國政府ノ覚書ハ黃郛若ハ南京政府ノ然ルヘキ代表者ヨリ馮玉祥ニ伝達セシメラレ度又王正廷貴地ニアラハ馮玉

祥代表ノ意味ニ於テ同人ニモ写ヲ交付シ説明シ置カレ度

北京南京奉天濟南青島ニ転電シ奉天ヨリ在満各領事ニ又北

京ヨリ天津ニ転電セシメタリ

漢口、廣東ニ転電アリタシ

キニアラス

三、右ノ如キ次第ナルヲ以テ帝國政府ハ張作霖及蔣介石等

(蔣ヲ通シテ馮玉祥)ニ対シ右帝國政府ノ和平ニ対スル

希望及滿州ニ對スル態度ヲ披瀝スルコトトナリタルニツ

イテハ貴官ハ明後十八日(金曜)張作霖ニ面会シテ別電

第二一一号(續)覚書ヲ交付シ本電帝國政府ノ真意ヲ詳細説明セラレ度シ

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

大臣ハ

一、奉天軍敗退ノ場合ハ全部ノ武装解除ヲ決行セラル御
決心ナリヤ
二、京津防備ノ趣旨ヲ徹底セシムル為メニハ南軍カ北京天
津ヲ占領スルコトスラモ阻止セラル御決心ナリヤヲ尋
ネ

一、ハ大体貴大使御了解ノ通りナリ唯タ奉天軍今直クニモ
退却ヲ開始スルトキハ之カ為メ戰禍直ニ滿州ニ及フトハ
言ヒ得ラレサルヲ以テ我方ニ於テハ其退却ヲ阻止スル限
リニアラス反之京津地方ニ於テ南北交戦ノ後奉天軍敗退
スルカ如キ場合ニハ南軍之ヲ追撃スヘク戰禍忽チ滿州ニ
及フヘキニヨリ此場合ニハ南北何レノ軍タルヲ問ハス武
装ノ儘滿州ニ入ルコトヲ許ササル積リナリ
二、ノ退路ニ付テモ同様考慮シ居レリ此場合ハ單ニ我軍ノ
集中点ヲ異ニスト言フ相違アルノミト答ヘラレ
次テ伊代理大使ヨリ

一、ハ大体口又ハ熱河方面ヲ超エテ退却スル場合ニモ之ヲ阻止
セラルル積リナリヤヲ問ヒ
大臣ハ

一、ハ大体貴大使御了解ノ通りナリ唯タ奉天軍今直クニモ
退却ヲ開始スルトキハ之カ為メ戰禍直ニ滿州ニ及フトハ
言ヒ得ラレサルヲ以テ我方ニ於テハ其退却ヲ阻止スル限
リニアラス反之京津地方ニ於テ南北交戦ノ後奉天軍敗退
スルカ如キ場合ニハ南軍之ヲ追撃スヘク戰禍忽チ滿州ニ
及フヘキニヨリ此場合ニハ南北何レノ軍タルヲ問ハス武
装ノ儘滿州ニ入ルコトヲ許ササル積リナリ
二、ノ退路ニ付テモ同様考慮シ居レリ此場合ハ單ニ我軍ノ
集中点ヲ異ニスト言フ相違アルノミト答ヘラレ
次テ伊代理大使ヨリ

タル通リナルカ南北両軍若シ京津地方ニ於テ交戦スルカ如
キコトアラハ其影響ハ直ニ滿州地方ニ及ブヘキコト明カナ
リ然ルニ日本カ滿州ノ治安維持ヲ重要視シ居リ同地方ヲ内
外人安住ノ地タラシメ以テ外支人ト協力シテ其經濟的開發
ヲナサンコトヲ理想トシ居ルコトハ既ニ屢々貴大使等ニ御
話致シタル通リニシテ殊ニ日本トシテハ滿州ニハ在留民モ
多数ナル上ニ百万余ノ朝鮮人モ在リテ同地方ノ秩序紊乱ス
ルカ如キコトアラハ直ニ我朝鮮統治ノ上ニ重大ナル影響ヲ
及ホスヘク之帝国政府ノ看過シ能ハサル所ナリ即チ北支ノ
動亂發展シテ戰禍滿州ニ及ハソコトハ帝国政府ノ断シテ許
ス能ハサル所ナリ此見地ヨリ日本政府ハ支那南北交戦当事
者ニ我立場ヲ闡明スル覚書交付方夫々我代表者ニ訓令シ明
十八日芳沢公使ヨリ張作霖ニ又在上海總領事ヨリ南京政權
ノ外交部長黃郛ニ伝達セシムルコトトシタリ依テ御参考マ
テニ予メ貴大使等ニ御話スル為メ御足勞ヲ煩ハシタル次第
ナリトテ覚書ノ英訳文写一通宛ヲ大使等ニ手交セラレ尚本
覚書ハ明日午後發表スル筈ナルモ其レ迄ハ貴大使等ノ含ミ
迄トシテ取扱ハレ度キ旨ヲ付言セラレタリ
右ニ対シ英代理大使ヨリ

テ濟南ヨリ天津ニ帰還スルモノ三中隊アリ併セテ我天津駐
屯軍ハ十三個中隊トナル訳ナリ而シテ京津ノ防備ニ付テハ
各国司令官ノ間ニ遺漏ナク協議済ノコトト思考スル處我方
ニ於テハ各國トノ協定ニヨル防備ニ付テハ勿論十分其責ヲ
果スヘク其レ以外戰禍山海關ヲ超エテ滿州ニ及フト觀ル場
合ハ我方単獨ニテ適當ノ措置ヲ取ルヘク之カ為メ極秘ノ話
ナカラ現ニ青島ニ輸送ノ途上ニアル第三師團ニ属スル部隊
モ北支ノ情勢次第ニテハ途中ヨリ天津ニ向フ様命令セラル
ルコトトナリ居レリト答ヘラレ
次テ仏国大使ヨリ

一、御話ニヨレハ日本ハ團匪議定書ニヨル北京海口間ノ交
通確保ノ義務ハ列國ト協同ニテ之ヲ果タサレ山海關以東
ノ防備ハ滿州ノ關係上日本ニテ適當之ニ当ラル御意思
ト察セラルル所其通リナルヤ

二、尚奉天軍ノ退路ハ山海關ノミニ限ラスト認ムル處北方

差當リ防衛ノ急ヲ告ケ居ルハ天津ナリト認ムル處天津ノ英
司令官ヨリノ報告ニヨレハ同方面日本軍ノ実數不明ナル趣
ナリシカ果シテ幾何ノ兵力ヲ有セラルヤフ問ヒ

大臣ヨリ先日御話致シタル五個中隊ハ明日頃天津着ノ筈ニ
テ濟南ヨリ天津ニ帰還スルモノ三中隊アリ併セテ我天津駐
屯軍ハ十三個中隊トナル訳ナリ而シテ京津ノ防備ニ付テハ
各國司令官ノ間ニ遺漏ナク協議済ノコトト思考スル處我方
ニ於テハ各國トノ協定ニヨル防備ニ付テハ勿論十分其責ヲ
果スヘク其レ以外戰禍山海關ヲ超エテ滿州ニ及フト觀ル場
合ハ我方単獨ニテ適當ノ措置ヲ取ルヘク之カ為メ極秘ノ話
ナカラ現ニ青島ニ輸送ノ途上ニアル第三師團ニ属スル部隊
モ北支ノ情勢次第ニテハ途中ヨリ天津ニ向フ様命令セラル
ルコトトナリ居レリト答ヘラレ
次テ仏国大使ヨリ

二、満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

(欄外記入)

満州ニ於ケル帝国ノ特種地位ハ帝国ノ常ニ強調スル所ナル
時局ニ対シ満州治安維持ニ就テ(極秘)

(付記)

二、南北両軍ニ對シテハ嚴正公平ヲ表スルハ勿論ナリ
我国ノ満蒙ニ關スル諸問題ヲ解決セサルヘカラス
右ノ顧慮ヨリ已ニ戰争ヲ交ヘタル混亂状態ノモノハ武装ヲ解除ス然レトモ広地域ニ亘ルモノ全部ヲ実施スルコトハ出來サルヘシ

二、北方ノ勢力ヲ或る程度ニ保有スルコトハ必要ナリ故ニ表面ハ南北両軍ニ對シ絶対ニ嚴正公平ナルモ其實行上ニ付テハ出先軍司令官ノ手加減ト腹芸ヲ要ス
又満州ニハ反張作霖氣分相当濃厚ナルモノアリ從テ是等反張分子ニヨリ騒乱起リ治安ヲ破壊スルコトナシト限ラス之カ為ニモ奉天派ノ勢力保持ヲ必要トス夫故ニ北軍力無難ニ引上クルコトハ望マシキコトナリ

三、張作霖ノ下野ヲ強制スルノ意図ナシ併シ又強テ作霖ヲ支援スルノ意図ナシ要ハ作霖ノ進退ハ自然ニ委シ北方勢力ハ維持セシムルニ在リ

奉天軍に対し即時退却を開始しなければ時期を失する旨指導方について

本省 5月17日後8時40分発

第二一四号(至急)
往電第二一〇号ニ閔シ

直接京津周囲ニ於テ交戦スル場合ハ勿論若干遠隔ノ地ニ於テ交戦スル場合ト雖モ両軍衝突ノ結果北軍ノ退却ニ尾シテ南軍ノ追撃行ハル場合ニ於テハ日本トシテ武装セル両軍ノ満州進入ヲ許容シ得サルヘク又右様ノ場合武装セル奉天軍ノ満州退却阻止ハ奉天軍力单ニ京奉線ニヨリ退却セントスル場合ノミナラス熱河方面ヨリスル場合ニ於テモ同様ナル次第ニ付此辺誤解ナキ様充分徹底セシメラレ度從テ退却スルモノナラハ此際躊躇無ク退却ヲ開始セサレハ時期ヲ失スル次第ニ付此辺然ルヘク御指導アリ度

上海、奉天、濟南、青島、南京、天津ニ転電シ奉天ヨリ在上海各領事ニ上海ヨリ漢口、廣東ニ転電セシメタリ

南北両軍に交付すべき満州治安維持覚書の発表について

本省 5月17日後10時20分発

第二三〇号ニ閔シ
往電第二一〇号ニ閔シ

訓令執行ノ上ハ往電第二一一号覚書ヲ發表セラレ差支ナシ濟南、青島、天津、奉天、吉林、哈爾賓ニ転電アリタシ

73 昭和3年5月18日 閣議決定
付記 五月十九日付左近司(政三)海軍省軍務局長
より有田(八郎)亞細亞局長宛書簡
閥外進入の南北両軍に対する武装解除の方針について

滿州治安維持に関する意見書
昭和三年五月十八日閣議ニ於テ決定セル支那軍隊
武装解除ノ主義方針(極秘)

南北両軍に交付すべき満州治安維持覚書の発表について

本省 5月17日後10時20分発

第二三〇号ニ閔シ
往電第二一〇号ニ閔シ

訓令執行ノ上ハ往電第二一一号覚書ヲ發表セラレ差支ナシ濟南、青島、天津、奉天、吉林、哈爾賓ニ転電アリタシ

73 昭和3年5月18日 閣議決定
付記 五月十九日付左近司(政三)海軍省軍務局長
より有田(八郎)亞細亞局長宛書簡
閥外進入の南北両軍に対する武装解除の方針について

滿州治安維持に関する意見書
昭和三年五月十八日閣議ニ於テ決定セル支那軍隊
武装解除ノ主義方針(極秘)

ルコトアルヘキ大決心ヲ以テセサルヘカラス独逸カ自衛權ノ發動トシテ白國ノ中立ヲ侵シタルコトカ英國ニ參戰ノ動機ヲ与ヘ米國ノ對獨參戰ノ動機ノ一トナリ且世界ノ同情ヲ失ヒ以テ獨逸帝國滅亡ノ一原因トナリタルカ如キ殷鑑トナスヘキナリ帝國ノ國際的情勢、國內ノ狀況、軍備ノ實狀ヲ覈フルトキハ益々兵ヲ用ユルニ當リ慎重ノ上ニ慎重ノ態度ヲ採リ輕挙ハ深ク深ク戒慎スル所ナカルヘカラサルコトヲ痛感ス

此ノ時局ニ対シ滿州治安維持ノ為ニ取ルヘキ方策ヲ考察ス

ルニ左ノ如シ

一、滿蒙ハ帝國ニ於テ特種地域ヲ以テ目セラレ帝國カ此ノ地ニ發展セサルヘカラサルハ國論ノ帰一スルトコロ政府亦極力其ノ達成ニ努メツツアルハ欣快トスル所ナリ唯或一部ニ於テハ有力ナル陸軍ヲ山海關方面ニ配シテ閔外ニ進入スル支那兵ニ対シテ其ノ南軍タルト北軍タルトヲ問ハス武裝ヲ解除セシメ以テ滿蒙ノ治安ヲ維持セント企図シツツアルカ如シ蓋シ單ニ用兵上ノ見地ヨリスレハ妙案タルハ疑フ容レサル所ナルモ

(一) 条約上ノ権利ナク又ハ居留民保護ノ理由ナキ地方ニ他

ノ如何ナル理由ヲ以テ兵ヲ用イ得ルヤ
(二) 兵力行使ノ結果ハ明瞭ナル内政干渉トナリ恰モ自ラ好ンテ列國ノ容喙ヲ誘起スルニ異ナラス結局用兵上最良案ト認メラル本案モ條約上列國ノ態度ヲ顧慮スルノ要アル關係上举國重大ナル決心ヲナスニアラサレハ実行スヘキニアラサルナリ

二、山海關北京間ノ鐵道ハ交通維持ノタメ列國カ條約ニ依リ分担警備スル所ナリ而シテ滿州ヲ擾乱ニ導カサルタメ本鐵道ヲ軍用ニ使用セシメサルコトハ列國ト共同実施ヲ必要トスルヲ以テ實行可能ナリヤ否ヤ疑問ナルノミナラス我受持区域ニ対シテハ守備兵力ヲ増加シ得ルノ權能アルモ鐵道ニ危害ヲ加ヘサル限り此ノ兵力ヲ以テ南北軍ノ武裝解除ニ用フルハ適當ナラス

三、帝國ハ滿鐵沿線及付屬地ノ治安維持上危急ニ際シ出兵スルハ條約上ノ権利ナリ故ニ北伐軍入滿シ危機切迫スルノ虞アラハ師團ヲ閻東州及鐵道沿線ニ待機セシメ我權益ノ犯サレントスル場合直ニ自衛処置ニ出ツルハ第三者ヨリ異議反対スヘキ理ナシ然レトモ自衛權ノ發動ハ受動的ナルト權益擁護ハ條約上ニ依ル範囲ヨリ発スヘク当初ヨ

リ滿州全体ヲ目的トシテ行フヘキ理由ナシ

本案ハ山海關ニ於テ武裝解除ヲ行フ案ニ比シ所要兵數ノ増大ヲ來シ又実施ハ一層複雜トナル等若干ノ犠牲ヲ払ハサルヘカラサルノ不利アルモ第三者ノ干渉ヲ避ケンカタメニハ多少ノ不利不便アリトスルモ先ツ以ツテ條約上ニ基キ我特種権益ノ擁護、治安維持ニ任スルヲ上策トス

(欄外記入) 昭和三年五月十九日有田亞細亞局長宛送付ア

リタル左近司海軍軍務局長意見書

74 昭和3年5月18日 在中國芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

張作霖との会見予定及び北軍武裝のまま滿州復帰の際の措置について

北京

發

本省 5月18日前着

第六六二号(至急)
貴電第二二〇号ニ閑シ

張作霖ノ權威動搖スル場合ニ処スル対策ニ付テハ過日林總領事來燕ノ折親シク打合ヲ遂ケル処アリ其ノ後時局急転奉

天派ハ危機ニ瀕シタルカ故ニ右打合ニ基キ卑見稟申セントシタル矢先御訓令ニ接シタル次第ナル処本使ノ見ル処大体ニ於テ御來示ノ趣旨ト一致セル處ナルカ奉天派ニ於テハ往電第六五九号ノ如ク十五日ノ大元帥會議ニ於テ孫傳芳楊宇霆張學良其他ノ主戰論勝ヲ制シ最後ノ決戦ヲ試ムル事ニ決定シ右諸將ハ十六日夫々戰線ニ赴キテ部署ニ就キタルカ故ニ唯今本使ヨリ帝國政府ノ御意向ヲ伝フル處アルモ張作霖トシテハ此ノ儘一戦ヲ交ヘスシテ滿州ニ引揚タル事ハ忍ヒ得サル處ナルヘク從テ北軍滿州引揚ケノ場合ハ或ハ南軍トノ対戦不利ナル結果初メテ実行セラルルヤニ觀測セラルルカ故ニ

帝国トシテハ右御電訓ニ從ヒ武裝ノ儘滿州侵入ヲ阻止スル事態ヲ生スル事ハ極メテアリ得ヘク右ニ對シテハ無論予メ御手配ノ次第ト思考セラルルニ付テハ御計画ノ詳細本使ノ含迄ニ御電報相成度シ尚張作霖トノ会見ニ付テハ過般來先方ヨリ人ヲ通シテ会見方希望シ来リ十七日午後十一時半往訪スルコトニ打合セタル所貴電ニハ十八日トアルモ僅ノ時間ノ差ニテモアリ又目下ノ時局ニ鑑ミ早キニ臨ミテ當方ノ意向申入置ク方然ルヘキヤニ認メラル所右会見ノ際御訓

令ヲ執行スルコトニ致シ度ク又御来示ノ如ク此ノ際張学良、楊宇霆ニ対シテモ帝国政府ノ意向ヲ充分説明シ置ク事ニ致シ度カ兩人トモ目下保定方面ノ戰線ニ在ル故不取敢建川武官ヲシテ原田通訳官ト共ニ午後七時當地発保定ニ赴カシメタリ不取敢

青島、濟南、上海、南京、天津、廣東、奉天へ転電シ奉天ヨリ在滿各領事へ転電セシム

75 昭和3年5月18日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

黄郛に満州治安維持覚書手交の際の反応につ

いて

上 海 發
本 省 5月18日後着

第三一九号
貴電第一〇八号及第一一〇号ニ関シ

十八日午前十時本官黃郛ト其ノ私邸ニ於テ会見シ覚書ヲ手交シ御訓令ノ趣旨ヲ篤ト伝達シタル処黃郛ハ仔細ニ傾聴シタル後即刻政府ニ報告シ政府ヨリ馮玉祥ニ伝達方措置セシ

76 昭和3年5月18日 在中國公使館付建川（美次）武官より
烟陸軍次官宛（電報）
張学良、楊宇霆に満州治安維持覚書手交の際
の反応について

北 京 5月18日後8時 發
陸軍省 5月18日後9時16分着

支二〇九

十八日前二時保定ニ到着シ直ニ張学良、楊宇霆ヲ合セ覺書ヲ手交シ且外務大臣命令ニ基キ政府ノ意図ヲ嚴肅詳細ニ申シ渡シ此際大局ヨリ觀テ速ニ日本政府ノ勸告ニ從フヲ有利ト考フルカ故ニ兩軍團長ニテ予メ意見ヲ纏メ大元帥ヲ説得スヘキコトヲ慾セリ此間張学良、楊宇霆ハ当初頗ル不安ノ面持ニテ小官ノ説辞ヲ謹聽シアリシカ奉天軍カ隊伍ヲ整へ奉天ニ帰還スル場合日本ハ兵力ヲ以テスルモ革命軍ノ閑外進出ヲ阻止スル決心アルヲ聞クニ及ヒ大ニ安堵ノ色ヲ浮ヘ遂ニ奉天軍カ潰乱シテ閑外ニ去ラントスルニ際シテハ南北両軍何レヲ問ハス武装ヲ解除スルコトニ関シテハ強テ不思議ト思ハサリシカ如シ

前記小官ノ説明ニ対シ張、楊兩人ハ頗ル重大問題トシテ一

ムヘク右覚書ニ對スル政府ノ態度ハ追テ表示致スヘシト述ヘ更ニ事滿州ニ閑スル限りハ日本ヲ度外セストノ方針ハ半年以前ヨリ確立シ居リ且ソ度々貴下ニ御話シタル通國民政府ハ山海關以外ニ兵ヲ進ムル意図無シ貴下ノ見ラルル處ニテハ日本政府ハ和平調停ヲ主トセラルヤ又ハ重ネテ第二ノ措置タル京津並ニ滿州ニ於ケル戰乱ノ防止ニ置カルルヤ等種々ト質問セルニ付本官ハ政府ノ訓令ヲ本官ノ意見ヲ以テ濫リニ忖度スルコトハ危險ナレハ此ノ際差控フヘシト答ヘタルニ黃ハ要スルニ問題ハ張作霖ノ態度如何ニアリ若シ日本政府カ国民政府ヲシテ張作霖ヲ相手トシテ和平ヲ為サシメント計ラルルナラハ問題ハ困難ナルヘク張以外ノ學良楊宇霆ノ連中トナラハ其ノ方法アルヘシト述ヘタルカ黃ハ右覚書ニ對スル本官ノ説明ニ付内心ハ大ニ喜ヒ居ルカ如ク見受ケラレタリ尚王正廷トハ本日午後會見ノ筈濟南へハ青島ヨリ転電ヲ請フ
在支公使、天津、青島、漢口、南京、廣東、奉天へ転電セリ
濟南へハ青島ヨリ転電ヲ請フ

スサリトテ今日迄忠實ニ行動セシ褚玉璞及孫傳芳軍等ヲ見殺シニシテ三、四方面軍ノミヲ提ケテ奉天ニ帰還シ難キ内部的困難モアリト述ヘ張学良ハ稍々脱線ノ氣味アリシモ彼個人ノ意見トシテハ「大元帥ヲシテ三、四方面軍ヲ率イテ先ツ奉天ニ帰ランメ自ラハ其他ノ軍隊ヲ以テ閑内ニ留マリ革命側トノ妥協又ハ三、四方面軍退却ノ収容ニ任シ不幸其目的ヲ達セス混乱シテ山海關付近ニ退却スルカ如キトキニハ日本軍ノ為ニ武装ヲ解除セラレ過剩軍隊ノ整理ヲ日本ノ手ニテ実施シ得ハ結構ナリ」ト述ヘタリ
楊宇霆ハ最初戰線離脱ノ困難ヲ述ヘ居リンクカ後ニ至リ閻錫山等ト妥協セハ敢テ難事ナラサルヘシト申シタリ
要スルニ兩名ハ大勢上閑内引上ケノ外ナシト考ヘアリテ勧告ノ主義ニハ何等ノ反間ヲ試ミス我政府ノ提議ヲ歓迎スルノ状ヲ表シ唯友軍ノ処置ニ就テ頭ヲ悩マスカノ如ク見受ケ

張作霖ハ公使ニ対ン例ノ頑迷振ヲ発揮シ北京政権掌握者ヲ日本政府ニ於テ定メ通告セヨト頑張リ遂ニ要領ヲ得サリソ由ナリ又土肥原氏今晚潘復、于國翰、何豐林、楊毓珣等ノ集リ居ル所ニテ政府ノ決意ヲ語リシニ一同閔外ニ引揚クルコトニハ異論ナキ模様ナリシトノ事ナリ本夜学良、宇霆以下ヲ集メ會議ヲ開クナラント思ハルニ付其成行ヲ監視スヘシ

関東、天津、上海、奉天済

77 昭和3年5月19日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

張作霖に満州治安維持黨書を手交し満州へ撤

退を勧告せる旨報告

北 京 発
本 省 5月19日前着

第六八〇号（至急、極秘）

貴電第二一〇号ニ関シ

往電第六六二号ノ事情ニ依リ十七日午後十一時張作霖ヲ往

⁽¹⁾第六八〇号（至急、極秘）
⁽²⁾第六六二号（至急、極秘）

ト述ヘタルニ付本使ハ大元帥ハ先月六日会見ノ際本使ニ對シ張宗昌ノ軍隊ノ失敗セサルヘキ事ヲ保障セラレタルニ拘ハラス南軍ノ前進ニ伴ヒ退却又退却ヲ重ネ其ノ結果今日ノ如キ重大ナル戰局ヲ生シ
大元帥自ラ非常ナル窮地ニ陥リタル次第ニテ只今ノ大元帥付テハ何等御説明無キ處此ノ点ハ重要ナリト思ハルカ日本政府ノ意見如何ト尋ネタルニ付本使ハ日本政府トシテハ南北ノ間ニ幸ニ和平締結セラルレハ好都合ナルモ不幸ニシテ和平締結セラレス而シテ北軍、戰利有ラサル場合ニハ之ニ對シテ斯様斯様ニ処理スル意向ナリト云フ趣意ニテ右ハ滿州ニ於ケル日本ノ重要關係ニ出発シタルモノナルカ北京ノ政権ヲ何人ニ譲リ渡スト云フカ如キ問題ニ迄日本政府ニテ指図スルカ如キハ非常ナル内政干涉ナルニ付日本政府ハ之ヲ差控ヘ居ル次第ニテ右後繼者ノ問題ノ如キハ支那側ニテ決定セラルヘキ問題ナリト述ヘタル処張ハ和平締結ヨリモ寧ロ此ノ問題ノ方重要ナリ若シ馮玉祥ニシテ北京ノ政権ヲ把持スルカ如キ事トナル場合ニハ自分トシテハ死ストモ之ヲ承認シ難シ日本政府ノ云ハル通ニ運フモノトセハ結局馮ノ入京トナリ馮ノ政府成立ヲ見ルニ至ルヘク自分トシテハ多年奮闘シタル意味ヲ失フ次第ナリ日本政府ノ趣意ニシテ果シテ然リトセハ絶対ニ同意シ難シト

ノ言モ本使ニ於テハ之ヲ信用スルコト能ハス又大元帥ハ共產党モ国民党モ齊シク赤党ト認メ居ラルカ如キモ日本トシテハ滿州ハ勿論支那ニ於テ共產党ノ跋扈スルコトハ無関心ナル能ハサルモ国民党力ヲ得タリトテ直ニ之ヲ赤化ト見做シ反対ノ態度ヲ表示スルコト能ハスト述ヘタリ
實ハ本使ハ最初張ヨリ政局以外ノ問題例ヘハ一身上ノ振り方若クハ東支鐵道問題等ニ付何等カ秘密ニ本使ニ相談シ度キ意向ナルヤニ想像シ居タルモ張ハ案外ニモ政局ヲ説キ出シタルニ付（張ハ現在ノ地位維持等ニ關シ日本側ノ支持又ハ援助ヲ依頼セントスル腹ナリシヤニ察セラル）本使ハ却テ好都合ト思料シ漸次御電訓ノコトニ話ヲ導キタル処張ハ然ラハ日本政府ノ御意見ヲ承リ度シトロヲ切リタルニ付貴電第二一九号覚書和漢兩文ヲ手交シタルニ一読ノ上了解シタリト述ヘタリ本使ハ覚書ノ文字ハ稍々抽象的ナルカ日本政府ノ真意ハ更ニ本使ヨリ詳細説明スヘシトテ貴電第二〇号ノ御趣旨ヲ説明シタル処張ハ直ニ日本政府ノ南北和平リ引揚クル場合ニ於テ何人ニ中央ノ政権ヲ引継クヤノ点ニ若シ南方ニ於テ之ニ応セス其ノ結果仮ニ自分カ北京方面ヨリ引揚クル場合ニ於テ何人ニ中央ノ政権ヲ引継クヤノ点ニ

訪シタル上本使ヨリ今晚ハ大元帥ノ希望ニ依リ参上シタル次第ナルカ偶日本政府ノ訓電ニ接シタルニ付先ツ第一段ニ於テ大元帥ノ御話ヲ承リ第二段ニ日本政府ヨリノ訓電ニ基キ本使ヨリ御話致スヘシト述ヘタル処張ハ目下ノ戰況ヲ説キ自分ノ配下ニ在ル軍隊ハ總數約六十万ニ達シ三方面ニ於テ交戦中ナルカ津浦線方面ニ於ケル張宗昌ノ軍隊ハ從来失敗ニ失敗ヲ重ね平素ナラハ張宗昌ヲ处分スヘキ咎ナルモ戰時中余リ過酷ナル事モ為シ難ク其ノ儘ト致ス次第ナルモ今回ハ後詰軍隊奉天、吉林ノ精兵五万ヲ派遣シ若シ張宗昌カ又モ退却スルカ如キ場合ハ彼及其ノ軍隊ヲ後方ヨリ擊破スヘシト申渡シ置キタル程ニ付今回ハ勝利ヲ得ル事ト信ス自分ニ分ハ討赤ヲ以テ主義トシ奮闘シ居ル次第ナルカ若シ自分ニシテ失敗スルニ於テハ独リ自分ノ失敗ノミナラス滿州ニ密接ナル關係ヲ有スル日本ニ對スル影響モ亦頗ル大ナルヘシト述ヘタルニ付本使ハ大元帥ハ先月六日会見ノ際本使ニ對シ張宗昌ノ軍隊ノ失敗セサルヘキ事ヲ保障セラレタルニ拘ハラス南軍ノ前進ニ伴ヒ退却又退却ヲ重ネ其ノ結果今日ノ如キ重大ナル戰局ヲ生シ
大元帥自ラ非常ナル窮地ニ陥リタル次第ニテ只今ノ大元帥付テハ何等御説明無キ處此ノ点ハ重要ナリト思ハルカ日本政府ノ意見如何ト尋ネタルニ付本使ハ日本政府トシテハ南北ノ間ニ幸ニ和平締結セラルレハ好都合ナルモ不幸ニシテ和平締結セラレス而シテ北軍、戰利有ラサル場合ニハ之ニ對シテ斯様斯様ニ処理スル意向ナリト云フ趣意ニテ右ハ滿州ニ於ケル日本ノ重要關係ニ出発シタルモノナルカ北京ノ政権ヲ何人ニ譲リ渡スト云フカ如キ問題ニ迄日本政府ニテ指図スルカ如キハ非常ナル内政干涉ナルニ付日本政府ハ之ヲ差控ヘ居ル次第ニテ右後繼者ノ問題ノ如キハ支那側ニテ決定セラルヘキ問題ナリト述ヘタル処張ハ和平締結ヨリモ寧ロ此ノ問題ノ方重要ナリ若シ馮玉祥ニシテ北京ノ政権ヲ把持スルカ如キ事トナル場合ニハ自分トシテハ死ストモ之ヲ承認シ難シ日本政府ノ云ハル通ニ運フモノトセハ結局馮ノ入京トナリ馮ノ政府成立ヲ見ルニ至ルヘク自分トシテハ多年奮闘シタル意味ヲ失フ次第ナリ日本政府ノ趣意ニシテ果シテ然リトセハ絶対ニ同意シ難シト
声ヲ高クシ頻ニ身震ヒヲ為シ非常ニ興奮ノ態度ヲ示シタル依テ本使ハ若シ南北ノ和平成立セス戰争繼續セラレ幸ニ北軍ノ勝利ヲ見ル場合ハ結構ナルモ不幸ニシテ北軍敗北ノ場

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

合ハ如何ニセラルヘキヤ大元帥ハ戰勝ノ確信有ルカ如キロ
吻ヲ示サルルモ第一張宗昌ノ軍隊ノ敗北スヘキハ本使ノ確
信スル処ニシテ其ノ他ノ方面ニ於ケル狀況ヲ聞クニ大元帥
ニハ真相ヲ報告シ居ラレサルモノノ如キモ殆ト將卒ハ戰意
止マラス全軍ノ潰滅ヲ來スヘキハ明白ナル次第ニテ日本政
府ノ意見ノ如キハ右様ノ場合ヲ救フ為ノ最上方法ト云フヘ
ク大元帥ニ於テ之ヲ拒絕スルカ如キハ誠ニ愚ノ至リト云フ
ヘシト述ヘタル處張ハ非常ニ興奮シ幾度論議ヲ重ヌルモ要
スルニ同一ノ事ヲ繰返スノミニテ要領ヲ得ス結局張ハ和平
締結ノ事ハ異存無シ只日本政府ハ南方ニ對シテモ同様ノ申
入ヲ為サレタル趣ナルカ故ニ之ニ對スル南方ノ應酬振ヲモ
承知シタシト

本使ハ南方ノ應酬振ヲ知リタシトノ御希望ハ尤ナルモ前線
ニテハ両軍相対峙シ居ルニ付何時北軍ノ敗退ヲ來スヤモ計
リ難ク其ノ場合ハ如何ニセラルヤ今ニ於テ日本政府ノ好
意アル決定ニ從ハル方最上策ナルヘシト説キタルニ張ハ
勝敗利鈍ハ天ニ在リト大息スルノミニテ四時間ノ談判モ到

底具体的結果ヲ見ルニ至ラサルニ付兔ニ角熱度ノ冷却ヲ待
ツヨリ致シ方ナシト認メ引取リタリ
他方建川武官ハ十八日午前二時保定ニ赴キ張學良及楊宇霆
ニ面会委細説明シタル處右兩人ハ張作霖トハ打ツテ變リ良
ク事態ヲ了解シ殊ニ學良ノ如キハ日本政府ノ御決定ニ顧ミ
張作霖及奉天軍ノ精銳ヲ先ツ無事滿州ニ送還シ自分ト楊ハ
後ニ居残リ南軍ト一戦シテ敗走シタル上（極秘）山海關ニ
於テ武装ヲ解除セラルモ一案ナリト述ヘ又楊ハ自分ハ南
軍側ノ意向モ良ク承知シ居リ對南方策ハ困難ニ非ス寧ロ困
難ハ内部ニアリト述ヘタル趣ニテ要領ヲ得スルニ兩人トモ主義ト
シテハ我提案ヲ承知シ唯右案実行ノ場合例へハ孫傳芳褚玉
璞軍ノ処分若クハ北軍退却ノ際南軍ノ追撃等ノ如キ技術上
ノ困難ヲ懸念シ居タル由ナリ

又本使ト張作霖トノ會見中土肥原ハ別席ニ在リテ潘復、于
國翰、楊毓珣等ト會見シテ日本ノ方針ヲ説明シタル處大体
ニ於テ贊意ヲ表シ居リタリトノ事ナリ
惟フニ我方ノ提案ハ現下ノ政局ニ於テハ張作霖ニ取り最上
ノ福音ニシテ二ツ返事ニテ引受クヘキ筈ナルカ張カ独リ興
奮シテ之ヲ容レサルハ恐らくハ張ハ最初我方ヨリ北京ニ居

ノ困難ヲ懸念シ居タル由ナリ

據ノ儘日本ノ援助ヲ得度キ底意有リシカ我方ノ提案ハ之ト

鮮カラス懸隔有リタル為非常ニ失望シタルト又自己ノ立場

ヲ考ヘ及将来ノ政權力何人ニ帰属スルカラ思ヒテ非常ニ懊
惱シタルモノノ如ク更ニ加フルニ戰況ノ不利ナル事ハ正当
ニ報告セラレサル為カ彼自身ハ今回ノ決戦ハ頗ル有望ナリ
ト信シ居ルモノノ如ク從テ一回ノ会見ニテ彼ヲ納得セシム
ル事不可能ト認メラレタリ只彼ハ一時興奮スル事有ルモ熱
度冷却シタル後ニハ常識ニ依リ判断スルノ性癖有ル由ナル
カ故ニ漸次冷静ニ帰リ更ニ楊宇霆等カ前線ヨリ帰京シ評定
ヲ為シ彼ヲ説得スル場合ハ多分我方提案ノ趣旨ヲ承認スル
ニ至ルヤニ想像セラル

奉天、天津、青島、濟南、上海、南京、漢口、廣東へ転電
シ奉天ヨリ在満各領事へ転電セシム

（電報）

78 昭和3年5月19日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

王正廷に満州治安維持覚書手交について

昭和3年5月19日

在上海矢田總領事より

本省 5月19日後着

第六八一号
往電第六三一號ニ関シ

十八日米公使館書記官「デンビイ」須磨ヲ來訪シ外交部

秘書顧秦來（Telly Koo）ヨリ十二日付書翰ヲ以テ同公使

本省 5月19日前着
上 海 発

79 昭和3年5月19日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

外交部よりの和平斡旋申出に対する措置振り
に関し米公使館筋の内話について

本省 5月19日後着

第六八一号
往電第六三一號ニ関シ

十八日米公使館書記官「デンビイ」須磨ヲ來訪シ外交部

93

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

ニ宛テ外交次長吳晉ノ命令ニ依ル趣ヲ以テ張作霖ノ和平運動ニ対シ南方側ヲシテ賛成セシムル様幹旋方希望シ來レルニ付十三日付ヲ以テ同國公使館漢文參贊「チャップマン」ヨリ米國公使ノ命ニ依リ任國ニ内乱アル間外國代表者ノ地位ハ機微ナルモノアルニ付米國公使ハ内乱ノ終熄ヲ切望スルモ和平斡旋ニ関スル交戦者一方ノ申出ヲ支持スルコト能ハサル旨回答シ置キタル旨内話セル趣ナリ

濟南、奉天、青島、上海、漢口、南京へ転電シ天津へ暗送セリ

80 昭和3年5月20日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

張作霖は結局閔外に退出の見込みについて

北 京 発
本省 5月20日前着

第六八二号（至急）
往電第六八〇号（七七文書）ニ閔シ

楊宇霆及張學良ハ建川ト会見後直ニ帰京シ十八日夜來張作霖ト協議ヲ凝ラシ殊ニ揚ハ張ヲシテ日本提案ノ承認ニ傾カ

滿州治安維持覚書の閻錫山宛電報文
北 京 発
本省 5月19日後着

第六八三号

往電第六六〇号ニ閔シ

当地ヨリ南京ヘノ電報ハ大抵二、三日ヲ要シ且貴電第二一号覚書ハ既ニ発表セラレタルカ故ニ十八日本使ヨリモ為

念別電第六八四号ノ通ノ説明ヲ付シ右覚書ヲ閻錫山へ電報シ置キタリ

別電ト共ニ上海、南京へ転電セリ

（別電）

北 京 発
本省 5月19日前着

第六八四号

中國ノ政情安定ヲ欠キ多年動亂ヲ続クルハ独リ中国人ノミノ不幸ナルノミナラス列国殊ニ隣国タル日本ノ同情スル処ナルカ故和平ノ成立ハ中外人ノ共ニ等シク熱望スル處ナリト信ス依テ帝国政府ハ此ノ時期ニ於テ内外人一般ノ抱懐ス

シムル様種々説得ヲ試ミ居ル趣ナリ

尚場等ハ日本政府提案ノ裏面ニハ他ノ意味ヲ含ムニアラサルヤ（例へハ是カ非ニモ武装ヲ解除シテ張ノ下野ヲ余儀ナクセシムルカ如キ）的確ナル日本政府ノ真意ヲ承知シタシトノ意向ヲ洩ラシ居リ又張ハ昨夜本使ニ質問シタル通り後繼者問題ニ煩悶シ馮ノ入京ヲ非常ニ懸念シ此ノ点ニ閔シ日本政府ノ確タル意見ヲ承知シタント主張シ本使ヨリ説明シ得サル場合ハ町野其ノ他ヲ通シ閣下ニ電報シタキ希望ヲ有シ居ル趣ナリ

右ノ如ク今後多少ノ曲折アルモ大勢ハ大体我方提案通り張ハ出閔ノ余儀ナキニ至ルヤニ認メラル
奉天、上海、青島、漢口、廣東、南京へ転電シ奉天ヨリ在

滿州領事ニ転電セシム

81 昭和3年5月19日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

滿州治安維持覚書を閻錫山に電報について

別電 五月十九日着在中国芳沢公使より田中外務大臣宛第六八四号

ル和平ノ希望ヲ披瀝シ支那ノ諸実權者カ和平商議ニ入ルノ可否若ハ能否ヲ考慮スルノ機會ヲ作ルコト時期ニ於テ適當ナルノミナラス實ニ帝国政府ノ責務ナリト信ス依テ本使ハ訓令ニ從ヒ別紙（省略）覚書ヲ閣下ニ電報ス

第六八六号（至急）
日本ノ提議ニ付昨夜ヨリ今朝ニ亘リ（十九日朝）大元帥府ニ於ケル軍事會議ニ於テ討議中ノ趣ニテ右ニ列席セル楊字霆ノ求メニ依リ土肥原楊ヲ往訪セル處楊ハ大体ニ於テ日本ノ提議ニ從フ様進ミツツアル次第ナルカ茲ニ困難ナル問題ハ奉天軍ノ退却ニ際シ敵軍ヨリ受クヘキ追撃ノ問題ニシテ既ニ十八日京漢線西側ニ於ケル閻錫山ノ軍ハ接近シ来レルニ付押除ケタルニ馮玉祥軍モ同日大分接近シ来レリ然ルニ

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

日本ノ提議ニ從ヒ奉天軍ニ於テ愈々退却ヲ開始スル場合若シ敵軍ニシテ追撃シ來ルモノトセハ地勢ノ關係ニ依リ奉天軍ハ自然潰乱ニ陥ル事ハ極メテ有リ得ヘキ事柄ナルカ故奉天軍ノ退却ニ際シ南軍ニ於テ追撃ヲ為ササル事望マシク又右ノ如キ事情ニ基キ敗北シテ滿州ニ入ル部隊ニ對シテハ武装解除ニ手心ヲ加ヘラルニ非サレハ奉天軍ハ非常ナル窮境ニ陥ラサルヲ得ス從テ右ノ如キ場合ニハ多少勝目ニアル

只今ニ於テ寧ロ我方ヨリ攻勢ニ出テ玉砕スル方得策ナリト申出タル趣ナリ奉天軍ニシテ退却スル場合南軍ノ追撃ヲ許スハ公平ニ非サルニ付至急（南？）軍側ニ対シ適当申入レラルル方然ルヘシ就テハ右様御取計ヲ請フ

上海、南京、天津、奉天へ転電セリ
ラルル方然ルヘシ就テハ右様御取計ヲ請フ

上海、南京、天津、奉天へ転電セリ

83 昭和3年5月19日 在中国芳沢公使宛（電報）

田中外務大臣より
(電報)

南軍に対する追撃見合せ勧告は回避すべき旨

訓令

本省 5月19日後9時30分発

第二二八号（至急）

84 昭和3年5月20日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛（電報）
(電報)

英公使に満州治安維持覚書の真意説明について

第六九二号（極秘）

本省 5月20日前着

北京 発

十九日英國公使來訪其ノ内話ニ依レハ十八日吳晉（初ハ躊躇シテ名前ヲ言ハサリシモ問詰メタル結果吳晉ト言ヘリ）

同公使ヲ訪問シテ日本公使ハ張作霖ニ覚書ヲ手交シ種々談話ヲ為シタル由ナルカ日本ノ真意ハ何レニアリヤ何等侵略的動機ナキヤト尋ネタルカ故ニ自分（英公使）ハ之ニ対シ自分ノ觀ル処ヲ以テ斯レハ日本ハ今迄忍耐シ居タルモノナルカ故ニ支那側ニ於テ慎重ニ措置スヘク輕率（rash）ナル行動ニ出ツルハ不得策ナル旨忠言シ置キタリトテ日本ノ真意ヲ尋ネタルニ付本使ハ同公使ノ好意ヲ感謝シ日本政府ノ方針ハ既ニ發表セル覚書ニテ明カナル如ク南北和平ヲ勧告シ支那側ニ於テ之ニ從ハサル場合京津地方其ノ他ニ於テ行ハルヘキ戦争カ満州ニ波及スルコトヲ阻止スルヲ以テ主眼トシ則チ奉天軍カ退却ノ際戦争ノ結果敗走スル場合ニハ山海関等ニ於テ武装解除ヲ為シ又南軍カ北軍ヲ追撃シテ滿州ニ入ラムトスル場合ニハ是亦阻止スヘク但北軍カ敗走スルニアラスシテ隊伍ヲ整ヘタル儘満州ニ帰還スル場合ニハ之ヲ許スノ趣旨ナリ從テ何等侵略的動機ニ出テタルモノニアヘタル上本国政府ニ電報スルヤノ口吻ヲ漏ラシタリ

尚其ノ節同公使ハ張作霖引揚後ノ後継者ノ問題及張ト後継ラス全ク満州ヲ以テ平和郷ト為サムカ為ノ目的ニ出テタルニ過キスト説明シタル処英國公使ハ能ク之ヲ諒解セリト述

貴電第六八六号ニ閔シ

我方ヨリ南軍ニ追撃見合セヲ通信スヘキ迅速適確ナル方法ナキノミナラス右ノ如キ措置ヲ執ルコトハ深入リシ過キル嫌有リテ面白カラス奉天軍ハ南軍ノ態度ノ如何ニ拘ラス自己ノ判断ニ基キ適當ナル行動ヲ取ルヘキモノト思考セラルニ付右ノ趣旨ニ依リ可然回答セシメラレ度ク陸軍トモ協議済

天津、奉天ニ転電アリ度シ
上海、南京ニ転電セリ

天津、奉天ニ転電アリ度シ
上海、南京ニ転電セリ

本官発北京宛電報

第一三二号

南京 発
本省 5月20日前着

85 昭和3年5月20日 在南京岡本領事より

田中外務大臣宛（電報）
(電報)

閻錫山に満州治安維持覚書通報方趙不廉に依頼について

ラス全ク満州ヲ以テ平和郷ト為サムカ為ノ目的ニ出テタルニ過キスト説明シタル処英國公使ハ能ク之ヲ諒解セリト述

ヘタル上本国政府ニ電報スルヤノ口吻ヲ漏ラシタリ

尚其ノ節同公使ハ張作霖引揚後ノ後継者ノ問題及張ト後継

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

貴電第七号昨十八日夜接到本十九日朝山西主席代表趙不廉往訪翻訳セル覚書ヲ手交シ直ニ閻錫山へ電報方ヲ求ムルト共ニ政府訓令ノ趣旨ヲ篤ト説明シ誤解ナキ様閻錫山へ転報

方申入レタル處趙ハ快ク之ヲ承諾シ左ノ通付言セリ

日本ノ満州ニ於ケル特殊地位ハ充分之ヲ認メ居ルヲ以テ御

來示ニ付何等ノ懸念誤解ヲ有セス当初ヨリ當地方ニ於テ特

ニ兵力ヲ用ヒルコトナク相成ルヘクハ張學良、楊宇霆等新

進ノ人物相謀リ日本ト協議シテ諸問題ノ解決ヲ計リタク考
ヘ居レリ山西ハ馮玉祥軍ノ北京入城ヲ欲セス左翼總指揮徐
永昌及第六師長孫楚ヲ入京セシメ治安ノ維持ニ当ラシムル
予定ナルカ馮玉祥ニ對シテハ閻總司令當初ヨリ充分警戒シ
居リ或ハ恐ルヘキ敵ト變セムコトヲ憂フルモノナルカ右ノ
場合張學良、楊宇霆等ト提携シテ当ラハ之ニ对抗スルヲ得
ヘシト述ヘ恰モ現ニ馮、閻間ノ關係ニ亀裂ヲ生シタルカ如
キ口吻ヲ洩ラシ居リタリ

大臣、上海、青島、天津、漢口、奉天、濟南ニ轉電セリ
上海ヨリ廣東ニ轉電ヲ請フ

張作霖外退去問題に關する吳俊陞の所見について

奉 天 本省 5月20日前着 発

第二一七号

十九日鎌田ヲシテ目下滯奉中ノ吳俊陞ニ對シ我政府ノ覺書ニ關スル真意篤ト説明方申聞ケタル處今日午後鎌田吳ニ面會右覺書ヲ詳細説明シ此ノ際速ニ引揚クル方大元帥ノ為利益東三省人民ノ幸福ナラムト話セルニ吳ハ日本政府ノ警告ニ對シ寧ロ感謝ノ意ヲ表シ自分ハ最初濟南陥落セハ到底北京ヲ支持シ得サルヘキヲ予想シ独断ニテ部下ノ騎兵ヲ山海関迄出動セシメ去ル十二日張海鵬ト入京シ大元帥ニ面謁シタルニ大元帥ハ何用アリテ來リシャト尋ネシヲ以テ予ハ率直ニ既ニ兵ニ戰意ナク各方面共戰況不利ノ今日寧ロ引揚ヲ断行シ後國ヲ策スルノ利益ナルヲ進言シタルニ大元帥ハ何カ不興氣味ニテ予ノ言ニ耳ヲ傾ケス飽迄馮ト雌雄ヲ決スヘシト頑張リ直ニ帰任ヲ命セラレタルヲ以テ翌日山海關ニ引

返シ十四日ヨリ引揚ニ着手シタル次第ナリ貴國軍隊若シ濟南ニテ南軍ヲ阻止スル事無カリセハ今頃天津ハ北軍ノ有ニ非ス此ノ点ニ付予個人トシテハ日本ヲ徳トシ居レリ大元帥ノ身辺危殆ニ陥リシ場合ニハ汽車自動車飛行機等到底急場ノ用ヲ為サス昨日第五夫人カ子供連ニテ入京シタルカ予ハ

極力之ニ反対セシモ遂ニ聞カサリキ予ノ主義ハ飽迄保境安民ニアリ仮令南軍カ一時北京ヲ占領スル事アリトシテモ闇

錫山ハ兎ニ角蔣介石ト馮玉祥トハ到底相容ルモノニ非ス早晚決裂ヲ免カレサルヲ以テ其ノ機ニ乗スルモ決シテ晚シトセス予ハ二三日内ニ帰任ノ事ニ予定シタルモ參謀長ヨリノ依頼モアリ暫ラク当地ニ滯在シ狀況ヲ見ル事トス目下奉天省ニテハ籌濟局ヲ設立シ苛斂誅求行ハレ予ノ素志ト相反スルヲ以テ久シク留マルヲ欲セス主脳者タル者須ク人民本位ニテ政ヲ行フヘキナリ今日ノ奉天省ノ遣リ口ニハ遺憾ノ点多シト稍不平ノ色見エタリトノ趣ナリ

北京へ転電セリ

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

十六九七号（極秘）
往電第六八六号ニ閱シ
十九日夜于國輪張作霖ノ使トシテ本使ヲ來訪シ大元帥ハ日本政府ノ勧告ニ對シ大体同意スルコトニ決心シタル處疑問ノ点アルニ付本使ノ解釈ヲ求メタシト前提シ（一）日本政府ノ勧告ハ敵軍ニモ同様ノ意見ヲ申入レタルヤ（二）右ハ閻、馮、蔣三人ニ悉ク申入レラレタリヤ（三）右勧告ヲ受ケタル者ノ一人カ同意シ他ノ一人又ハ二人カ不同意ナル場合日本政府ハ如何ナル措置ヲ採ラルルヤ（四）奉天軍ニ於テ退却開始ノ場合敵軍カ接觸シテ追撃シ来ル場合又如何ニ措置セラルル方針ナリヤトテ特ニ（三）及（四）ニ付目下京漢線方面ニハ奉軍ハ既ニ敵軍ト接触交戦シ居ルヲ以テ若シ敵軍ニ於テ日本ノ勧告ヲ承認セサルトキハ奉軍カ退却ヲ開始スル場合敵軍ハ密接シテ追撃シ来ルヘク其ノ結果奉軍ハ或ハ壊乱状態ニ陥ル

無キヲ保セス大元帥ニ於テハ既ニ日本ノ勧告ヲ承認スル意向ナルモ之カ実行ノ点ニ於テ事実上右ノ如キ困難アリトノ趣旨ヲ申出タリ依テ本使ハ(一)ニ就テハ南軍側ニ対シテモ大元帥宛ノモノト同様ノ申入ヲ為シタリ(二)ハ蔣ニ対シテハ上海總領事ヨリ黃郛ヲ通シ又馮ニ対シテハ王正廷ヲ通シ申入レ閻ニ対シテハ南京領事ヨリ同地ニ在ル山西代表ヲ通シ通告方取計アル外

本使ヨリモ別ニ直接閻宛電報シ置キタル旨ヲ答へ更ニ(三)ニ付テハ日本政府ノ趣旨カ勸告ニアルヲ以テ之ヲ聽入レサルモノニ対シ強制スルコトハ不可能ナリ若シ強制セントスルニハ結局武力ヲ用フルノ外無キ處其ノ結果ハ内政干渉トナリ又重大ナル國際問題ヲモ惹起スヘク斯ノ如キハ日本政府ノ本意ニ非ス(四)ニ付テハ大元帥ノ懸念ノ点一応尤ト思考セラルル処裏ニ土肥原顧問ヲ經テ同様ノ申出アリタルニ付本使ヨリ既ニ日本政府ニ電報シ考慮ヲ求メアリ然レトモ此ノ際大元帥ニ於テ右日本側ノ措置ヲ期待シ又ハ一方相手方ノ回答振リヲ見タル上ニテ態度ヲ決セントスルカ如キ意向ナルニ於テハ彼此ト時日ヲ費シ一面事態ハ益困難トナリ遂ニハ奉天軍ノ安全ナル退去ノ機会ヲ失シ今日ヨリモ一層不利

天派ニ於テ日本ノ態度斯ノ如シトセハ北軍ノ退却ニ際シ南軍ノ追撃シ来ル事明カナルニ依リ先ツ進テ之ニ一擊ヲ加ヘントスル決意ヲ有スル事ヲ示スモノニシテ楊宇霆及張學良カ二十日保定ニ向ヘルモ之カ為ナリトノ事ナリ奉天、天津、上海、南京へ転電セリ

田中務大臣より
在英國佐分利臨時代理大使(一)宛(電報)

張作霖、張學良、楊宇霆ほか北方要人に満州治安維持覚書交付の際の状況など通報

昭和3年5月21日 在米國松平大使

合第一七五号(極秘)
往電合第一六〇号(一)閻シ

十七日夜芳沢公使ハ張作霖ヲ往訪シ我覚書ヲ手交シ政府訓令ノ趣旨ヲ説明シタル処張ハ日本政府ノ南北和平提唱ノ趣旨ハ了解シタルモ若シ南方ニ於テ之ニ応セサル結果自分カ北京ヲ引揚クルニ際シ何人カ中央政権ヲ引繼クヤノ点ニ関スル日本政府ノ意見ヲ承知シ度シト述へ芳沢公使ヨリ日本

益ノ結果ヲ來ス惧アルヘシトテ一時モ早ク退却ヲ決心スル方得策ナル次第ヲ説示シタルニ于ハ委細了承シタルニ付篤ト大元帥ニ報告スヘシト答ヘタリ尚其ノ後貴電第二二八号接到シ次イテ建川武官ノ処ニモ同趣旨ノ訓電參謀本部ヨリ到着シタルニ付(于國翰來訪ノ際同武官モ列席セリ)二十日同武官ヲシテ于ニ御電訓ノ趣旨ニ基キ前記第四点ニ對シ確答セシメル事ニ取計置キタリ天津、奉天、上海、南京ニ転電セリ

第六九九号(極秘)
往電第六九七号(一)閻シ

昭和3年5月21日 在中國芳澤公使より
田中外務大臣宛(電報)

于國翰に満州治安維持覚書の趣旨伝達について

北京 本省 5月21日前着 発

政府トシテハ南北和平ヲ希望シ若シ和平成立セス北軍戰利ナキ場合ニハ滿州ニ對スル日本ノ重大ナル關係ニ基キ斯々ノ措置出ツルノ趣旨ニシテ中央政権引継者ヲ指示スルカ如キハ内政干渉トナルヘク右ハ支那側ニテ決定スヘキ問題ナリト述ヘタルニ張ハ此点最モ重大ニシテ若シ日本政府ノ所言通リニ運ハハ結局馮玉祥ノ入京トナリ馮ノ政府ノ成立ヲ興奮ノ態度ヲ示シ芳沢公使ヨリ北軍ノ敗北ハ衆口ノ一致スル処ニシテ敗北ノ場合ハ張一己ノ没落ニ止ラス北軍全部ノ潰滅ヲ來タスヘク日本政府ノ意見ノ如キハ右様ノ場合ヲ救フ最上方法ナルヘシト說キタルモ張ハ興奮ノ結果幾度論議ヲ重ヌルモ同一事ヲ繰返シ要領ヲ得ス結局張ハ和平締結ニハ異存ナシ只日本覚書ニ對スル南方ノ応酬振リヲ承知シ度シト述へ公使ヨリ両軍對峙ノ今日何時北軍ノ敗退ヲ來タスヤモ測リ難ク此際日本ノ好意アル決定ニ從フノ得策ナル所以ヲ説キタルモ張ハ大息スルノミニテ結局四時間ニ亘ル談判モ具体的結果ヲ見ルニ至ラサリシ趣ナリ他方建川武官ハ十八日午前二時保定ニ張學良及楊宇霆ヲ訪ヒ委細説明セル処右兩人ハ良ク事態ヲ了解シ殊ニ學良ハ日

本政府ノ決定ニ顧ミ張作霖及奉天軍ノ精銳ヲ先ツ無事ニ満州ニ送還シ自分ト楊ハ後ニ居残リ南軍ト一戦シ敗走シタル上山海関ニ於テ武装ヲ解除セラルモ一案ナリト述ヘ又楊ハ自分ハ南方ノ意向ヲ良ク承知シ居リ困難ハ対南方策ニ非ス内部ニアリト述ヘ要スルニ兩人共主義上我提案ヲ承認シ唯實行上ノ困難ヲ懸念シ居タル趣ナリ

尚土肥原太佐ハ潘復、于國翰等ニ対シ我方針ヲ説明ンタル處大体ニ於テ贊意ヲ表シ居タル由ナリ

往電合第一六〇号同様転電及暗送アリ度シ

~~~~~

90 昭和3年5月21日  
田中外務大臣より  
在英國佐分利臨時代理大使（宛電報）  
在米國松平大使

黄郛、王正廷、閻錫山ほか要人に対する滿州治安維持覚書交付の際の状況通報

本省 5月21日後8時45分発  
合第一七六号

往電合第一六〇号ニ閔シ

(一)五月十八日在上海矢田總領事ハ黄郛ト会見シテ本件覚書

報方申入レタリ同代表者ハ右快諾ノ上山西側トシテハ日本ノ満州ニ於ケル特殊地位ハ十分認メ居リ今回ノ覚書ニ付テモ何等ノ懸念誤解ヲ有セス相成ルヘクハ張學良、楊宇霆等新進ノ人物ト相謀リ日本ト協議シテ諸問題ノ解決ヲ計リ度ク考ヘ居レリト付言シタリ

往電合第一六〇号同様転電及暗送アリ度シ

~~~~~

91 昭和3年5月22日
田中外務大臣より
在米國松平大使宛（電報）
本省 5月22日後1時40分発

滿州治安維持勧告の真意徹底方訓令

貴電第一六二号ニ閔シ

本件我方勧告ノ真意ニ閔シ米國新聞中疑惑ヲ抱ケルモノ有ルヤニ見受ケラレ又新聞電報ニ依レハ「ケロッグ」モ新聞記者トノ会見ニ於テ我方措置ヲ誤解セルヤノロ吻ヲ洩シタル趣ノ處本件勧告ノ主旨ハ往電合第一六一号在支公使宛訓令及同第一六二号覚書ニ詳述ノ通一ツニ支那ノ和平統一ヲ希望スルト共ニ満州ノ治安維持ヲ図リ同地方ヲシテ内外人

ヲ交付シ訓令ノ趣旨ヲ伝達シタル處黃郛ハ右ノ趣直ニ国民政府ニ報告シ同政府ヨリ馮玉祥ニモ伝達方措置セシムヘク又右覚書ニ對スル同政府ノ態度ハ追テ表示スヘント述ヘ更ニ国民政府トシテハ事満州ニ閔スル限りハ日本ヲ度外セストノ方針ハ既ニ半年以前ヨリ確定シ居リ又山海關以外ニ兵ヲ進ムル意図ナキ次第ナル處若シ日本政府カ國政府ヲシテ張作霖ヲ相手トシテ和平ヲ議セシメント計ルナラハ問題ハ困難ナルヘキモ張學良楊宇霆等ヲ相手トシテナラハ其方法アルヘシト述ヘ内心覚書ニ對スル同總領事ノ説明ニ付大ニ喜ヒ居ル如ク見受ケラレタル趣ナリ

尚同總領事ハ同日午後王正廷ニ対シテモ右ト同様覚書ヲ手交シ訓令ノ趣旨ヲ説明シタルニ王ハ右ハ非常ニ重大ナル事柄ナルカ之ナラハ日本政府ノ方針モ惡クナシト述べタリ

(二)閻錫山ニ対シテハ芳沢公使ヨリ十八日説明ヲ付シタル覚書ヲ直接ニ電報シ置キタルカ電信不通ノ虞アルニ付別ニ在南京岡本領事ニ於テモ十九日同地ニ在ル閻代表者ト会见シ覚書ヲ手交ノ上我方訓令ノ趣旨ヲ説明シ閻錫山ニ転

安住ノ地タラシメントスルニ外ナラスシテ我覚書ヲ保護領設定ノ宣言ト解スルカ如キハ曲解モ甚シク帝國ノ屢次声明セル支那ノ領土保全、滿蒙ノ門戸開放、機會均等ノ主義ニ何等変更無キコトハ絮説ヲ要セサル次第ナルカ支那側ノ惡宣傳モ益々盛ナルヘキニ顧ミ右我方ノ態度ニ付テハ貴地當局新聞關係者其他ニ対シ隨時御説明ノ上其ノ徹底ヲ期セラレタク御如才モナキ儀ナカラ為念

英及在北米各領事ニ転電シ英ヨリ在欧各大使ニ転電セシメラレ度シ

~~~~~

92 昭和3年5月22日  
田中外務大臣より  
在英國佐分利臨時代理大使（宛電報）  
在米國松平大使

南軍追撃に対する我方の措置に関する北方側の質問およびこれに対する回答通報について

本省 5月22日後7時発  
合第一七九号（極秘）  
合第一七九号（八九文書第五号ニ閔シ  
往電合第一七五号ニ閔シ

奉天側ハ十八日夜ヨリ十九日朝ニ亘リ大元帥府ニ軍事會議

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

ヲ開キ討議シタル結果十九日夜于國翰張作霖ノ使トシテ芳

沢公使ヲ來訪シ張ニ於テハ大体日本ノ勧告ニ從フ意向ナル

モ南軍ニ於テ之ヲ承認セス奉天軍ノ退却ヲ追撃シ来ラハ奉

軍ハ或ハ壊乱状態ニ陥ルナキヲ保セストテ実行上ノ困難ヲ

述ヘ(一)南軍不承諾ノ場合及(二)南軍追撃ノ場合ニ於ケル我方

ノ措置ヲ質問シタリ芳澤公使ハ右(一)ニ付キテハ日本政府ノ

趣旨カ勧告ニアル以上南軍ニ之ヲ強制スルヲ得ス此際張ニ

於テ日本側ノ措置或ハ南方ノ回答ニ依リ態度ヲ決セムトス

ルハ事態ヲ一層困難ナラシメ安全ナル退去ノ機会ヲ失フ所

以ヲ述ヘタルカ(二)ニ付キテハ既ニ十九日朝楊宇霆ヨリモ土

肥原ニ対シ同様ノ趣旨ヲ述ヘ我方ヨリ追撃差控方南軍側ニ

申入レムコトヲ望ムカ如キ申出ヲナシタル趣ニテ右ニ対シ

「我方ヨリ南軍ニ追撃見合セヲ通信スヘキ迅速適確ナル方

法ナク右ノ如キ措置ヲ取ルハ深入シ過キル嫌アリ奉天軍ハ

南軍ノ態度如何ニ不拘自己ノ判断ニ基キ適當ナル行動ヲト

ルヘキモノト思考スル」旨電訓シ置キタルヲ以テ公使ハ二

十日建川武官ヲシテ此ノ趣旨ヲ于國翰ニ伝達セシメタリ

(英宛ノ分ニハ「在欧各大使ニ転電アリタシ」米宛ノ分ニ

ハ「在伯大使及在合衆国領事ニ転電アリタシ」ト付記スル

コト)

昭和3年5月22日 在中国芳澤公使より

建川武官による張学良、楊宇霆に満州治安維持

持覚書交付の際の会見要領について

(5月28日接受)

機密第六〇五号(極秘)

昭和三年五月二十二日

在支那

特命全権公使 芳澤 謙吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

張作霖ニ対シ和平勧告ノ件

往電第六八〇号ニ關シ建川武官ト張学良、楊宇霆トノ会見〔七七文書〕  
ノ顛末ハ建川武官ヨリ參謀本部宛詳細報告済ノ次第ト察ス  
ル處右会見ニ同行セル原田通訳官ノ手記セル会見要領御参考迄別紙報告ス

(別紙)  
建川武官ト張学良、楊宇霆会見要領

建川少將ハ井上大尉、原田通訳官ヲ帶同シ五月十七日北京発同十八日午前二時保定着直ニ第三四方面軍団司令部ニ張學良、楊宇霆ヲ往訪シタルカ其会談要領左ノ如シ  
先ツ建川武官ヨリ本日ハ帝国政府ノ重要ナル特命ヲ帶ヒ來レル旨ヲ告ケ該声明書漢訳文ヲ手交シタル後訓令ノ適宜ノ趣旨ヲ伝ヘタル上会談ニ入り

張、楊 日本国政府御訓令ノ趣旨好ク了解シタルカ事態極メテ重大ニシテ自分等ハ大元帥ト相談ノ上ナラテハ何共意見ヲ發表シ兼ヌル次第ナリ

建川 今回日本政府カ南北交戦者ニ対シ同一ノ声明書ヲ発

スルニ当リ特ニ貴團長等ニ対シ大元帥ノ諮詢ヲ受クル前ニ御知ラセスル方好都合ト思惟シ政府ノ意ヲ体シ公使ニ於テ特ニ自分ヲ派セラレタルモノナルニ付何等貴見ヲ求メムトシテ来レルニ非ス  
楊 之ハ重大問題ナレハ兩人協議ノ上後刻晋京ノコトトナルヘシ

(此間兩人極メテ緊張セル面持ナリシカ張ハ直ニ部下ニ命シ大元帥府ニ電話ヲ掛けシメタリ)

建川 戰況ハ如何

張 十六日望都付近ニテ山西軍トノ先頭部隊ノ小衝突アリタルカ直ニ之ヲ擊退セリ馮軍ハ騎兵一大隊、歩兵一ヶ旅団目下北進中ナルカ多分明後日頃是等主力軍トノ衝突アルヘキカト予想セラル軍略的ニハ目下ノ状勢ハ奉天軍トシテ何等退却ヲ余儀ナクセラル程切迫シ居ラス十分反攻スル兵力ヲ有スレト之ヲ政治的ニ見ルトキハ自ラ其ノ見解ヲ異ニスヘシ仮リニ貴國提案ノ第一ヲ採ルトシテ現在ノ如ク敵ノ接近シ来レル際奉天軍ノ自働的退却アラハ彼等ハ直ニ追撃ニ移ルヘクスル場合日本ハ如何ナル措置ヲ執ラルヤ

建川 此点ニ關シテハ訓令ニアラス只自分一個ノ考へナルカ奉天軍カ日本ノ提案ヲ容レ平和裏ニ退却セムトスル際南軍カ依然其ノ和平勧告ヲ聽カス追撃スル場合ニ於テハ日本政府ハ前述東三省治安維持ノ見地ヨリ之カ追撃ヲ阻止スルコトハ今回ノ声明ニモ顧ミアリ得ヘキコトト思料セラル

張 然ラハ奉天軍カ日本ノ勧告ニ応シ出閔スル場合友軍タル十万余ノ直魯連軍ノ始末ヲ如何ニナスヤ之カ大問題ナリ

楊 然り之ヲ見捨テ奉天軍ノ直系軍ノミ出閔スルハ誠ニ

情ニ於テ忍ヒサル処ニシテ去逆テ斯ル軍隊ヲ道連レト  
セハ東三省ノ財政ハ破綻セサルヲ得サルナリ

依テ大元帥帰奉ニ当リ先ツ是等軍隊トノ充分ナル連絡

ヲ取付ケ置クコト肝要ニシテ若シ彼等ノ反感ヲ買ハム

カ今後ハ逆ニ天津ニテ退路ヲ断タルコトトナラン依

テ這ハ全然自分一個ノ私見ナルカ此際日本ノ提議ヲ容

レ大元帥ニ奉軍直系ヲ付シテ出閔セシメ自分等ハ前記

友軍ト残留ノ上局面ノ收拾ニ当ラン既ニ大元帥出閔ト

聞ケハ蔣、閻ハ直ニ停戦スヘク馮ト雖モ周囲ノ形勢ニ

顧ミ進撃セサルヘシ依而此間政治的作用ニ依リ停戦ノ

上京津間ノ治安ハ維持セラルニ至ラン而シテ自分等

ハ友軍ト共ニ天津以北ニ在リ馮軍ノ入京ヲ看視シツツ

局面ノ転回ヲ試ミムトス而シテ不幸再ヒ戦乱ノコトト

モナラハ敗戦ノ際ハ甘ンシテ山海関ニテ貴國軍ノ武装

解除ヲ受クヘシ即チ此方法ハ一、馮軍ノ入京ヲ防キ

二、東三省ノ財政ヲ救ヒ三、廢軍整理ノ結果トナル

閻ハ馮ヲ恐レ居ルニ付大元帥サヘ出閔セハ直ニ當方ト

合作ノ約アルニ付更ニ蔣トモ合シ馮ヲ絶滅スルヲ要ス

今回日本ノ提議ニ対シ之カ反響ヲ観察スルニ  
賛成派、閻錫山、奉派、蔣部下（方振武、陳調元、  
白崇禧、何應欽）

反対派、馮玉祥

賛否相半、蔣介石

トナルヘク果シテ右ノ如キ形勢ニアレハ馮一人反対ス

ルモ問題トナラサルヘク蔣ハ北伐セサレハ南京政府ノ

自己ノ地位ニ影響ヲ來ス為反対ノ意アルモ部下ニ戰意

ナク現ニ之ヲ證明スル事實ハ馮カ蔣軍ノ津浦線ニ一向

進出セサルニ業ヲ煮ヤシ蔣ニ対シ詰問的電信ヲ送リタ

リトノコトナリ

建川 御意見好ク了解セリ帝国政府訓令ノ意ヲ体シ何卒貴

見ノ次第ヲ大元帥ニ進言セラレ出閔方ヲ懲願度

張 承知セリ右ハ自分一個ノ私案ニ付後刻楊氏トモ熟議ノ

上晋京ノコト可致

右二時間ノ会談ヲナシ食事ヲ共ニシ四時十五分辞去ス

94 昭和3年5月(23)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

### 滿州治安維持覚書に関し張作霖側ステートメントを各通信社等に配布について

別電

五月二十三日付在中国芳沢公使發田中外務大臣

臣宛第七二六号  
元帥府のステートメント

北京市 5月23日前着 発

第七二五号  
（七七文書）

往電第六八〇号ニ閔シ

二十一日元帥府ハ内密ニ別電第七二六号ノ趣旨ノ英文「ステートメント」ヲ各通信及新聞紙ニ配布シタル由ニテ二十  
二日当地新聞ハ北京当局ノ半官的声明トシテ之ヲ掲ケ居レ  
リ

（別電）

北京市 5月23日前着 発

第七二六号（別電）

日本覚書ニ閔シ当地最高軍事当局ハ日本政府ノ主タル目的

往電第七二〇号上海、漢口へ転電天津へ暗送ヲ追加セリ

ス

95 昭和3年5月(23)日 在上海矢田総領事より

田中外務大臣宛(電報)

満州治安維持覚書に対する国民政府の方針決

定の情報について

上 海 発  
本省 5月23日前着

第三四五号  
往電第三二九号ニ閲シ

十九日黃鄂ヨリ電話ニテ北京ニ於ケル覚書交付ノ結果ニ付何等情報ナキヤト問合セ来リタルニ付新聞電報以外別ニ御話スヘキ情報ナシト答ヘ置キタルカ黃ハ南京へ出発前上海ニ於ケル各界有力支那人ノ意見ヲ徵シタル趣ニテ(中国銀行副總理張公權ハ船津紡績連合会理事ニ対シ自分モ意見ヲ徵セラレタリ語レル由)探聞スル處ニ依レハ日本カ張作霖ヲ圧迫シテ国民軍ト戦ハシテ閔外ニ引揚ケシムルコトヲ得ハ国民政府ノ歓迎スル処トナルヘキハ勿論ナレトモ問題ハ滿州ニ関スル一点ナリ(在支公使宛貴電第二一〇号ノ趣旨ハ十七日ノ閣議決定事項トシテ電通ニ依リ十八日ノ當

地諸新聞ニモ掲載セラレタリ)日本ハ滿州ヲ第二ノ朝鮮トシ進テ山東省ヲ第二ノ滿州トシテ特殊勢力ヲ樹立セムトスル方針ニアラスヤトノ疑念ヲ深カラシムルモノアリ本件覺書ハ容易ナラサル重要性アリトノ意見多カリシ由ナリ黄ハ右意向ヲ齋シテ南京ニ帰リ二十一日夜譚延闐邸ニテ臨時會議ヲ開キ覚書ニ閲シ討議シ回答案並大体ノ方針ヲ決定シタル由ナリ他方言論界カ往電第三三九号ノ通兩三日沈黙ヲ守リタルハ未タ覚書ノ包含スル意義ヲ充分把捉シ得サリシト国民政府ノ方針モ定マラサリシ結果ナルヘク当地有力支那人ノ大体ノ意向前掲ノ如クナリシ反映ト見ルヘキハ十二日新聞報カ沈黙ヲ破リ往電第三四六号ノ如キ論説ヲ掲ケタル一事ナリ右様ノ状況ナルヲ以テ南京政府ノ回答カ如何ナルモノナルヤハ予測シ得サルモ其ノ重点ヲ滿州問題ニ置キ前掲疑問ニ付反問シ来ルカ若ハ同政府ノ方針声明ノ形ヲ取リ来ルニ非セヤト観測セラル

北京、南京、漢口、廣東、奉天ニ転電セリ

96 昭和3年5月(23)日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

国民政府は満州治安維持覚書に対し嚴重抗議  
することに決した旨の新聞報道について  
上 海 発  
本省 5月23日後発

第三四九号  
往電第三四五号ニ閲シ

今朝ノ支那紙ニ依レハ国民政府ハ我方覚書ニ対シ嚴重抗議スルコトニ決シタル由ニテ右ハ二十一日袁良ノ手ニ依リ起草セラレ二十二日黃鄂ヨリ政府會議ニ提出付議セラレタル処蔣、馮、閻各総司令ノ來電ハ何レモ敵重反駁スヘントノ意見ナリシニ付李烈鈞之ヲ修正シタル後二十三日ノ中央政會議ニ回付シ其ノ経過ヲ待ツテ發表スル筈ニテ右反駁文ハ大体先ツ濟南事件ノ経過ヨリ筆ヲ起シ次イテ滿州ノ領土主權ニ言及シ革命軍京津滿州地方ニ到達ノ曉其ノ治安問題ハ日本人ニ於テ顧慮ノ要無シ覚書中ノ適當ノ措置ヲ取ルヘシ云々ノ一節ハ殊ニ不法ナリトシ尚日本軍ノ濟南撤退ヲ要求セルモノナリトノ事ナリ

北京、天津、青島、濟南、漢口、南京、奉天ニ転電セリ

97 昭和3年5月(23)日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

満州治安維持覚書に対する国民党内および外人記者の批評について

上 海 発  
本省 5月23日後着

第三五二号  
往電第三四五号ニ閲シ

「ソコロスキ」ヲシテ我覚書ニ対スル国民党内若手連並外人記者ノ批評ヲ搜ラシメ居リタル処其ノ報告左ノ通一、一部ノモノハ此ノ覚書提出ヲ以テ日本カ多年包藏セル滿州ニ對スル野心ヲ此ノ機会ニ達成セントスル「プログラム」ノ序幕ト為シ寧ロ張作霖ノ立場ニ同情シ若シ張カ北京ニ頑張ルニ於テハ進ンテ張ト妥協シテ日本ニ当リ其ノ野心ヲ抑制スヘント唱ヘツツアリ

二、他ノ一派ハ濟南事件ニ依リ世界ノ同情支那ヲ離レテ日本ニ向ヒタル際此ノ覚書ノ提示ニ依リ世界ハ日本ノ野心ニ心付キ其ノ同情ハ再ヒ支那ニ帰スヘク此ノ点ヨリ歡迎スヘント唱ヘツツアリ

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

三、外国人ハ当初ヨリ濟南事件ニ対シ日本ニ対シ同情ヲ表シ居リタル處近頃東方カ日本カ張作霖ヲ圧迫シテ閔外ニ追出サント努メソツアリトノ印象ヲ与へ且同通信カ頻リ

ニ北軍ノ見込ナキコトヲ宣伝シ居リ夫レカ必シモ他ノ方面ノ情報ト一致セサル点ヨリ日本政府ノ野心ハ張作霖ヲ追出シテ滿州ノ主權者タラシメ國民軍政府支那本部ノ統一ヲ実行セシメ兩者ノ間に立チテ調停者トシテ有利ノ地位ヲ占メントシツアルモノナリト解シ日本ハ此ノ政策遂行ノ為世界ニ対シテハ行過キタル干渉ナリトノ印象ヲ与ヘテ同情ヲ失ヒ支那ノ政情ハ筋書き通リノ發展ヲ許サス結局手ヲ焼き、得ル所ナクシテ終ルヘシト觀察シツアリ云々

在支公使、奉天、南京、漢口、廣東へ転電セリ

98 昭和3年5月(25)日 在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛(電報)

馮玉祥代表と称せらるる薛篤弼の満州治安維持覚書、濟南事件等に関する談話報告について

て

98 昭和3年5月(25)日 在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛(電報)

馮玉祥代表と称せらるる薛篤弼の満州治安維持覚書、濟南事件等に関する談話報告について

て

一、濟南事件ニ關シテハ未タ詳報ヲ得サル為即断シ難キモ三日ノ事件ハ兎ニ角八日ノ攻撃ハ実ニ遺憾ナリ日本側ニケリ)

持ハ前回ノ通鹿鐘麟ヲ衛戍司令ト為スニ至ルヘキモ馮ハ河南新鄉ニ止マリテ北京入城ヲ為スコトナカルヘク閻錫山ハ不取敢入京スヘシト思考セラル之ヲ要スルニ北伐完成後ハ一党一派ノ利害ヲ考慮スルコトナク速ニ軍事ヲ終熄シ民衆ヲ塗炭ノ苦ヨリ救フノ途ヲ講セサルヘカラスト考ヘ居レリ云々

前電ノ通転電セリ

持ハ前回ノ通鹿鐘麟ヲ衛戍司令ト為スニ至ルヘキモ馮ハ河南新鄉ニ止マリテ北京入城ヲ為スコトナカルヘク閻錫山ハ不取敢入京スヘシト思考セラル之ヲ要スルニ北伐完成後ハ一党一派ノ利害ヲ考慮スルコトナク速ニ軍事ヲ終熄シ民衆ヲ塗炭ノ苦ヨリ救フノ途ヲ講セサルヘカラスト考ヘ居レリ云々

他地方ノ軍隊カ何等之ニ援助ヲ与ヘサリシニ依ルモ明カナリ福田師團長カ中國軍隊ノ態度ニ疑惑ヲ挾ミシモノナルヤ或ハ口実ヲ設ケテ復讐ヲ企テラレシニ依ルヤ之ヲ知ラサルモ多數良民ヲ含ム三千有余ノ中國民ヲ殺傷シ特ニ濟南城内ヲ砲撃セルハ人道上許スヘカラサル罪悪ト思ハサルヲ得ス(右ニ関シ本官ヨリ當時ノ事情ヲ詳細述ヘ其ノ誤解ヲ正シ置キタリ)

99 昭和3年5月25日 在中国芳沢公使より  
田中外交大臣宛

満州治安維持覚書に対する羅外交總長の回答

について

(5月31日接受)

昭和3年5月二十五日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

和平警告ニ對スル支那側回答文送付ノ件

一、首都問題ニ關シテハ北京説、南京説相半ハシ容易ニ決セス自分ハ諸般ノ關係上少ナクモ當分北京ニ遷都スルヲ可ナリト考ヘ居レリ

一、京漢線方面ノ馮玉祥軍ハ鹿鐘麟ヲ前敵總司令トシ山西軍ト協同シテ北京ヲ奪取スルノ計画ナルカ北京ノ治安維

南京  
本省  
5月25日前着  
第一五〇号

今二十三日馮玉祥代表ト称セラルル内政部長薛篤弼ノ本官ニ對スル談話大要左ノ通

一、今次ノ滿蒙問題ニ關スル声明並京津增兵ニ付テハ我國民中日本ノ真意那辺ニアルヤヲ疑フ者多シ即チ張作霖ヲ援助シ滿蒙ヲ其ノ領土ト為スノ野心アリトノ疑惑ヲ懷キ居ルカ自分ハ滿蒙ニ對スル日本ノ特殊利益關係ニ付テハ充分之ヲ認メ且日本カ些ノ領土的野心ヲモ有スルモノニアラサルヲ信シ居ルモ既ニ一般國民ニ於テ前述ノ如キ誤解ヲ懷キ居ルヲ以テ今後トモ増援軍隊ノ配置行動ニ付テハ充分ノ考慮ヲ加ヘラレタキモノナリ(本官ハ政府御訓示ノ次第ヲ詳述シ且京津一帯ニ於ケル各國軍隊ノ警備組織ヲ語リ張作霖援助等ノ事實アリ得ヘカラサルコト並英、米其ノ他ノ兵ハ日本ノ夫ニ比シ遜色ナキ旨ヲ告ケ置ケリ)

一、濟南事件ニ關シテハ未タ詳報ヲ得サル為即断シ難キモ三日ノ事件ハ兎ニ角八日ノ攻撃ハ実ニ遺憾ナリ日本側ニケリ)

持ハ前回ノ通鹿鐘麟ヲ衛戍司令ト為スニ至ルヘキモ馮ハ河南新鄉ニ止マリテ北京入城ヲ為スコトナカルヘク閻錫山ハ不取敢入京スヘシト思考セラル之ヲ要スルニ北伐完成後ハ一党一派ノ利害ヲ考慮スルコトナク速ニ軍事ヲ終熄シ民衆ヲ塗炭ノ苦ヨリ救フノ途ヲ講セサルヘカラスト考ヘ居レリ云々

持ハ前回ノ通鹿鐘麟ヲ衛戍司令ト為スニ至ルヘキモ馮ハ河南新鄉ニ止マリテ北京入城ヲ為スコトナカルヘク閻錫山ハ不取敢入京スヘシト思考セラル之ヲ要スルニ北伐完成後ハ一党一派ノ利害ヲ考慮スルコトナク速ニ軍事ヲ終熄シ民衆ヲ塗炭ノ苦ヨリ救フノ途ヲ講セサルヘカラスト考ヘ居レリ云々

他地方ノ軍隊カ何等之ニ援助ヲ与ヘサリシニ依ルモ明カナリ福田師團長カ中國軍隊ノ態度ニ疑惑ヲ挾ミシモノナルヤ或ハ口実ヲ設ケテ復讐ヲ企テラレシニ依ルヤ之ヲ知ラサルモ多數良民ヲ含ム三千有余ノ中國民ヲ殺傷シ特ニ濟南城内ヲ砲撃セルハ人道上許スヘカラサル罪悪ト思ハサルヲ得ス(右ニ關シ本官ヨリ當時ノ事情ヲ詳細述ヘ其ノ誤解ヲ正シ置キタリ)

一、首都問題ニ關シテハ北京説、南京説相半ハシ容易ニ決セス自分ハ諸般ノ關係上少ナクモ當分北京ニ遷都スルヲ可ナリト考ヘ居レリ

一、京漢線方面ノ馮玉祥軍ハ鹿鐘麟ヲ前敵總司令トシ山西軍ト協同シテ北京ヲ奪取スルノ計画ナルカ北京ノ治安維

(別添)

照会 成字第九二号

外交總長羅

貴公使近向本国

貴公使即希迅達

貴國政府為荷須至照會者

右照會  
大日本國欽命駐華全權公使 芳沢  
中華民國十七年五月二十五日

大元帥表陳意見略称企望中國戰亂從速終熄而見統一和平惟動亂現將波及京津地方東三省亦將受其影響苟有擾亂該地治安或發生何等擾亂之原因日本政府應極力攔阻故戰亂進展將及東三省時日本政府為維持東三省治安起見或不得不採取適當且有効之措置等語並在各報發表查

貴國政府以友誼關係希望中國戰事早日息止與本國

大元帥佳日通電休兵息民之意正相符合本公司固深表感謝之忱惟所稱以動亂行將及於京津影響東三省地方不得不採取適當且有効之措置一節本公司斷難承認而有切實之聲明者東三省及京津地方均為中國領土主權所在不容漠視無論現在各該地安謐如常即使蒙何影響所有外僑安全本公司自負保護之責深盼

貴國政府鑒於濟南不祥事件之發生勿再有不合國際慣例之措

(訳文)  
以書翰致啓上候陳者最近貴公使ハ本公司大元帥ニ向ツテ大要「中國ノ戰乱速ニ終熄シ統一セル和平ヲ見ムコトヲ希望ス然ルニ今ヤ動乱京津地方ニ波及セムトシ滿州亦將ニ其ノ影響ヲ被ラムトスル処苟モ同地方ノ治安ヲ紊シ若ハ之ヲ紊スカ如キ原因ノ發生ニ對シテハ日本政府ハ極力之ヲ阻止セムトスル所ナルカ故ニ戰乱発展シ將ニ滿州ニ及ハムトスル場合ニハ日本政府ハ滿州治安維持ノ為適當ニシテ且有効ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアルヘシ」トノ趣旨ヲ陳述セラレ同時ニ此ノ旨各新聞ニ発表セラレ候  
查スルニ貴国政府カ友誼的關係ヲ以テ中國ノ戰事ノ速ニ終熄セムコトヲ希望セラルル点正ニ本公司大元帥ノ九日付ヲ以テ發セラレタル休兵息民ノ通電ノ趣旨ニ合致スルモノニ有

之固ヨリ本公司ノ深ク感謝ノ意ヲ表スル所ニ有之候然レ共御申出ニ係ル動乱京津地方ニ及ヒ滿州地方ニ影響ヲ來サムトスル場合ハ適當ニシテ且有効ナル措置ヲ執ラサルヲ得ストノ点ハ本公司ノ断シテ承認シ難キ所ニ有之且滿州及京津地方ハ均シク中國ノ領土ナルヲ以テ主權ノ関スル所之ヲ默過シ得サルコトヲ切実声明スルモノニ有之候現在當該地方ニ於ケル安寧カ平常ノ如クナルト何等影響ヲ被ルトニ論ナク外國居留民ノ安全ハ本公司ニ於テ自ラ保護ノ責ニ任スヘキ次第ニ有之候就テハ貴國政府ニ於テ濟南ニ於ケル不祥事件ノ發生ニ鑑ミ此上國際慣例ニ違背スルカ如キ措置ヲ執ルコトナク以テ中日兩國間固有ノ親交ヲ保持セラルル様致度切望ニ堪エス候右至急貴國政府へ御伝達相成度此段照會得貴意候 敬具

中華民國十七年五月二十五日

羅外交總長

芳沢公使宛

満州治安維持覺書に対する外交部ステートメントについて  
第七四六号  
北京 本省 5月26日後着 発

往電第七四五号ニ関シ

外交部ハ二十六日当地新聞ニ「ステートメント」ヲ發表セルカ其ノ内ニハ本月十八日日本側覺書(末段「然レトモ交戦者ニ対シ」以下ヲ除ク)及二十五日支那側回答全文ヲ掲クルト共ニ「日本ノ採ラムトスル行動ハ一九二二年華府九國条約ニ於ケル二原則即チ列國ハ支那ノ獨立主權並ニ其ノ領土的及行政的保全ヲ尊重スルコト及特別ノ権利又ハ特権ヲ求ムル為支那ニ於ケル状勢ヲ利用スルコトヲ差控フルコトヌル原則ニ違反スルモノニシテ支那國民ノ遺憾トスルナリ」ト述ヘ居レリ

上海、南京、奉天ニ転電シ廣東ニ暗送セリ

~~~~~

満州治安維持覚書に対する回答案等に関する

李烈鈞の談話について

満州治安維持覚書に対する回答案等に関する

南京 奉
本省 5月28日前着

第一六〇号

昨二十六日ノ中央党部會議終了後譚延闔、張靜江等午後二時発徐州ニ赴キタル處右ニ関シ李烈鈞ハ左ノ通本官ニ語レ

リ

一、蔣介石ハ不日出發京漢線方面ニ赴キ第一、第三、第四集團軍ヲ統帥ノコトトナリ暫ク徐州ニモ帰リ來ラサルニ付蔣介石等ノ意見ニ基キ作成セル我覚書ニ對スル回答案ノ外、内政軍事ニ關スル諸問題等ト諒解ヲ遂クル為譚延闔等ヲ特派セシ次第ナリ

一、覚書ニ對シテハ各様ノ提案アリタルモ結局(一)国民革命ノ目的ヲ叙シ干戈ニ懃フルハ已ムヲ得サルニ出テタルコト(二)從テ速ニ統一ヲ完成シ軍事ヲ終熄シテ自國民ハ勿論居留外国人ノ幸福ヲ計ルコト(三)満州治安維持ニ付テハ自國民當然之ニ任スヘク外國ノ力ヲ藉ルヲ要セサルコト(四)日本ニ於テ適當有効ノ措置云々ハ内政干渉ナルコト等ヲ

一、外交部長トシテハ王正廷ニ對シ相當反対アリ未タ決定セス若シ日本關係ニシテ相當ノ人物アリ承諾セハ勿論王正廷起用ハ問題トナラス忌憚ナク言ヘハ田中内閣ノ存在中ハ同内閣ノ既往ノ遣口ニ鑑ミ親日家ハ何人モ責任アル地位ニ就クヲ欲セサルナリ

一、松井中将来滬ハ頗ル結構ナリ多方ニ理解ヲ有スル同中將及若杉課長トモ当地方迄來遊サルルヲ得ハ誠ニ好都合ト存ス是非御伝ヘヲ請フ

一、福州排日取締ニ付テハ中央党部ヨリモ昨二十六日地方党部ニ對シ嚴重ナル命令ヲ發セリ(序乍ラ往電第一五七号當地「ボスター」ハ昨二十六日夜全部剝取りタリ)

一、松井中将ヨリ張群ヲ通シ奉天撤退ノ場合南軍之ヲ追撃セサルヘキヤ問合セ来リタルニ付勿論追撃セサルノミナラス奉派ト雖我主義主張ニ一致シ國政變理ニ當ルノ意アラハ之ヲ歓迎スヘシト申送置ケリ

前電ノ通転電セリ

上海ヨリ廣東ニ轉電ヲ請フ

102 昭和3年5月(29)日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

満州治安維持覚書に対する国民政府の回答提

出および口頭による極秘申出事項について

別電

五月二十九日付在上海矢田總領事より田中外

務大臣宛第三六四号

同覚書に対する国民政府の回答

上海 奉
本省 5月29日後着

(1) 第三六三号(至急、極秘)

二十九日正午金交渉員ハ陳秘書同伴本官ヲ來訪シ外交部ノ命ニ依リ日本政府ノ覚書ニ對スル国民政府ノ回答ヲ齋シタ

リト告ケ別電第三六四号ノ覚書ヲ朗読シ陳ヲシテ日本語ニ通訳セシメタルニ付本官ヨリ右直ニ本国政府ニ電報スヘキカ貴方ニ於テハ何日發表スル考ナリヤト質問シタルニ右覚書ハ本日付ニテ本日午後新聞社ニ供給スヘキニ付明三十日ノ紙上ニ發表サルヘシト述へ但別ニ極秘トシテ特ニ口頭ヲ以テ申上ケタキ事項アリトテ原稿ヲ取出シ朗讀シタルニ付其ノ交付ヲ受ケタシト要求セルニ之ヲ拒絕シ左ノ如ク陳述セリ

貴政府ハ度々山東ニ出兵シ我國ノ主權ヲ侵害シ不幸事件ヲ惹起スルニ至レリ右ハ我全國國民ノ憤慨スル処ニシテ貴政府ニ對シ無限ノ遺憾ヲ抱ク処ナリ然レトモ我國政府ハ両國ノ邦交ヲ顧念シ民衆ヲ勸導シ本件ヲ外交的ニ解決セントセリ右ハ獨リ我國ノ為ノミヲ計リタル次第ニ非ス全ク両國ノ為ト信シタルカ故ナリ今ヤ我軍京津地方ニ進ミタル際貴國ハ東三省ノ治安維持ノ為適當且有効ナル措置ヲ取ルヘキ事ヲ提議セラレタルカ右ハ実ニ國際公法ヲ破壞シ武力ニ依ル内政干涉ニ外ナラサルニ付断シテ承認スルコト能ハス日本政府斯ル態度ヲ執ラレタル真意ハ了解ニ苦シム處ナリ将来我軍カ何レノ地迄進展スルトモ適當ノ方法ニ依リ力ヲ尽

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

シテ外国人ノ生命財産ハ之ヲ保護シ其ノ安全ヲ確保スヘシ
特ニ貴國政府ニ対シ希望スルハ我主権ヲ侵害セラん事之
ナリ這ハ實ニ両国ノ邦交ヲ保全センカ為ナリ我政府ハ武力
統一ヲ計ルト雖奉天軍カ若シ或ル時期ニ至リ覺悟スルニ於
テハ我國民軍ノ進行ヲ適當ノ程度迄ニ止ムヘシ
依テ本官ヨリ右陳述中ニ種々疑義アリ例へ奉天軍ノ覺悟
トハ如何ナル意味ナリヤ之ヲ具体的ニ申セハ戰ハスンテ閑
外ニ引揚クル事ヲ意味スルヤト反問シタルニ金ハ英語ニテ
其ノ点ハ明答頗ル困難ナリト答ヘタルヲ以テ本官ヨリ然ラ
ハ覺悟ト言フ文字ヲ英語ニテ何ト訳スルヤト突込ミタルニ
覺醒（アウエーク）ト答ヘタルニ付本官ハ狀況ノ自覺（リ
アライズ）ニハ非サルヤト折返シ質問セルニ金ハ全ク貴下
ノ訳當レリト述ヘ之ニ付ケテ自分ハ全然個人ノ意見ナルモ
次ノ二点ヲ付言シタシトテ

一、国民政府ハ既ニ最上ノ目的達成シタリト認ム換言スレ
ハ既ニ最後ノ目的地（ファイナル、デスチネーション）
迄殆ト到達セリ

二、奉天軍ニ於テ自覺（カム、ツー、センセス）スルニ於
テハ國民軍ノ閔スル限り此レ以上ノ軍事行動（ミリタリ
ムカ為ニ已ムヲ得ス軍事行動ニ出テ既ニ發展シテ最後ノ段
階ニ到レリ国民政府ハ最近期間ニ必ス支那ノ和平統一ヲ実
現スヘク軍区域事前ノ手配ト臨機ノ保護ニ対シテハ當然周
密ナル注意ト設備ヲ為スヘシ商務繁昌シ在留外人多数ナル
東三省方面ノ治安問題ニ対シテハ国民政府ハ適切ナル方法
承認シ難キ處ナリ深ク望ム貴國政府カ両国ノ永久的親善ノ
相互ニ領土主権ヲ尊重スル原則ニ違背シ国民政府ノ断シテ
承認シ難キ處ナリ深ク望ム貴國政府カ両国ノ永久的親善ノ
為ニ一切ノ友好關係ノ発展ヲ妨害スル行動ヲ避免スル様計
ラレムコトヲ

転電先往電第三六三号ノ通

103 昭和三年五月廿九日 田中外務大臣より
在米國松平大使宛（電報）

滿州治安維持覚書に關し滿州に保護領設定な
どの意向は全くなき旨米国大使に説明につい
て

付 記 昭和四年一月 亜細亜局

滿州治安維持覚書に対する米英の態度

第一二二号

本省 5月29日後1時30分發

（別電）

上海 発
本省 5月29日後着

第三六四号（大至急）

五月十八日接受ノ覚書閱悉セリ弊國人民ハ自身ノ痛苦ヲ除
去セムカ為ニ政治ヲ改革シ以テ我国ノ永久的和平ノ統一ヲ
實現シ人民ヲシテ居ニ安ンシ業ヲ樂マシメ支那在留外人モ
亦其ノ幸福ヲ増進スルヲ得シムルヲ期シ此ノ希望ニ到達セ
ムカ為ニ已ムヲ得ス軍事行動ニ出テ既ニ發展シテ最後ノ段
階ニ到レリ国民政府ハ最近期間ニ必ス支那ノ和平統一ヲ実
現スヘク軍区域事前ノ手配ト臨機ノ保護ニ対シテハ當然周
密ナル注意ト設備ヲ為スヘシ商務繁昌シ在留外人多数ナル
東三省方面ノ治安問題ニ対シテハ国民政府ハ適切ナル方法
貴電第一七六号ニ關シ

二十六日米国大使ノ來省ヲ求メ不戦條約案ニ対スル回答ヲ
手交セリ序ヲ以テ本大臣ヨリ新聞通信員ニシテ國務卿ノ所
言ヲ誤報シ来ルモノモアリタルカ其後松平大使ヨリノ報告
ニ依リ右ハ全ク通信員ノ誤解ニシテ國務卿ニ於テハ良ク帝
國ノ立場ト態度ヲ諒解セラレ居ルコト明カトナリタルハ欣
快ニ堪ヘ斯本件覚書ノ真意ハ屢次説明ノ通

(一)滿州治安ノ乱サルコトハ我在留民ノ多数ナルコト滿鉄
其他我方企業ノ被ル經濟上ノ損害多大ナルヘキコト並其秩
序紊亂ハ直ニ我朝鮮統治ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ホスコト
等ニ鑑ミ帝国政府ノ到底認容シ得サル所ナリ

(二)右ノ如クシテ秩序ヲ維持セラル滿州ハ之ヲ以テ日、
支、外人ノ為安住ノ地タラシメ又機會均等主義ノ最モ完全
ニ行ハルル地域タラシメ以テ其經濟的發展ヲ完カラシメン
ト欲シ居レリ

(三)尚之ハ特ニ貴大使ノミニ御話スル所ナルカ日本トシテハ
滿州ヲ隔テ露西亞アルコトハ常ニ忘ル能ハサル所ニシ
テ同地方ノ治安亂ルトキハ必スヤ露西亞トノ間ニ紛争ヲ
誘起スルニ至ルヘク此見地ヨリ言フモ日本トシテハ滿州ノ

ト述ヘタリ右ハ國民軍ハ奉天軍撤退スルナラハ追撃セス閑
外ニ進出スルコト無シト婉曲ニ声明セルモノト認メラル
北京、天津、青島、濟南、漢口、南京、廣東、奉天ヘ転電
セリ

秩序ヲ常ニ全カラシメ之ヲ以テ露西亞トノ間ノ一ノ安全地
帶タラシメ置ク必要アリ

以上ノ見地ヨリ帝国ノ態度ヲ支那南北ニ一層明瞭ナラシメ
置カン為今回ノ申入ヲ為シタルモノニシテ滿州ニ我カ保護
領ヲ設定セント云フカ如キ意図ハ全然ナキ次第ナルニ付貴
大使ニ於テハ此上トモ本国ニ對シテ右我方ノ真意ヲ徹底セ
シメラル様尽力アリタキ旨述へ置キタリ御含迄

英ニ転電シ英ヨリ仏、独、伊、露、白ニ転電セシメラレタ
シ

(付記)

昭和四年一月 西緬甸局

滿州治安維持ノ覚書ニ對スル米英ノ態度

一、米国ノ態度

滿州治安維持ニ關スル昭和三年五月十八日ノ帝國政府覚
書ニ對シテハ東京方面ヨリノ通信ニ依リ我方真意瞭ラカ
トナルト共ニ北京政權平穩裡ニ授受セラレ京津方面モ動
乱ノ波及ヲ免カレ為ニ同地方在住外人ノ生命財産安全ナ
ルヲ得ルヤ米国新聞モ大体我方措置ヲ以テ必要已ムヲ得

之ヲ曲解シテ自分カ日本ノ行動ヲ非難シタルカ如ク通
信シタル者アルコトハ甚タ心外ナリト述へ置キタル
旨ヲ語リ更ラニ

前回会見ノ節記者ノ質問中滿州ハ支那ノ領土ナリヤト
云フカ如キ質問アリタルニ對シ支那ノ領土ナリト答ヘ
タルニ是亦曲解シテ日本ヲ非難シタル如ク伝ヘタルモ
ノアルハ頗ル遺憾ナリ

ト繰返シ述ヘタル趣ナリ

二、英國ノ態度

英國新聞ニ於テモ覺書発表ノ當初ハ我方措置ヲ以テ支那
ニ對スル干渉ナリトシ日本ハ滿州ニ於テ特殊ノ條約上ノ

権利ヲ有スルモ之ニ依リ日本ハ同地ニ對シ主權國トシテ
行動スルノ権利ヲ與ヘラレ居ラストテ攻撃的態度ニ出テ

タルモノアリタルモ其後ノ北京、京津方面ノ状勢ノ推移
ニ顧ミ漸次我方真意ヲ諒解スルト共ニ我滿州ニ於ケル特

殊ノ地位ト之ニ對スル自衛的措置ヲ認メ又北京政權ノ
授受力平穩裡ニ行ハレタルコトハ日本ノ警告ノ賜ナリト
謂ヒ一般ニ我方措置ヲ妥当且時宜ニ適シタルモノト觀ル

ニ至リタリ他方英國政府筋ニ於テモ冷静ナル態度ヲ以テ
往電第六九三号ニ閲シ

サルモノト諒解スルニ至レルカ覺書発表ノ当初ニ於テハ
上海方面ヨリノ惡宣傳ニモ影響セラレ右覺書ヲ以テ日本
ノ滿州ニ對スル保護領ノ設定乃至併合ノ意図ヲ表現シタ
ルモノニシテ華府條約ノ侵害ナリトシ我方意図ニ對シ疑
惑ノ念ヲ抱クモノ鮮カラサリシカ偶五月二十日ノ米紙中
華府通信トシテ國務長官ニ於テ日本ノ滿州ニ對スル特殊
地位ヲ否認セリ等ノ見出ノ下ニ恰カモ同長官カ我方警告
ニ對シ一定ノ声明ヲ為セルカ如キ感想ヲ与ヘタルモノナ
キニ非ス依テ帝國政府ハ在米松平大使ヲシテ五月二十二
日國務長官ニ我方真意ヲ説明セシメタル処同長官ハ

記者會見ノ際ハ種々ノ質問ヲ受ケタルカ日本ノ行動ニ
關シテハ一切ノ批評ヲ為スコトヲ避ケタル次第ニテ或
ハ質問ニ應シ條約ヲ示シタルコトハアルモ日本ノ行動ニ
ニ對シ何等疑惑ヲ抱クカ如キ口吻ヲ洩シタルコトスラ
無シ

ト述ヘタルカ更ラニ五月二十四日松平大使ニ對シ國務長
官ハ

今朝ノ記者會見ニ於テ過日會見ノ折自分ハ日本今回ノ
措置ニ對シ何等批評ヲ加フルヲ避ケタルニ拘ラス或ハ
ニ對シ何等疑惑ヲ抱クカ如キ口吻ヲ洩シタルコトスラ
無シ

二、英國の態度

大体我方措置ヲ諒解シタルモノノ如ク即チ五月二十三日
英國下院ニ於テ労働党議員ヨリ日本今回ノ措置ニ付事前
ニ協議アリタリヤトノ質問アリタルニ對シ尙外相ハ五月十
七日在日本英國代理大使ハ田中首相ヨリ日本カ戰禍ノ滿
州波及防止ノ為必要ノ措置ヲ執ルヘキ旨ノ説明ヲ受ケタ
ル次第ヲ答ヘ更ニ労働党議員ヨリ滿州ノ地位カ日本ノ保
護權設定ニ依リ变更セラルルカ如キ虞ナキヤ並此ノ地位
ニ於ケル英國ノ商業上ノ権利保全ニ付日本ヨリ保障ヲ取
付ケタリヤラ質シタルカ外相ハ右ノ如キ虞アルヲ知ラス
ト答ヘタル趣ナリ

104 昭和3年5月(30)日 在中國芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

奉天軍が出陣する時は追撃せず京津間の治安
は閻錫山が担任する旨の姚震の談話について

北京 本省 5月30日後着

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

二十六日姚震來訪南桂馨ヨリ二十四日付書翰ヲ昨夜受取り
タリトテ提示セルカ右ニ依レハ閻錫山ハ例ノ秘密協定(往
電第六五〇号)第四項ニハ異存ナク蔣介石モ亦同意セリ若
シ奉天軍カ此ノ際出閻スル時ハ追撃セス京津間ノ治安ハ閻

錫山カ担任シ馮玉祥ハ之ニ与カラス此ノ旨芳兄(本使ノ事
ヲ指スモノナリト言フ)ニ伝達セヨトアリ姚ハ尚語ヲ継キ
テ張作霖カ唯今出閻セサル時ハ後日自ラ追撃セサルヲ得サ
ルカ故ニ若シ今出閻スルナラハ閻錫山ニ追撃中止方ヲ申入
ルルノ必要アリ就テハ如何ニ思ハルルカト問ヘルニ付本使
ハ日本政府ノ訓令ニ依リ張作霖ニ覚書ヲ交付シタルカ夫レ
以上張ニ出閻セヨトカ或ハ閻ニ追撃ヲ中止セヨトカ立入り
タル措置ヲ執ルノ地位ニ非スト体好ク応酬シ置キタリ次テ
二十九日姚ハ再ヒ來訪シ右ニ対シ更ニ本使ノ意向ヲ聴ク処
アリタルニ付本使ハ唯今奉天軍ハ戦争中ナルカ故ニ引揚ケ
ノ勧告ヲ為スカ如キハ事實出来サル相談ナリ又閻錫山カ京
津間ノ治安ニ任スト言ハルモ南京辺リヨリハ馮玉祥軍カ
先ツ入城スヘシトノ情報伝ハレリト答ヘタルニ姚ハ閻錫山
ヨリ南桂馨宛ノ電信ヲ示シタルカ右ニ依レハ

一、奉天軍カ京奉線ニ敗退スル時ニ第一(蔣介石)第二

(2) 奉天ニ転電シ天津ニ暗送セリ

奉天ニ転電シ天津ニ暗送セリ

105 昭和3年5月30日

田中外務大臣より
在奉天林總領事宛(電報)

滿州治安維持覚書に関する方針に変更なき旨

訓令

本省 5月30日後4時30分発
田中外務大臣より
在奉天林總領事宛(電報)

第七六号(極秘)

貴電第二四五号ニ閻シ

政府ノ方針カ東三省ノ治安維持ヲ目的トシ南北両軍ニ対シ
厳正中立ノ態度ヲ持スルニ在ルコトハ覚書記載ノ通リニシ
テ何等変更ナシ

北京ニ転電アリ度シ

(別紙)
節略

106 昭和3年5月30日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛

滿州治安維持覚書に対する国民政府の回答進

達について

公信第四五一號

(6月5日接受)

(馮玉祥)及第四(武漢)集団軍カ同線ニ沿ヒテ之ヲ追
撃スル場合外交團ハ異議ヲ唱フルヤ否ヤ

二、第三集団軍(閻錫山軍)カ北京ニ乗込ム事ニ対スル外
カ同線ノ西方ヨリ攻メ京津地方ニ乗込ム事ニ対シ外交團

ハ異議ヲ唱ヘサルヤ否ヤ

トアリ姚ハ右第二ノ点ヲ指摘シテ北京ニ乗込ムハ馮玉祥軍
ニ非スシテ閻錫山軍ナリト繰返シ尚本使ニ対シ張作霖ニ出
関方勧告ヲ要求スル處アリタルカ本使ハ十日前即チ只今ノ
戰闘開始前張作霖トノ會見ノ印象ヨリ察スレハ目下閻錫山
軍ト奉天軍ト戦争シ居ル今日張作霖ニ出閻ノ勧告ヲ為スモ
何等ノ効果無カルヘク又本使ノ立場トシテモ為シ得サル處
ナリト婉曲ニ断リタルニ姚ハ此ノ際閻錫山ノ入京ニ対シ外
交團ハ如何ナル態度ヲ取ルヘキヤトカ或ハ我方ヨリ閻錫山
ニ発シタル十八日ノ覚書ニ対シ閻ヨリ回答ヲ発スルニ当リ
其ノ回答中ニ張作霖ヲ追撃セサルコトヲ記載スル場合ニハ
張作霖ニ出閻ヲ勧告スルヤトカ種々質問ヲ試ミ何トカ本使
ヲ引入レントシタルモ当ラス障ラス然ルヘク応酬シ置ケリ

五月十八日交到覚書業已閱悉敝國人民為解除本身之痛苦而
有改革政治之舉以期實現我國之永久和平與統一使人民得以
安居樂業而僑居中國者亦得增進其幸福為欲達到此期望不得
已而採取之軍事行動現已發展至最後階段國民政府相信最近
期間必可實現中國之和平統一對於軍事區域事前之布置與臨
時之保護自當為周密之注意與部署東三省方面商務繁盛外僑

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死關係

衆多国民政府對於該地治安問題將以妥善之方法使中外人士咸得安全之保護此国民政府自有之責任第貴國覚書中有為維持東三省治安起見或將不得已採取適當而且有効之措置等語此等措置易涉中國之内政且與國際公法上列國相互尊重領土主權之原則顯相違背国民政府万難承認深望貴國政府為兩國之永久親善計避免一切妨礙友好關係發展之行動須至節略者

中華民国十七年五月二十九日

(訳文)

五月十八日接受ノ覚書閱悉セリ敵国人民ハ自身ノ痛苦ヲ除
去センカ為ニ政治ヲ改革シ以テ我国ノ永久的平和ト統一ヲ實現シ人民ヲシテ居ニ安ンシ業ヲ築シマシメ支那在留外人モ亦其幸福ヲ増進スルヲ得シムルヲ期シ此期望ニ到達セんカ為ニ已ヲ得ス軍事行動ニ出テ既ニ発展シテ最後ノ階段ニ至レリ国民政府ハ最近期間ニ必ス支那ノ和平統一ヲ實現スヘク軍事区域事前ノ手配ト臨機ノ保護ニ対シテハ當然周密ナル注意ト設備ヲ為スヘシ商務繁昌シ在留外人多数ナル東三省方面ノ治安問題ニ對シテハ国民政府ハ適切ナル方法ヲ講シ内外人士ヲシテ總テ安全ノ保護ヲ得シムヘシ之レ国民

天津へ暗送セリ

大變、吳炳章、江瀚等カ幹部ナルカ昨日大元帥ハ王士珍ヲ招キ此ノ会ノ責任ヲ取ル様依頼アリタリ只今警官中信用シ得ル者千八百人ニ過キス多分此ノ会カ主トナリテ治安維持ニ當ル模様ナリ

昭和3年6月(1)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖外交団に北京撤退を言明について

第七七八七号

本省 6月1日後着

北 京 発

天津へ暗送セリ

大變、吳炳章、江瀚等カ幹部ナルカ昨日大元帥ハ王士珍ヲ招キ此ノ会ノ責任ヲ取ル様依頼アリタリ只今警官中信用シ得ル者千八百人ニ過キス多分此ノ会カ主トナリテ治安維持ニ當ル模様ナリ

昭和3年6月(1)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖外交団に北京撤退を言明について

第七七八七九号ニ閲シ

本省 6月1日後着

北 京 発

天津へ暗送セリ

六月一日午後三時半各國公使全部及公使館付陸軍武官並ニ漢文參贊(本使ハ建川武官及有野同伴)大元帥府居仁堂ニ參集シタル處張作霖ハ大要

「余ハ東三省ニ於テ多年保境安民ニ力ヲ致シ入京以来モ何等政治的野心ヲ有セス専ラ赤禍討伐ニ努メ内外人ノ保護及治安ノ維持ニ努力シタルカ不幸ニシテ政治上充分ノ成績ヲ

政府本来ノ責任ナルカ唯タ貴國覚書中東三省ノ治安ヲ維持センカ為メニ或ハ止ムヲ得ス適當且有効ノ措置ヲ採ルヘシ云々トアル處之等措置ハ支那ノ内政ニ干渉シ且明カニ國際公法上列國相互ニ領土主權ヲ尊重スルノ原則ニ違背シ国民政府ノ断シテ承認シ難キ所ナリ深ク望ム貴國政府カ両國ノ永久的親善ノ為ニ一切ノ友好關係ノ發展ヲ妨碍スル行動ヲ避免スル様計ラレントコトヲ

江蘇交渉公署

107 昭和3年6月(1)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

北京に治安維持会成立の情報について

第七七八六号

本省 6月1日後着

北 京 発

往電第七七九号ニ閲シ

六月一日六国代表者會議ノ席上米國公使ハ或ル米国人(多く「ウイリアム」)ヨリノ書翰ヲ披露シタルカ其ノ要旨ハ予テ中國慈善救濟會ナルモノ成立セルカ右ハ名義ハ救濟會ナレトモ實ハ治安維持會ニテ王士珍、江朝宗、熊希齡、汪

拳ヶ得サルノミナラス赤禍討伐亦予期ノ結果ヲ齎ラスニ至ラサリシハ誠ニ遺憾トスル處ナリ嚮ニハ屏息争ノ通電ヲ發シ全軍ヲ後退セシメタルハ全ク軍民ノ苦痛ヲ見ルニ忍ヒ速ニ内乱ヲ收拾シ累ヲ在留民ニ及ボサラン事ヲ希ヒタルカ為ニシテ今ヤ此ノ趣旨ニ基キ兵ヲ収メントスルニ際シ余ノ苦衷ハ各位ノ充分諒解セラルル処ナルヘシト信ス将来再ヒ北京或ハ東三省ニ於テ再会ノ機会アルヘキ処茲ニ既往一年間ニ於ケル各位ノ厚誼ヲ謝ストノ趣旨ヲ述ヘ右ニ対シ和蘭公使外交団ヲ代表シ簡単ニ各國在留民保護ニ対シ努力セラレタルヲ謝スル旨答ヘタリ」

要スルニ右張ノ挨拶ハ北京引揚ノ決心ヲ披露シ同時ニ外交団ニ対スル留別ノ意味ヲ表シタルモノト認メラル

哈爾賓、吉林、天津、奉天、上海、漢口、青島、濟南、廣東、福州へ転電セリ

本省 6月1日後着

北 京 発

天津へ暗送セリ

大變、吳炳章、江瀚等カ幹部ナルカ昨日大元帥ハ王士珍ヲ招キ此ノ会ノ責任ヲ取ル様依頼アリタリ只今警官中信用シ得ル者千八百人ニ過キス多分此ノ会カ主トナリテ治安維持ニ當ル模様ナリ

昭和3年6月(2)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖撤退後の北京の治安維持策について

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

北 京 発
本 省 6月2日前着

⁽¹⁾ 第七八九号
⁽²⁾ 往電第七八七号ニ閑シ

張作霖ハ五月三十日及三十一日ニ亘リ數回開カレタル張学良楊宇霆孫傳芳及張作相等ヲ加ヘタル軍事會議及閣員及軍部將領ヲ主トセル幹部會議ノ結果到底大勢維持ノ見込無キヲ覚悟シ先般ノ和平通電ノ趣旨ヲ徹底セシムトノ理由ノ下ニ北京引揚ラ決心シタル模様ナルカ引揚後ノ政局治安維持問題ニ関シ元帥側ノ意向トシテハ内閣ヲ存続シ潘復ヲシテ一時國務ヲ摶行セシメントシタルモ潘之ヲ承諾セス次テ羅文幹ヲ國務總理トン摶政セシムヘシトノ意見出テ目下引続キ討議シ居ル模様ナル處純然タル奉天系閣員ノ大多数ハ現在ノ内閣ハ從来ノモノト異ナリ臨時のノ軍事首領タル大元帥ニ対シ責任ヲ負ヘルモノナルカ故ニ大元帥ノ引揚ト同時ニ存在ノ根拠ヲ失フモノナリトノ法理論ヲ持出シ居残リニ反対シ居リ此ノ外昨年張ノ大元帥就職當時ノ顧維鈞内閣ヲ復活スヘシトノ説モ出テ居ル由ニテ結局内閣維持問題ハ未タ決定シ居ラサルモノノ如シ

一、他方商務總会側ニテハ一昨年國民軍引揚當時ノ例ニ倣ヒ治安維持会設置ノ下相談ヲ為シツアリ若シ内閣存続シ得サル時ハ右維持会ヲ設置シ吳炳湘ヲ警察總監トシ同時ニ從來京師ノ警備ニ任シ居ル鮑毓麟（第四十七旅長）ノ軍隊ヲ一時殘留セシメ過渡期ノ治安維持ニ当ラシメントン鮑ニ下相談ヲ為シタルカ鮑ハ将来敵軍入城ノ際武装解除ヲ為サストノ保障ヲ得ルニ非サレハ同意シ得ストテ拒絶ノ態度ヲ示シ居ル為行惱ミノ状態ニアリトノ事ナルカ三十一日夜張作霖ハ王士珍ヲ招キ治安問題ノ打合セラル為シタル由ニ付前頭内閣存続ノ見込無キニ於テハ結局維持会ノ組織問題具体化スルモノト推測セラル

一、尚現在北京ノ警備力ハ前頭鮑ノ軍隊約三千（五千ノ内二千ハ前線ニ出動シ居レリ）元帥府ノ親衛隊一千五百及巡警約八千ナルカ巡警中完全ニ武器ヲ有スル者ハ三分ノ一二滿タサル模様ナリ

奉天、天津ニ転電セリ

110 昭和3年6月(2)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

往電第七九一号ニ閑シ

張作霖ハ二日二時町野ヲ本使ノ許ニ遣ハシ自分（張）ノ部下ハ決戦スル積リナルモ自分カ北京ニ在ル間ハ万事都合悪シトテ自分ニ退京ヲ迫リタル故二日深更北京発奉天ニ向フヘク退京後北京、天津間ニ決戦ヲ見ルヘキカ天津司令官ノ希望通天津二十支里以内ニハ軍隊ヲ立入ラシメス但シ天津市内ニ往復スルコトアル故大目ニ見テ貰ヒタシト伝ヘシメタリ

111 昭和3年6月(2)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

張作霖側より六月二日深更北京退去の旨通告
について

北 京 発
本 省 6月2日後着

往電第七八七号ニ閑シ

張作霖ノ挨拶ハ各国公使ニモ一般ニ告別ノ辞ト受取ラレ二日ノ新聞ニモ右様喧伝セラレ居ル處楊宇霆及張學良ハ一日朝琉璃河戰線ニ赴キ同日夜半帰京詳細戰局ノ報告ヲ為シタルカ二日會議ノ結果引揚及引揚ニ閑スル諸般ノ事項（和平通電等）ヲ決定セントスルモノノ如ク多分二日夜ヨリ三日朝ノ間ニ退京スル事トナルヘキカト察セラル

奉天、上海、天津、漢口、廣東、青島、濟南へ転電セリ

112 昭和3年6月(2)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

張作霖の離京後北京の治安維持に関する王士珍の応答振りについて

北 京 発
本 省 6月2日後着

往電第七九四号ニ閑シ

此ノ際支那側ヲシテ北京ノ治安維持ニ付出来得ル丈ノ努力

ヲ為サシムル事必要ナルト同時ニ支那側計画ノ内容ヲ詳細

承知シ度考ニテ二日王士珍ヲ往訪シ（建川武官原田副官同
伴）種々質問応答ヲ重ねタルカ王ノ述ヘタル處大要左ノ通

一、張作霖二日夜離京スヘキモ其ノ際ハ僅ニ一營余ノ護衛

隊ヲ連れ行クノミニテ其ノ余ノ部隊ハ依然残留スルニ付

明日ヨリ五日間ハ今日ノ状態ト異ナラス警備上何等ノ変

動ヲ見サルヘン

一、先発護衛隊ノ補充ハ三方面軍ヲ以テシ将来同軍離京ノ

際ハ山西軍或ハ馮軍入り来るサルヘシ併シ仮令馮軍入り

来ル事有ルモ一部ノ入城ニ止マリ大部隊ハ南苑ニ駐屯ス

ヘク又山西軍入城ノ場合治安ノ任ニ当ルハ譚慶林軍ナラ

ン

一、北京ノ治安維持ハ多数諸外国人ニ關係有ル事故自分等

ハ大責任ヲ以テ之ニ当ル決心ニテ今夜張作霖出京後明日

中ニハ治安維持会モ正式成立スヘク会長ニハ熊希齡ヲ推

ス所存ナリ

一、治安維持ニ当ル兵力ハ巡警一万一千鮑毓麟軍九千計二

万ナルカ五日以後軍隊交代等ノ際或ハ小事故ノ發生等ハ

保シ難キモ大事件ノ發生ヲ見ル事無カルヘシト觀測シ居

113 昭和3年6月2日 田中外務大臣より
在英國國佐分利臨時代理大使 在米國松平大使他
「支那情報」宛（電報）

天津、奉天へ転電セリ

合第二〇七号

北軍ハ其後保定、滄州、懷來ノ線ニ拠リテ北京、天津ノ防

本省 6月2日後7時1分発

張作霖は大勢不利なるを察し北京引揚げを決
心したる旨等の情報について

一、張作霖撤退後ノ天津地方治安維持ニ付在津反奉各派ニ
於テ山西軍及馮玉祥軍ニ対抗シ一時優勢ヲ持シ居タルカ

山西軍カ突然西北方ヨリ保定ノ背後ヲ衝キタル為京漢線方

面ノ奉天軍ハ五月三十日ヨリ琉璃河（北京ヨリ三十哩）ニ

退却ヲ開始シ其他各方面トモ後退中ナリ奉天派ト蔣介石、

閻錫山トノ妥協運動モ成立ノ見込薄ク張作霖ハ幹部會議ヲ

開キタル結果大勢不利ナルヲ察シ北京引揚ヲ決心シタル模

様ニテ六月一日各国公使及武官ニ対シ留別ノ意味ノ挨拶ヲ

為シタリ尚張作霖トノ打合ニ依リ王士珍等ノ団体北京治安

維持ニ当ル模様ナリ

一、張作霖撤退後ノ天津地方治安維持ニ付在津反奉各派ニ
ハ（）現直隸官憲中知辺多ク殊ニ總參議張冠国トハ馮玉祥
時代ノ同僚タリシ關係上人ヲ介シ素直ニ事務引継方ヲ交
渉シ居リ彼等ハ何レモ大体賛成ナルカ張宗昌、褚玉璞ノ
意見尚不明ナリ（）幹部カ素直ニ事務引継ヲ肯セサル場合
ニハ軍警下級ノモノ全部ヲ味方トシ幹部ヲ追フコトトナ

ルヘキモ其ノ手筈モ着々進行中ナリ殊ニ目下霸縣ニ在ル

孫傳芳ノ部下トハ完全ニ諒解ナリタルニ付（此ノ点極秘

トセラレタント付言セリ）万ノ場合天津ノ治安維持ニ

ハ差支無キ自信ヲ有ス

三、自分ノ閥スル限り我方部隊ハ絶対ニ租界ヲ侵シ又ハ日
本人ニ危害ヲ加フルカ如キコトナキヲ以テ万一斯ル不逞
ノ徒アリトセハ国民革命軍ト称スルモノアリトモ日本軍
ニ於テ隨時処分セラルルコト寧ロ我方モ望ム処ナリ以テ
国民革命軍カ乱ヲ計ルトノ誤解ヲ避ケタシ

114 昭和3年6月(3)日 在天津加藤總領事より
在中國外務大臣宛（電報）

張作霖撤退後の天津地方治安維持に関する張

璧国民政府代表の内話について
天津 発
本省 6月3日前着

第一二二号
国民政府代表張璧六月二日白井ヘノ内話

リ本会成立ノ上ハ日本側ノ特別ノ賛成ヲ得タシ

一、当方面ヨリ撤退スル奉天軍ハ徒步ニ依ラス全部鐵道ニ
依ル事トナルヘク其ノ順序ハ先ツ護衛隊次テ三四方面軍
トナリ其ノ撤退ニ鮮カラサル日数ヲ要スヘシ

一、同席セル王ノ參謀饒孟任ノ談話中参考トナルヘキ点ハ
北京ニ於ケル便衣隊及共產党ニ対スル取締ハ既ニ南軍首
脳者ヨリ活動中止方命令セラレタル筈ナレハ恐ラク何事
モ起ラサルヘン

四、馮玉祥側代表、山西側代表トハ連絡ヲ取リツツアルモ
彼等ハ自分ノ計画ニハ何等干与セス彼等ハ大部分ノ到着
ヲ俟チタル上政権授受ヲ実施セムコトヲ提議シツツアル
モ自分等ハ蔣介石ヨリ受ケタル使命ニ基キ一日モ早ク青
天白日旗ヲ天津ニ掲クルコトニ画策シツツアル次第ニテ
追テ定メラルヘキ地盤問題ハ自ラ別問題ナリ

北京、奉天、上海、青島、濟南へ転電セリ

115 昭和3年6月(3)日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

東三省政権に対する今後の日本の政策に関し

意見具申

北 京 発
本 省 6月3日前着

第七九六号(極秘)
張作霖ノ退京モ最早今夜ニ迫リ我方トシテモ作霖滿州へ退
去後ニ於ケル東三省ノ政権ニ付考慮スル必要アル処作霖ハ
目下滿州ニ退去スルモ下野スル意向無キモノノ如キカ故ニ
先ツ此ノ際作霖ニ下野ヲ勧告スヘキカ否カノ問題ヲ生スル

此⁽²⁾ノ遣口カ作霖ニ代フルニ何人ヲ以テスレハ果シテ緩和ス
ヘキヤ凡ソ何人ニ限ラス政権ヲ執ル前ニハ我方ニ都合好キ
モノモ政権ノ掌握久シキニ亘リ其ノ地位鞏固トナルニ及ン
テハ漸次增長シテ我方ニ不利益ナル行動ヲ為スヲ常トスル
カ故ニ我方ニ対スル圧迫ヲ減セントスレハ勢ヒ特殊権力者
ノ権力集中ヲ妨ケサルヘカラス夫カ為ニハ例ヘハ委員制度
ノ如キ合議制ヲ組織シテ一人ニ権力ノ集中スルヲ防キ(支

ノ英國ノ覚書ニ之カ適例ヲ見ルカ権力者ノ樹立ニ対シテモ
周囲ノ形勢ニ反シ自然ノ帰趣ニ逆フテ失敗セル例ハ過去ニ
於テモ鮮カラス從テ東三省ノ権力者ニ付テモ篤ト時勢ノ推
移ヲ注視シ之ニ適応シ之ヲ我利益ニ逼ク様善導スル方ヲ得
策トスルヤニ思考ス從テ此ノ方針ニ依リ進ム事トセハ張作
霖タルト学良タルト將又何人タルトヲ問ハサルナリ一言以
テ御参考ニ供ス

奉天へ転電セリ

116 昭和3年6月3日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

張作霖北京退去の状況について

別 電 六月三日付在中国芳沢公使より田中外務大臣

宛第七九八号

張作霖が北京引揚げに際して発した通電内容
について

北京 6月3日後発

從来ノ如キ日支官民ノ態度ヲ双方ニテ持続スル時ハ果シテ
右権力者カ永久ニ我方ニ都合好キモノナリヤ疑有リ特ニ万
一南方派ノ勢力カ北京ニ及フニ於テハ我希望通ノ権力者ヲ
得ル事愈々困難トナルヘシ從テ我方ノ態度トシテハ東方会
議ノ決定ノ如ク東三省ノ政情安定ハ東三省民自身ノ努力ニ
待チ東三省有力者ニシテ満蒙ニ於ケル我特殊地位ヲ承認シ
真面目ニ同地方ニ於ケル政情安定ノ方途ヲ講スルニ於テハ
帝国政府ニ於テ適宜之ヲ支持スル方策ニ出ツル外無カルヘ
シ自然ニ反セル人為的政策ノ誤レルハ一昨年十二月十八日

力満州ハ勿論内地ニ於テモ作霖反対ノ空氣可成リニ濃厚ニ
シテ此ノ際其ノ下野ヲ主張スル者鮮カラス(マサカ真実ト
ハ信セラレサルモ或ル筋ヨリノ聞込ニ依レハ出先陸軍部内
ニハ作霖滿州ニ逃走ノ場合ニハ之ヲ逮捕セントスル計画モ
有リタル由ナルカ実ハ張ハ日本側ニ不人望ナルモ北京ニ於
ケル一ヶ年半ハ治安維持ヲ実行シ北京ニ於ケル外国人ノ評
判ハ良好ニテ昨日ノ留別式後各國公使ハ総テ同人ノ別レヲ
惜ミ居タリ從テ日本軍憲ノ逮捕ノ如キ若シ事実トセハ外国人
側ニテ之ヲ非難スル事ト信ス)満州地方官ノ態度カ近來在
満本邦人ニ対シ兎角高圧的ニシテ其ノ部下ニモ楊宇霆張煥
相當蔭槐ノ如キ強反日政策ヲ執ル者有リ満州官憲ノ遣リ
口カ一般ニ我方ニ不利益トナル事有ルハ事實ナルモ

シテ此ノ際其ノ下野ヲ主張スル者鮮カラス(マサカ真実ト
ハ信セラレサルモ或ル筋ヨリノ聞込ニ依レハ出先陸軍部内
ニハ作霖滿州ニ逃走ノ場合ニハ之ヲ逮捕セントスル計画モ
有リタル由ナルカ実ハ張ハ日本側ニ不人望ナルモ北京ニ於
ケル一ヶ年半ハ治安維持ヲ実行シ北京ニ於ケル外国人ノ評
判ハ良好ニテ昨日ノ留別式後各國公使ハ総テ同人ノ別レヲ
惜ミ居タリ從テ日本軍憲ノ逮捕ノ如キ若シ事実トセハ外国人
側ニテ之ヲ非難スル事ト信ス)満州地方官ノ態度カ近來在
満本邦人ニ対シ兎角高圧的ニシテ其ノ部下ニモ楊宇霆張煥
相當蔭槐ノ如キ強反日政策ヲ執ル者有リ満州官憲ノ遣リ
口カ一般ニ我方ニ不利益トナル事有ルハ事實ナルモ

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

張作霖ハ三日午前一時十五分潘復始メ閣員ノ多数ヲ随ヘ大元帥ノ制服ヲ着シ五百ノ護衛ニ護ラレ從来政権首脳者離京ノ場合ト異リ正々堂々退京セリ市内ノ警備ハ嚴重ニシ平穩ナリ尚大元帥ハ出発ニ臨ミ別電ノ通電ヲ發セリ孫傳芳ハ出

発ニ先タチ二日午後十一時半着京セリ

天津、奉天、青島、濟南、上海、漢口、香港、廣東、福州、南京へ転電シ奉天ヨリ在満各領事へ転電セシム

(別電)

北 京 6月3日後発
本 省 6月3日後着

第七九八号(至急)別電

曩⁽¹⁾ニ内乱終熄セス外交ニ波及スル所アルヲ以テ全國ニ通電シテ各方面ノ軍事ヲ撤退シ停戦ノ意思ヲ表示セルハ既ニ周知ノ事実ナリ今ヤ彼此覺醒シテ速ニ紛糾ヲ止メ友邦ノ憂慮疑惑ヲ解キ未來赤化ノ防止ヲ期スヘキ秋ナリ然ルニ外交ノ危機愈急迫シ国内ノ争乱未タ熄マス戰禍將ニ京畿ニ及ヒ禍害ノ中外ニ及ハム数年来ノ戰塵ヨリ商業ヲ廢シ産業萎微シ百姓流離シ餓夫道ニ満ツ其ノ慘状言フニ忍ヒサ

第一二四号

六月三日午前一時二十分北京ヲ発車セル張作霖座乗ノ列車ハ同日午前五時半当地ヲ通過セリ潘復、何豊林等当地迄同乗シ来レリト

尚当地支那人間ニハ張作霖二日離京ノ噂一日來伝ハリタルモ支那街方面左シテ動搖ヲ見ス我派遣軍並ニ當館警察ニ於カス(三日午前七時)

在支公使、奉天、上海、青島、濟南、南京、漢口、廣東へ転電セリ奉天ヨリ在満各館へ転報セシム

118 昭和3年6月(4)日 在奉天林總領事より
在中外務大臣宛(電報)

張作霖搭乗列車爆破事件調査に關し現場付近
警備担当の守備隊長東宮大尉談による状況に
ついて

奉 天 発
本 省 6月4日後着

第二六五号

ルモノアリ更ニ武力ヲ用イムカ徒ニ民生ヲ苦シムモノニシテ即チ討赤ノ初志ニ反シ和平停戦ノ本旨ニ背クモノナリ先年此ノ難局ニ当リシハ元救國ノ為ナリシナリ今ヤ救國ノ志願未タ達セラレスト雖猥ニ兵ヲ用フルニ忍ヒス茲ニ諸部ヲ統率シテ京畿ヲ退却ス中央ノ政務ハ暫時國務院ヲシテ攝行セシメ軍事ハ各軍團長ヲシテ各責ヲ負ハシム爾後政治問題ハ之ヲ國民ノ裁決ニ委ス要スルニ共和國家ノ主權ハ民ニ在リ而シテ天下ノ公器ハ當局之ヲ守ル作霖ハ其ノ半生軍ニ從ヒ凡ユル世ノ変遷ニ遭遇セリ而モ民ニ利益アラムコトヲ期シ毫モ犠牲ヲ吝マス其ノ庶幾セルハ民国ノ基礎ハ作霖アルカ為ニ断タレス共產惡化ハ作霖ノ為ニ起ラサルコト之ナリ之即チ天下公生ニ罪無キヲ告クルヲ得ル所以ナリ特ニ表情ヲ披瀝シテ諒察ヲ希ハムトス(六月二日付)

117 昭和3年6月(3)日 在天津加藤總領事より
田中外務大臣宛(電報)
張作霖搭乗の列車天津通過等について
天 津 発
本 省 6月3日後着

往電第二六二号ニ閏シ

不取敢現場検証ノ必要アリト認メ當方ヨリ内田ニ八ヶ代(檢事事務取扱)警察署長其他ヲ付シ支那側ヨリ交渉署日本科長ヲ派遣シ目下現場調査中ナル處事件當時現場付近鉄道警備ニ當リ居タル我守備隊長(東宮大尉)談ニヨレハ状況左ノ通

三日午後支那側憲兵隊ヨリ我憲兵隊ニ対シ張作霖ノ列車通過ノ為皇姑屯ヨリ瀋陽駅間支那側憲兵五十名ヲ以テ警備スヘキニ付滿鐵線路ヲ日本側ニテ警備アリタキ旨申出其ノ結果兩鐵道「クロス」付近ノ我方警備ノ為守備隊ハ特ニ將校一下士以下四十六名及憲兵十二名ヲ「クロス」地點ヨリ約百五十米突南方ノ分遣所ニ配置シ三日午前八時過ヨリ滿鐵線ヲ警戒シ一方支那側ハ金憲兵中尉ノ指揮下ニ前記五十名ヲ皇姑屯瀋陽駅間ニ配置シ右京奉線路全部ノ警戒(京奉線ハ滿鐵線ノ下ヲ通過シ居ル処右「クロス」地點即チ滿鐵線ノ橋架ヲモ当日ハ特ニ支那憲兵ニテ警戒セリ)ニ任シ時々遊動的ニ警戒シ居タル模様ニテ我守備隊側ハ支那側憲兵等混合警戒シ両者間事故ヲ發生セシメテハ面白カラストノ見地ヨリ前記分遣所ニ駐メテ付近ヲ監視シ時々一、二名ヲ

巡回セシメテ支那側憲兵ト連絡ヲ保チ居タルカ午前三時半

頃右分遣所付近西方地点ニ三名ノ支那人拳動怪シキ者ヲ認メタルヲ以テ我兵之ヲ誰何シタルニ逃亡セントセシヲ以テ内二名ヲ突殺シタルカ

同⁽²⁾支那人ノ懷中ニハ露西亞式ラシキ爆裂弾ト破レタル漢字ノ手紙アリ封筒ニハ付属地彌生町ノ住所ト東三省宣撫使凌

印清ノ名前アリタリ其ノ後別段ノ異状ヲ認メス次第ニ夜白

ミ右「クロス」地点付近苦力ノ往来多クナリ（同「クロス」地点ハ平素常ニ苦力ノ往来頻繁ナリ）其ノ後別条モナ

カリシ模様ナリシ處午前五時半頃突然一大爆音ト共ニ現場付近真黒トナリタルカ間モナク現場ニテ輕機関銃四方ニ發

射セラレ（右ハ被害列車ヨリ飛ヒ降リタル支那側護衛兵ノ發射セルモノ）中一発該分遣所ニ中レル模様ナルモ我兵ハ

応射セス（右支那側ノ發射ハ我兵ヲ狙ヒタルニ非スシテ嗟

ノ際所嫌ハス發射セルモノト認ム）休ヘ居タル處暫時ニテ支那側モ射擊ヲ止メ兵ヲ収容シテ引取リタルカ一方爆裂

直後蔡憲兵司令官駆ケ付ケ之ニ自動車後続シ來リ該自動車ニ張作霖其ノ他ヲ乗セ城内方面ヘ向ヘル模様ナリ

現場ニハ苦力死体其ノ地三々五々横ハリ居リ其ノ數判明セ

乘リ居タル貴賓車次テ食堂車及寝台車ノ順序ニテ三輛残骸ヲ止メ其ノ前方東方數十間ノ地点ニ上部破壊セル鐵綱車一輛アリ爆弾ノ命中セルハ食堂車ラシク爆発ト火災ノ為鉄骨ヲ留ムルノミ貴賓車ハ屋根、窓硝子等吹キ飛サレ床ノミ残リ寝台車ハ燒尽サレタリ貴賓車中後室ニ居タル張ノ「ボイ」一名慘死シ食堂車中ニモ二三ノ死骸アルモ其ノ數未タ判明セス爆破ハ張ノ居室ヲ狙ヒタルモ其ノ隣室ト食堂車ニ外レタルモノノ如シ山領及英人顧問ノ言ニ依レハ京奉側損失約二十万円内外ノ由

二、被害列車通路ニ於ケル京奉線上ノ滿鉄線「ブリッヂ」

ハ墜落シ満鉄線不通目下取急キ仮橋建設中差当リ一町余ノ徒歩連絡ニテ列車運転満鉄側損害五六万円ノ由

三、爆薬ハ多ク車台ノ上部ヲ破損シ居レルカ果シテ何処ニ仕掛けタルモノナリヤ明朝破壊車輛取除ケノ上更ニ立会調査ノ筈

サルモ数十名ナルヘシ云々ト

尚張作霖負傷ノ外于國翰及儀峨少佐輕傷シ吳俊陞莫德惠重傷セル由ナリ尚同地点満鉄線路破壊セラレ反之京奉線ハ別条ナシ爆薬ハ前電二ヶトセシモ一個ノ誤ニテ予メ橋脚ニ裝置シ置キ電氣仕掛ニテ爆発セシメタル模様ナルカ詳細更ニ電報ス

北京、天津、上海、哈爾賓、吉林、安東、牛莊、長春、間島、齊々哈爾、滿州里、鄭家屯、鐵嶺、遼陽へ転電セリ

置シ置キ電氣仕掛ニテ爆発セシメタル模様ナルカ詳細更ニ電報ス

北京、天津、上海、哈爾賓、吉林、安東、牛莊、長春、間

島、齊々哈爾、滿州里、鄭家屯、鐵嶺、遼陽へ転電セリ

電報ス

119 昭和3年6月(5)日 在奉天林總領事より 田中外務大臣宛（電報）

張作霖搭乗列車爆破事件に関し中國側と立会い現場調査の結果について

奉天 本省 6月5日前着 発

第二七〇号
往電第^{(一)八文書}二六五号ニ閑シ

内田支那側ト立会ヒ現場調査ノ結果左ノ通

一、「クロス」橋下付近線路上ニ張作霖、吳俊陞及儀峨ノ

来ラス此際決行スヘシトノ趣旨ヲ認メタルモノニシテ他ノ二通ハ私信用紙ニ暗号ヲ以テ書シタルモノナリ死骸ハ何レモ二十才前後ノ青年ニシテ刈リタテノ青坊子頭ナリ

右ノ事実ハ便衣隊ヲ恐レ居タル支那側ヲシテ邦人側ニ対スル疑惑ヲ解カシムルニ相当ノ効力アリシモノノ如シ

五、音響及損害ノ程度ヨリ見テ爆薬ハ相當大仕掛ノモノラシク専門的技能ヲ要スル仕業ト認メラル
在支公使ニ転電セリ

120 昭和3年6月(5)日 在奉天林總領事より 田中外務大臣宛（電報）

奉天城内在留邦人の引揚げ状況について

奉天 本省 6月5日後着 発

当地城内居住邦人（平常内地人五十六戸百九十七人）ハ數

日來張作霖敗退帰奉説更ニ當地方排日風潮氣分ニ相當脅サレツツアリン為自發的ニ婦女子等弗々引揚クルモノアリン模様ナリシカ四日早朝ノ列車爆発事件直後頓ニ動搖セルヲ

以テ当館ハ人心安定ニ努力セシモ同日中自發的ニ新市街ニ引揚ケタルモノ二十六戸百二名ニ上リ目下城内ニハ警察家族モ入レ七戸三十三名居残ルノミ商埠地、十間房等ニ於テモ多少引揚ケタルモノアルモ此ノ方面ハ城壁外ニテ比較的引揚等容易ナル為多クハ尚其ノ儘居住シ居レリ

在支公使ヘ転電セリ

121 昭和3年6月(5)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖搭乗列車爆破事件に關し中國側との立
会い車輛審査の結果について

奉天 発
本省 6月5日後着

*^(電報番号次)

五日前再ヒ内田支那側ト立会ヒ車輛等取寄ノ上審査ノ結果ニ依レハ地上ニ爆薬ヲ装置シタル形跡ナク橋上ヨリ墜落セル陸橋鐵板側面ノ爆薬ニヨル位置及「ピーア」上部破損ノ状況ヨリ微シ爆薬ノ上部ニ装置セラレタルモノト認定セラレ支那側ハ橋上ヨリ下ニ吊ルシタルモノナラムト言ヘルモ或ハ橋上「スパン」付近ニ装置セルニアラスヤノ疑アリ

尚橋下ニ発見セル屍体ハ二個(前電「ボーリ」ノ外ノ分ハ女)ニシテ國務員ノ乗リタル鉄甲車内ノ屍体一個ハ自動車運転手ナリトノコトニテ其ノ他ニモ相當重傷者アル筈ナルモ支那側ハ秘シテ答へス

北京ヘ転電セリ

122 昭和3年6月5日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖の搭乗列車爆破事件に伴う時局に關する心得事項訓令

本省 6月5日後8時15分發

*第八二号

張作霖ノ帰奉殊ニ座乗列車爆破事件等ニ依リ東三省ノ事態ハ著シク機微トナリ今後ノ發展ニ付テハ充分注意ノ要アリト認メラルニ依リ申ス迄モ無キ儀乍ラ時局ノ推移ニ付テハ充分看視ヲ怠ラス機ニ応シ適宜ノ措置ヲ講セラルト共ニ状勢ハ隨時速カニ電報相成度シ他方東三省政情ノ動搖ト共ニ治安亂ルノ虞アルヘク依テ付属地ノ警戒ニ付テハ閏東長官軍司令官及滿鉄社長トモ連絡ヲトリ万違算ナキ様御

配慮アリ度ク又日本ノ行動ハ此ノ際特ニ慎重ナルヲ要スル儀ナルニ付輕率ノ行動ナキ様充分注意シ置カレ度シ御気付トハ思考スルモ為念

在満各領事ニ転電シ参考トシテ在支公使ニ転電アリ度シ

123 昭和3年6月(6)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖搭乗列車爆破後本邦人に對する中国人
の感情悪化について

奉天 発
本省 6月6日後着

アリ当館ニ於テハ此ノ際居留民ヲシテ出来得ル丈落着カセ事端ヲ繁カラシメサル様注意シ居レリ

北京ニ転電セリ

124 昭和3年6月7日 閣議

滿州治安維持のため閏東軍司令官に与える任
務等に関する閣議について

滿州治安維持ニ関スル件

昭和三年六月七日閣議ニ於テ別紙ニ付キ議シタル結果左ノ事項ヲ決定セリ

一、滿州ニ対スル兵力増加ノ必要生スル場合ノ為不取敢
運送船ヲ用意シ置キコト(本項ハ陸軍大臣ノ権限ニテ
為シ得ル所ナリ)

一、閏東軍司令官ヲシテ固有ノ任務ニ復セシムルコト即
チ別紙第一及第二ノ場合ニ対スル備ヲ為ス必要アリト
ノ頭司令官ヨリ取り去ルコト

尚右閣議後田中總理ヨリ左ノ通り森政務次官ニ話サレタル
旨同政務次官ヨリ伝ヘラレタリ

別紙第一ノ場合ハ十二ツモアリ得サルヘク若シ之ア
濟南事件以来悪化セル當地方ノ排日熱ハ官憲ノ嚴重ナル取
締アリシ為比較的表面ニ現ハレス唯内攻的ニ拡マリツツア
リシカ六月四日ノ列車爆破以來誰言フトナク(支那新聞ニ
ハ本件記事ヲ禁止シアリ)支那人間ニハ之ヲ以テ日本人ノ
所為ナリトシテ宣伝セラレ本邦人ニ対スル支那人ノ心理ハ
頗る悪化シ付屬地外居住ノ本邦人亦脅威ヲ感スルモノ多ク
城内居住者ハ既ニ大部分自發的ニ付屬地ニ避難セル狀態ニ

リトルモ充分間ニ合フヘシ即チ遼河ノ辺ニテ適當ニ
処置ヲ為サハ可ナルヘシ又第二ノ場合即チ哈爾賓吉林
ニ迄派兵スルヲ要スルカ如キ場合モ起ラサルヘクスカ
ル場合ハ今日考へ置クヲ要セス

(別紙)

一、閔内ニ於ケル南北両軍ノ状況ヲ見ルニ北軍ノ引上ニ對
シ南軍ハ強イテ之ヲ追撃セサルモノ如ク從ツテ日本側
ニ於テ支那軍隊ノ大規模ナル武装解除ヲ必要トスルカ如
キ事態ハ大体ニ於テ發生セサルモノト見ルヲ得ヘキカ如
キモ政府トシテハ万一ノ場合ニ付テモ予メ相当ノ用意ヲ
為シ置クコト必要ナリ

二、然ルニ一方張作霖ノ負傷吳俊陞ノ死亡事件等ニ伴ヒ滿
州ニ於テハ一般ニ不安ノ空氣横溢シ兵變發生ノ虞絶無ヲ
保シ難キノミナラス若シ如此不安ナル空氣ニ乘シテ排日
排除ヲ煽ル者有ラハ日本人ノ生命財産ニ対シ危険ヲ感ス
ルカ如キ事態ヲ發生セストモ限ラサル状況ニ在ルヲ以テ
政府トシテハ此場合ニ對スル措置ヲモ併セテ講究シ置ク
コト必要ナリトス

陸軍ノ意見

「」ヲ左ノ通りニ修正スルコト

「大概現状ニ於テ形勢ノ推移ヲ注視シ今日ノ予想ニ反シ
若シ混亂セル大部隊ノ満州ニ進入セムトスル形勢生スル
ニ於テハ其際京奉沿線適當ノ地点ニ出動シ混亂部隊ノ武
裝解除其他必要ノ措置ヲ執ルニ努メシムルコト必要ナル
ヘク」

四、上記一及二ノ場合ニ對シ閔東軍ヲシテ適當ナル措置ヲ
講セシメムトセハ其固有ノ任務以外新ナル任務ヲ付与セ

サルヘカラサルカ此ノ場合ニ於テハ現在ノ閔東軍ノ兵力
ニテハ其任務遂行ニ不十分ナルカ故ニ適當ニ之ヲ増加ス
ル要アリ

依テ「此際閔東軍司令官ニ對シ上記ノ主旨ニ合スル新任
務ヲ付与スルト共ニ目下山東方面ニ在ル第三師団ノ一部
ヲ満州ニ移動シテ閔東軍司令官ノ隸下ニ置カントス」但
シ第一ノ場合タル京奉線方面ニ對スル派兵並ニ第二ノ場
合ノ中吉林哈爾賓方面ヘノ出動ニシイテハ外交上機微ノ
關係有ルヲ以テ此際閔東軍司令官ニ「新任務ヲ付与スル
モ政府ノ定ムル時期迄此方面ヘノ出動ハ之ヲ差控ヘシム
ルコト必要ニシテ」右時期ハ陸軍大臣外務大臣ト協議ノ
上決定ス

陸軍ノ意見

「」ヲ左ノ通り修正スルコト

「此際閔東軍司令官ニ對シ上記ノ主旨ニ合スル為ニ新任
務ヲ付与セラルル様ニスルト共ニ差当リ目下山東方面ヨ

リ所要ノ兵力並付屬部隊ヲ満州ニ増派セラルル様ニスル
ヲ急務トス」

陸軍ノ意見

第二九〇号
(二三文書)

往電第二八〇号末段ニ關シ

當地城内居住邦人五十六戸ノ内五十二戸ノ家族ハ危險ヲ慮
リ全部自發的ニ付屬地ニ引揚ケ其ノ他四戸ノ家族ハ夜間ノ
ミ付屬地ニ避難ス城内接壤地タル大小西閏及商埠地方面引

揚者ハ六日迄ニ内地人百五十二人（内鮮人総数三千二百四十九）ナリ

北京へ転電セリ

中國側に張作霖搭乗列車爆破犯人の逮捕を要求について

126 昭和3年6月(8)日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

中国側に張作霖搭乗列車爆破犯人の逮捕を要

求について

奉天 発
本省 6月8日後着

往電第二八九号末段ニ関シ七日付交渉員宛犯人逮捕要求公文要領左ノ通

四日午前五時半張大元帥ノ座乗セル京奉線列車南滿鉄道トノ交叉点ニ於テ何者カカ仕掛けタル炸薬ニ依リ爆破セラレ遺憾乍ラ張ノ負傷ヲ初メ其他死傷者ヲ出スト共ニ満鉄側ニテモ陸橋及橋脚破壊等鮮カラサル損害ヲ受ケタル處本件ハ貴我双方ノ立会審査ノ際ニモ認メラレタル如ク我守備兵ニ殺サレタル便衣隊ト思ハシキ不良貴国人一味ノ犯行ナラスアルハ事実ナリ

(一)乍併一方軍首脳部ノ意見ニ依レハ元來此ノ種ノ陰謀力成功シ得ヘキモノニアラサルハ勿論ニシテ從来邦人浪人及凌印清等カ倒張計画ニ就テハ我政府又ハ陸軍ノ援助ナクシテハ金モ武器モナケレハ成功シ得ストテ陸軍側ニ何トカ話込ミ來レルハ事実ナルモ右ニ対シテハ素ヨリ然ルヘク撥付ケ居リ何等ノ援助等ヲナシタル事ナシトノ趣ニテ右ハ当然然ルヘキモノト考ヘラル

(二)凌印清ハ我私服憲兵護送ノ下ニ密ニ大連ニ送リ本件真相取調ヘ中ノ由ナルカ右ニ関シ一説ニヨレハ凌ハ予テ楊宇霆其他支那側各方面ニ相當連絡アル模様ニテ恭親王ヲ大連ヨリ來奉セシメタルモ彼ナルカ如ク一方爆弾事件ノ際支那憲兵ノ京奉線警戒振極メテ杜漏ナリシコト、張ノ列車「クロス」通過前付近警戒ノ支那兵一部何処ニカ出掛

ヤト嫌疑セラルルニ付至急犯人逮捕及此種事件再発防止方措置セラレタシ

北京、天津、上海ニ転電セリ

127 昭和3年6月(8)日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

張作霖搭乗列車爆破事件に関する情報について

て

奉天 発
本省 6月8日着

第三〇〇号
亞細亞局長ヘ爆弾事件ニ関スル感想聞込等ニ付御含迄左ニ申進ス

(一)本官ハ着任後当地ニ於ケル後方擾乱計画ニ関シ五月十四日機密公第三六七号ノ事情モアリ近來當地方ニ種々ナル邦人所謂浪人往来シ居レル為旁反張、排日空氣相錯雜シテ各種ノ風説伝ハリ中ニハ陸軍及満鉄ノ一部ニ倒張計画ニ加ハリ居ルモノアリ等誠シヤカニ噂スルモノアリシ折柄過般ノ爆弾事件發生シタル次第ナルカ夫レカ為邦人新

ケタルコト、其他ヨリ察シ相当内部的連絡有リシニアラスヤ而カモ事件カ如何ニモ日本側カ計画セリト誤解サレ易キ地点ニ行ハレタル為彼等ノ宣伝ニ乗リ為ニ日本対張派ノ關係ヲ悪化セシメラレ彼等ニ利用セラレンカ余リノ迂闊ト言フヘク何レ凌ノ取調其他ニヨリ事件ノ真相ヲ突止ムル結果或ハ意外ノ方面ノ策動ナリシ事發見セラレ真相明トナルヘシトノコトニテ是亦尤ノコトニテ支那人中ニモ同様ノ意見ヲ有スルモノアルカ如シ

(四)然レトモ一方凌ヲ知ル邦人ノ談ニヨレハ凌ハ金モナク口ニコソ大言壯語スレスル大計画ヲ企テ得ル人物ニ非ス彼ノ目的ハ結局金ニアリ現ニ事件直後モ本人ハ一向平氣ノ態度ニテ付属地内ニ悠々シ居リ事件直前偶々凌ノ書簡頤ハレタル如キモ見方ニ依リテ寧ロ利用セラレタルモノナルヘシトノ意見ヲ有スル者モアリ

事情右ノ通リニテ本件真相ハ凌ノ取調其ノ他時日ノ経過ト共ニ或ハ判明スヘキモ右御参考迄

128

昭和3年6月8日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

在奉天黒竜江軍の対日復仇説について

(接受日付不明)

奉天 6月8日後発

機密第四一八号 昭和三年六月八日

在奉天

総領事 林 久治郎(印)

第三〇一號
(二三文書)

往電第二八〇号ニ閲シ

外務大臣男爵 田中 義一殿

現ニ当地省城付近駐在ノ支那軍隊ハ約六千、学生四千数

百、警察千四百見当ニテ右支那側軍隊中黒竜江軍ニ属スルモノ約二千三百ナルカ吳俊陞死亡以来右黒竜江軍ノ対日復仇説頻ニ伝ハリ城内付近居留民不安ノ念多ク當方ヨリハ差

減參謀長ニ面会セシメ警備方極力申入レ置ケリ支那側亦全責任ヲ負フヘキ旨言明シ居ルモ尚充分警戒中ナルカ万一一ノ

場合ハ城内居留民ハ付属方面ニ引揚ケシムル心算ナリ

北京、新民府、海竜、通化へ転電セリ

129 昭和3年6月8日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

凌印清に関する井田哲の河野副領事への談話

について

昭和三年五月二十四日午後二時半井田哲來館
談話要領

一、自分(井田)ハ營口ニ現住シ營口厚發合毓記ノ嘱託ニシテ三菱商事株式会社滿蒙總代理ナリ
一、井田ハ五月十九日岸田領事ト共ニ來奉シ日下松隆洋行ニ止宿シ居レル處三、四日中ニハ帰營ノ予定ナリ

一、凌印清トハ大正十三年以来ノ知己ナリ凌ハ約一ヶ月以

(別添)
本信写送付先 在支公使、牛莊領事
(凌印清ニ閲スルモノナリ)

別添井田哲カ當館河野副領事へ來談要領時折柄御参考迄送付ス

本信写送付先 在支公使、牛莊領事

在奉天林總領事より

前ニ保定ニ赴キ張學良及楊宇霆ニ面会シ上海其他南方ノ近況ヲ通報シタリ凌ハ元來張作霖及楊宇霆ニ對シテハ毫モ敬意ヲ表シ居ラサルモ東三省ニ或野心ヲ有スルカ為作

霖、宇霆ト連絡ヲ取リ居レリ
一、張作霖ハ凌及李景林ノ首ニ付テハ十萬元ノ懸賞ヲ付シ居レリ但シ學良、宇霆ハ南方ノ狀況ヲ知ル為ニ凌ヲ使用シ居ルモノナリ
一、凌ハ目下直隸、山東、河南三省ノ招撫使ニシテ專ラ南北ノ現勢ニ付調査ヲ遂ケツツアリ凌ハ招撫使ノ現職ニ在ル關係上南方ニ部下約一万人ヲ有シ尚銃器モ略其數量丈所有セルカ但彈薬ヲ有セス

ナル方法ニテ資金ヲ集ムヘキカ又顛覆ノ方策如何ト言フニ
(一)顛覆ハ武力ニ依ルハ不可能ナレハ金五十萬円ニテ各機関ヲ買収シ凌ノ一味ニ引入レルコト

此資金調達ハ遼陽ヨリ新邱ニ至ル運炭線敷設権ヲ支那側ヨリ得タル後之ヲ満鉄会社ニ売込ミ同社ヨリ右金員ノ調達ヲ得ルニアリ尤モ此ノ話ハ未タ満鉄ノ何人ニモ話シ居ラサルカ自分(井田)ノ從弟カ目下北京ニアリテ專ラ此ノ件ニ付研究ヲ重ネツツアリ(敷設権獲得ニ關シ奔走シ居レリ)若シ有望トナラハ満鉄ニ話ヲ持掛クル積ニテ種々考量ヲ廻ラン居レリ
(二)凌ハ五十萬円ニテ十分東三省有力機關ヲ買収シ得ル見込ナリ其買収ノ任ニハ凌ノ部下ヲ使用スル筈ニテ愈成功セハ凌自身東三省ノ首脳者トナル計画ナリ

一、自分(井田)ハ營口並ニ東三省ニ現住スル鮮人ノ境遇ニ同情シ且日本ノ對滿蒙策ニ顧ミ張作霖ノ如キ人物カ三省ノ首脳タル間ハ鮮人並ニ内地人ノ境遇ハ改善サレス又帝國ノ國威ヲモ發揚ニ至ラサルヘクスクテハ商租問題其他重要懸案ハ解決ノ望ナケレハ東三省當局ノ組織ヲ改造テ東三省ヲ治メ百政ヲ改革シテ以テ日支ノ關係ヲ増進セムトスルニ在リ
一、凌ハ目下何等事ヲ起スニ必要ナル資金ヲ有セスノミナラス其日ノ生活費サヘ十分ナラサル模様ナリ然ラハ如何

シ邦人ノ利権確保ノ必要上偶然ニモ自分ノ意志カ凌ノ計

画ニヨル目的ニ符合シ尚凌トハ久シキ旧友ナレハ是ヲ好

機ニ共同動作ヲ執ラムトスル決心ヲ見ルニ至レリ凌モ自

分モ勿論武器ニヨリ擾乱ヲ惹起セムトハ目論見居ラス全

然買収ニヨル考ナリ

一、尚自分（井田）ノ東三省組織変更ニ関スル政策綱領ハ
何レ河野ノ参考迄ニ郵送スヘン

一、井田ハ凌ノ性質等ヨリ観察スルニ凌^(マ)赤化主義ニモア
ラス又三民主義者ニモアラス全ク軍閥ヲ廢シ民福増進ノ
意志ヲ有スルモノナリ

一、井田ハ岸田領事ニ対シ自己ノ主義政策並其遂行ニ関シ
内話セシ處遼陽新邱間運炭線敷設ノ如キハ奉天管内ニシ
テ自分ノ関知セサル所ナルモ井田ノ右運炭線並計画ノ大
略ハ奉天領事館ニ通シ置クヘシトノ話アリタル次第ナリ
云々

昭和3年6月(9)日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

村岡関東軍司令官の積極政策に関する関東庁

131

昭和3年6月(9)日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

奉天城内残留邦人の保護および民心鎮撫の状況について

第三〇四号

往電第二九〇号ニ閲シ

(二五文書)

奉天 発

本省 6月9日後着

奉天城内残留邦人の保護および民心鎮撫の状況について

132 昭和3年6月(13)日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

今後の時局に關し高柳中将（満鉄社長代理）

* 第三一五号（極秘）

本省 6月13日前着

奉天 発

未タ必スシモ引揚ヲ命スル事態トモ認メ難キニ付右ノ儘ニ
テ極力保護連絡ニ努メ居ル次第ナリ

130

昭和3年6月(9)日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

村岡関東軍司令官の積極政策に関する関東庁

* 第三〇一一号（極秘）

奉天 発

本省 6月9日前着

発

関東長官ノ命ヲ受ケ連絡ノ為六月八日來奉セル大場保安課
長ハ村岡司令官ヲ訪ヒ長官ノ伝言トシテ時局ニ對スル司令

官ノ意見ヲ尋ネタルニ司令官ハ支那側ニ於テ我軍ノ威力ヲ

能ク感シ居ル此ノ際上品ナル武士道的外交方針ヲ棄テテ機

ヲ逸セス滿蒙問題解決ニ一步ヲ進ムルノ得策ナルヤヲ思フ

ニ依リ長官ノ協力ヲ望ム旨ヲ語リ大場課長ハ同夜帰任復命

スル筈ナルカ本官ハ同課長ニ對シ積極政策ハ予テ本官ノ旨

トスル處ニシテ其ノ為近ク旅順ニ赴キ長官ニ協議スル積リ

ナリシモ時局ノ為遷延シ居ル次第ナルカ本官トシテハ仮令

浪人連ノ策動トスルモ陰謀等ニ依リ事端ヲ繁カラシメ之ニ

乗ルカ如キコトハ避クルヲ得策トスル旨司令官ニ對シ屢々

語リ置キタルカ司令官ヨリハ本官ニ對シ未タ前述ノ如キ談

話ヲ為シタル事ナシト語リ聞カセ置キタリ尚本件ハ同課長

ノ立場モアルヲ以テ外部ニハ極秘ニ付セラレタシ

城内邦人居住民ハ大多数付属地ニ引揚ケ居ルモ殘留者約四十名（日ニ依リ異動アリ）時節柄種々ナル謠言ニ惑ハサレテ極度ノ不安ニ駆ラレ居ル為城内ニハ特ニ臨時増派ヲ加ヘ四十名ノ警察官ヲ以テ日夜警戒保護ニ努メ一方民心鎮撫ニ努メ居ルモ依然万ノ場合ヲ憂ヒテ本九日モ民会長以下數十名來訪ノ上郭松齡事件當時ニ倣ヒ補助憲兵等城内へ派遣方陳情アリ昨今ノ如キ流言蜚語多キ折柄右ノ如キ不安ハ尤モノ点アルモ今次ノ当地日支間ノ空氣ハ奉郭事件當時トハ同シカラス我ヨリ余リ軍憲ヲ派遣スルコトハ却テ事端ヲ起ス嫌アリ又支那官憲モ極力邦人保護等言明シ居ルヲ以テ起

若シ張死亡又ハ生存スルモ殘人同様ニ陥ルトセハ東三省ノ

統一ハ破レ一時三省独立ノ形勢ヲ示スニ至ル事アルヘク奉天省ノ主人公ハ現在状況ヨリ推セハ張学良トナリ楊宇霆之ヲ援クルカ或ハ張作相トナルヘク本官ハ其ノ際ハ勢ニ逆行スルコトヲ止メ出来ル丈自然ノ推移ヲ利用シテ帝国ノ利權ヲ確保スルノ必要ヲ説キ且仮ニ張学良ト楊宇霆トノ間ニ勢力争起ルトスルモ兩者何レカ我国ノ為ニナルヤ明白ナラサルヲ以テ之亦今ヨリ何レヲ擁護スルヤヲ定メ置カサル方安全ナル旨ヲ述ヘタルカ司令官ハ自然ノ推移ヲ尊重スルハ勿論ナルモ張学良ト楊宇霆トヲ比較セハ学良ノ方可ナルヲ以テ其処ニ手加減ヲ用ユルノ得策ナルヲ述ヘタリ尚今後東三省ニ青天白日旗ノ翻ルノ日無キヲ保セサル処司令官ハ東三省ニ青天白日旗ノ翻ルヲ許スハ之南方ノ勢力浸潤ヲ滿州ニ許スモノニシテ不可ナリト述ヘタルモ本官ハ三省ノ当局及人民カ自發的ニ青天白日旗ヲ採用スル場合ニハ干涉セサルヲ可トシ若シ南方ヨリ強要セラルカ如キ事アラハ之ニ対抗セントスル三省当局ヲ擁護スル事ヲ得ヘク我国トシテハ五色ナルト青天白日旗ナルト黃龍ナルトヲ問ハス赤化セシテ我ト協調スルモノナラハ之ヲ支持スル方可ナル旨ヲ述ヘタリ

在支公使ヘ転電セリ

ヲ援クルカ或ハ張作相トナルヘク本官ハ其ノ際ハ勢ニ逆行スルコトヲ止メ出来ル丈自然ノ推移ヲ利用シテ帝国ノ利權ヲ確保スルノ必要ヲ説キ且仮ニ張学良ト楊宇霆トノ間ニ勢力争起ルトスルモ兩者何レカ我国ノ為ニナルヤ明白ナラサルヲ以テ之亦今ヨリ何レヲ擁護スルヤヲ定メ置カサル方安全ナル旨ヲ述ヘタルカ司令官ハ自然ノ推移ヲ尊重スルハ勿論ナルモ張学良ト楊宇霆トヲ比較セハ学良ノ方可ナルヲ以テ其処ニ手加減ヲ用ユルノ得策ナルヲ述ヘタリ尚今後東三省ニ青天白日旗ノ翻ルノ日無キヲ保セサル処司令官ハ東三省ニ青天白日旗ノ翻ルヲ許スハ之南方ノ勢力浸潤ヲ滿州ニ許スモノニシテ不可ナリト述ヘタルモ本官ハ三省ノ当局及人民カ自發的ニ青天白日旗ヲ採用スル場合ニハ干涉セサルヲ可トシ若シ南方ヨリ強要セラルカ如キ事アラハ之ニ対抗セントスル三省当局ヲ擁護スル事ヲ得ヘク我国トシテハ五色ナルト青天白日旗ナルト黃龍ナルトヲ問ハス赤化セシテ我ト協調スルモノナラハ之ヲ支持スル方可ナル旨ヲ述ヘタリ

133 昭和3年6月(13)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖搭乗列車爆破事件を日本側の所為とす
る流説等について

奉天 奉天 奉天

本省 6月13日後着

* 第三二〇号

本官発電報告第一二六号御参考迄左ニ転電ス

今次爆発事件ニ関シ支那側其他ニ於テ之ヲ日本側甚タシキハ我軍憲側ノ所為ナル如ク臆測シ何カト誠シヤカノ宣伝流説ヲ為スモノアル処彼等カ日本側ノ所為ナリト推測スル理由ハ要スルニ

(一) 最近当地方日本側ノ反張空氣漲リ居ル一方支那側ノ反日氣分亦濃厚ニテ何等カノ事件勃発ヲ予想スル向アリン折柄偶々事件カ我鐵道付属地内ニ行ナハレタルコト
(二) 右爆弾^(一)力極メテ正確ニ行ハレ又非常ナル威力ヲ發シ從テ爆薬モ多量ナルヘシトノ点ヨリ察シ到底一、二支那人便

衣隊ニヨリ行ハレ得ヘキモノニアラス裏組織的ニ計画セラレタルモノニシテ從ツテ右ハ日本側ノ計画ト見ル外ナシ

トノ点ニ帰着スル如ク右以外ニハ何等具体的の証拠等ヲ挙ケ居ルニアラス唯是等推測ト一方過般來当地ニ二、三日本浪人カ何カト策動シ居ル風説等頻ニ伝ヘラレタル事実等ヨリ一部排日支那人中種々宣伝ニ努メ居ル向アル為旁支那側ニテ右ノ如ク臆測シ居ルモノト考ヘラルル処其後種々取調ノ結果

「ツヂ」其ノ他ノ破壊状況ニ鑑ミ橋上ニ装置セリトハ考ヘラレサルコト更ニ支那側一部ニモ或ハ列車中ニ何等カノ仕掛けアリシニアラスヤトノ説ヲ為スモノスラアリ

(三) 事件前付近ニテ我兵ノ為突殺サレタル支那人便衣隊ノ懷中セシ密書爆弾等ニ手懸ヲ得テ取調ノ結果或ハ意外ノ方面ニ連絡アルニアラスヤト推測セラレツツアルコト

(四) 当時被害列車ハ速度非常ニ緩慢ナリシ事一説ニハ「クロス」付近ニテ殊更緩慢ナリシトノ説モアリ其理由ハ若シ急速度トセハ被害車輛ノ後ニ連結セル七、八輪ノ寝台車輛ハ被害車輛突然ノ停車ニヨリ当然前ノ車輛ニ乗上ケ一大椿事ヲ起スヘカリシニ不拘全然其事ナク無事皇姑屯ニ引返シタル事尚当日同列車カ何故カ皇姑屯ニ停車セシコトモ怪シマレ居ルコト

(五) 被害車輛四台ノ内二台ハ事件ト共ニ火災ニヨリ焼キ尽サレタル処右ハ必シモ爆破ニヨリ引火セン為ト考ヘラレス更発火セシメタル疑アリトノ説モアリ

(六) 現場付近ノ支那側當夜ノ警備ハ甚タ手薄ニテ殊ニ事件直前ニハ警戒兵殆ント居ラス又支那側警戒兵中負傷セシモノ一名モナキコト

(七) 該事件ト殆ト同時ニ京奉線閔内方面ニモ鐵橋破壊事件

二、三アリ奉天派ノ後退ヲ妨害シタル事實アルコト又黃河鐵橋破壊其ノ他此種ノ爆破計画カ支那人ト雖モ可成進ミタル方法ニテ行ハレ居ル事實アルコト

(八) 張作霖ヲ護衛セシ列車ハ四個列車アリ何レノ列車又列車中ノ何レノ車輛ニ張座乗セシヤヲ正確ニ知ルコトハ外部ヨリ見テハ到底困難ナリソコト

等ノ事情明トナルニ伴ヒ今次事件ノ陰謀ハ或ハ意外ニモ列車内部ニ迄モ相當連絡アリト疑ハルル形跡現ハレ其結果當地支那人有識者中早クモ之ヲ以テ当初疑ヒシ如ク日本側ノ計画ニハ非ス却テ反張派其他ノ方面ニ於ケル組織的計画ニ

ヨルモノトノ觀察ヲ下スモノ漸次擡頭シ相当有力トナリツツアル模様ニテ今後取調ノ進ムニ従ヒ真相次第ニ判明スルモノト認メラル就テハ貴地ニ於テモ殊更我方官憲ノ宣伝ト認メラレサル方法ニテ可然宣伝方適宜御配慮アリタク右御参考旁御依頼ス

本電電報先 在満州各領事、天津、上海、漢口、廣東、青島

大臣公使ヘ転電セリ

き井田哲の談話について
張作霖搭乗列車爆破事件と凌印清の関係につ
昭和3年6月13日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

134 昭和3年6月13日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

張作霖搭乗列車爆破事件と凌印清の関係につ

* 機密公第四三一號 昭和三年六月十三日 (6月18日接受)

き井田哲の談話について
張作霖搭乗列車爆破事件と凌印清の関係につ
昭和3年6月13日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

凌印清ノ計画ニ對スル井田哲談ニ關シテハ本月八日付機密公第四一八号拙信ヲ以テ御報告置キタル處今回牛莊岸田領事ヨリ別紙写ノ通列車爆破事件ニ關シ井田哲カ牛莊領事館ニ於テ為シタル談話報告アリ其内容ニ付テハ俄ニ信シ難キ幾多ノ点アルモ御参考迄写送付ス

本信写送付先 在支公使 牛莊領事
(別紙写)
外務大臣男爵 田中 義一殿
列車爆破事件ニ關スル井田哲談話要領ノ件
總領事 林 久治郎 (印)
外務大臣男爵 田中 義一殿
列車爆破事件ニ關スル井田哲談ニ關シテハ本月八日付機密公第四一八号拙信ヲ以テ御報告置キタル處今回牛莊岸田領事ヨリ別紙写ノ通列車爆破事件ニ關シ井田哲カ牛莊領事館ニ於テ為シタル談話報告アリ其内容ニ付テハ俄ニ信シ難キ幾多ノ点アルモ御参考迄写送付ス

本信写送付先 在支公使 牛莊領事

(別紙写)

昭和三年六月七日午後四時井田哲ノ牛莊領
事館ニ於ケル談話ノ要領

一、凌印清ノ計画及井田哲ノ奉天ニ於ケル行動

井田ハ五月十九日出奉二十四日奉天總領事館ニ河野副領事ヲ訪問シ凌印清ハ将来奉天省現在ノ各機關ヲ轉覆シ滿州統治ノ実權ヲ握リ東三省ハ東三省人ヲ以テ治ムル一種特別ノ区域トナシ百政ヲ改革シ以テ日支ノ關係ヲ改善セムトスルノ計画アリ井田ハ東三省ノ実權ヲ張作霖カ掌握シ居ル限り日本人ノ滿蒙ニ發展スルコトハ不可能ナルコトヲ熟知セルヲ以テ凌ヲ援助シ其計画ヲ實現セシメ我カ國ノ滿蒙ニ於ケル發展ヲ期スル決心ナリト述ヘタリ

凌印清ハ此ノ目的ヲ達スルニハ日本軍ノ諒解ヲ得ルノ必要アリトシ凌ハ井田及王精一ト共ニ關東軍河本參謀ニ面会ノ上井田ハ通訳ヲ為シ本計画ヲ説明シ諒解ヲ求メタルニ河本參謀ハ井田ニ対シ趣旨ニハ贊成スルモ首脳者カ凌ニテハ貫禄不十分ナリトノ意ヲ漏シタル為更ニ計画ノ一部ヲ変更スル事トシ大連ニアル恭親王ヲ擁立スル事ヲ企テ恭親王ヲ説イテ奉天ニ連レ來リ本計画ノ首脳ニ推シ松隆洋行ノ階上ニ於テ井田、凌、王ト共ニ河本參謀ト會見

二、列車爆破事件ト凌ノ關係

凌ハ第一次ノ計画トシテ北京ヨリ引揚中ナル張作霖ノ列車ヲ爆破セムトシ之ヲ實行シタルモノナルカ右爆破方法ハ滿鉄線ト京奉線トノクロス点ニ於テ滿鉄ノ陸橋ニ黃色火薬百五十粍ヲ裝備シ電氣裝置ニテ点火爆破セシメタルモノニテ之ヲ實行シタルモノハ勿論便衣隊ナルカ此ノ便衣隊中邦人モ介在シ居タリ爆破ハ大成功ヲ収メタリ本件爆破作業ハ到底素人ニテナシ得ル所ニアラス
尚現場ニテ日本兵ノ為ニ刺シ殺サレタル二名ノ支那人便

衣隊中ノ一名カ凌ノ命令書ヲ携帶シ居リシト謂フモ凌ハ右命令書ヲ作成交付シタル事ナク又王精一ノ書キタルモノニモアラス甚タ不可解ノモノナリト凌ハ漏シ居タリト

三、張作霖ノ死亡

凌ト連絡アル一味ノ者百五十余名ハ奉天城内ニ於テ張作霖ノ部下トシテ現ニ其ノ職ニアリ彼等ヨリ齋ラシタル情報ニヨレハ張作霖ハ重傷ニテ全然意識ヲ失ヒ居リンクカ大元帥府ニ帰還後注射ニヨリ一時覺醒シタルモ五日午後一时十五分遂ニ死亡シタリ然ルニ之ヲ發表スルトキハ内部ノ動搖ヲ來ス虞アリ為ニ絶対秘密ニ付シ居ルモ大元帥ノ寢室ニハ未タ線香ノ香コソナケレ香水ノ香紛々タリト謂フ

四、張学良ノ帰奉ト同人今後ノ計画

張学良ハ飛行機ニテ一昨五日夜帰奉シタルハ事実ナリ帰路満鉄線ノ上空ヲ通過スルトキハ日本軍ヨリ高射砲ヲ以テ射擊セラルノ危険アリトシ長春ノ北方ヲ迂回シ南方ヨリ奉天ニ入りタルモノニテ之カ為予定ヨリ數時間遅レテ着奉シタルモノナリ

学良ノ帰奉迄奉天首脳者ハ只周章狼狽為ス所ヲ知ラサリ

五、凌印清ト楊宇霆及劉省長トノ関係

凌ハ楊宇霆ト連絡アリ楊ハ今回ノ列車爆破計画ハ予知シ居リシモノナルヘシ凌ハ列車爆破後暗号電報ヲ以テ楊ト電報ヲ交換シタル事実アリ此ノ電報ニ使用セシ暗号ハ奉天幹部間ニノミ使用スルモノニテ凌ハ楊ヨリ其ノ符号ノ交付ヲ受ケタルモノナリ而シ凌ハ将来楊ト共ニ事ヲナスヲ欲セス適当ノ時機ニ彼ヲ排除セムトスルノ意向アリ

劉省長モ凌ニ對シ南軍ハ「ブラックリスト」ヲ作成シ奉

天側首脳者ノ氏名ヲ記シ其ノ上ニ○印及○印ヲ付シアリ○印ハ私財没収○印ハ私財没収ノ上死刑ニ処ストノ符号ナリト云フカ自分ニハ如何ナル符号アリヤ将来張作霖没落ノ曉ハ宜シク頗ムト申込ミ凌ハ之ヲ承諾シタリト云フ

六、吳俊陞ノ態度

吳俊陞ハ予テ閏東軍ニ對シ将来自己ノ進退ハ軍ノ指示ニ從フヘシ即チ下野スルヲ可トセハ下野スヘシ現職ニ止マルヲ適當トセハ現職ニ止マルヘク進退總テ軍ノ指示ニ從フカ故ニ自己ノ生命財産ハ日本軍ニ於テ完全ニ保護セラレ度シトノ一札ヲ軍ニ差入レ居レリ故ニ吳カ死亡セサリシナラハ事ヲ挙クル際彼麾下ノ黒竜江軍ハ凌ニ於テ使用

シカ学良帰奉シ其画策ニテ彼ノ帰奉シタル翌日タル六日在奉支那新聞代表者記者等十五名ヲ集メ張大元帥ノ死亡ヲ報道シタルモノハ死刑ニ處スヘキ旨ノ申渡ヲ為シ又列車爆破事件ノ首謀者ト目サル凌印清ハ奉天付属地ニ居住シ居レルヲ以テ之カ引渡ヲ日本官憲ニ要求シ一面蔣介石、閻錫山、馮玉祥ニ對シテハ今回ノ列車爆破事件ハ日本側ノ陰謀ニ基クモノナルヲ以テ此際内争ヲ止メ南北一致外敵日本ニ當ラサルヘカラストノ通信ヲ發シ更ニ今後ノ方針トシテハ自己ハ若年ニテ今直ニ父ノ後繼者タルコトハ困難ナリトシ差当リ熱河ニ駐在セル湯玉麟ヲ動カシ彼ヲ奉天ノ首脳者ノ地位ニ据ヘ一時時局ヲ收拾セムト決意シ昨六日午前十一時飛行機ニテ熱河ニ向ケ出発シタルカ若シ右ノ計画ニシテ失敗ニ帰スルトキハ最後ノ手段トシテ日本ニ對シ戰ヲ宣シ南滿鐵道ノ各地ヲ破壊シ交通ヲ杜絶セシメタル上各方面ニ亘リテ日本軍ト交戦シ日本人ヲ慘殺シタル上玉碎セムト決意セルカ如シト若シ彼ニシテ斯ル行動ニ出ツルトキハ或地方ノ居住邦人ハ濟南事件ニ類スル慘虐ヲ蒙ムルノ虞アリ此点十分ナル注意警戒ヲ要スヘシ

七、凌印清其ノ後ノ行動

支那側ヨリ日本官憲ニ凌ノ引渡シヲ要求來リン為日本側ハ凌ヲ付屬地ニ居住セシメ置クコト困難ナル状態ニ立至リタルヲ以テ昨六日奉天憲兵分隊憲兵南上等兵付添ヒ凌ヲ大連ニ赴カンメタルカ第二次計画ノ実行前ニ彼ハ帰奉スヘシト云フ

八、凌一味ノ第二計画

凌一味ハ第一次計画タル列車爆破事件ハ予期以上ノ成功ヲ収メタルヲ以テ近ク第二次計画ノ实行ニ着手セムトス第二次計画トハ奉天城ノ占領ニシテ其ノ方法ハ夜間大南門鼓樓及鐘樓ヲ黃色火薬ヲ以テ爆破シ電話交換所發電所ヲ襲ヒ爆弾ニテ之ヲ破壊シ（主要部分ヲ破壊セス一時使用ニ堪エサル程度ニ止メ從業者ヲ斃ササルコト）軍資金ヲ得ル為中國銀行ヲ襲ヒ金庫ヲ「ダイナマイト」ニテ破壊シ現金ヲ奪フ手筈ヲ定メアリ此ノ際多數ノ便衣隊ヲ城内ニ侵入セシメ（便衣隊中ニ邦人五六十名アリト云フ）予テ連絡アル巡警千五百名及其他現職ニアル連絡者ノ加担ニヨリ完全ニ奉天城ヲ占領スルノ計画ナリ資金調達ノ

為出連中ノ恭親王カ數日中ニ資金ヲ携へ來奉スヘク武器ノ準備モ見込アリ近ク之レカ實行ニ着手スヘシト

九、最後ノ目的

第二次計画成功セハ東三省ノ統領トシテ恭親王ヲ推戴シ凌ハ軍ノ指揮権ヲ握リ省議会ハ現在ノ議員ヲ居据ハラシメ以テ立法ニ参与セシム其他行政権司法権ノ行使等總テノ統治ハ東三省人ノミニテ之ニ当リ独立ヲ宣言シ日本ノ保護ヲ受ケ若シ外敵ト交戦等ノ場合不利ニ陥レハ滿蒙ノ治安維持ヲ名トシ日本軍ノ出動ヲ乞ヒ兩軍ノ武装ヲ解除セシム斯クスレハ外敵ノ管内侵入ノ虞ナク極メテ安全ナリ尚日支經濟關係ヲ改善シ日本側ニ鐵道及鉱山ノ採掘權ヲ許可シ日支合弁事業ノ発達ヲ助成シ土地ノ商租ヲ認メ朝鮮人ノ水田經營ニモ便ヲ与ヘ以テ滿蒙ノ開發ヲ期スヘシト而シテ一面山東省其他ヨリ移住シ来ル支那人ハナルヘク入境ヲ阻止スヘク其ノ方法トシテハ本籍地知事ノ証明書ナキ者ハ入國ヲ許可セサル方針ヲ採リ南方共產主義者ノ侵入ヲ防止スヘント要スルニ日本ノ保護ノ下ニ統領ニ恭親王ヲ擁立シ東三省ハ東三省人ノ手ヲ以テ立憲の政治ヲ行ヒ百政ヲ改革シ日本トノ政治的經濟的關係ヲ密接ヘク入境ヲ阻止スヘク其ノ方法トシテハ本籍地知事ノ証明書ナキ者ハ入國ヲ許可セサル方針ヲ採リ南方共產主義者ノ侵入ヲ防止スヘント要スルニ日本ノ保護ノ下ニ統領ニ恭親王ヲ擁立シ東三省ハ東三省人ノ手ヲ以テ立憲の政治ヲ行ヒ百政ヲ改革シ日本トノ政治的經濟的關係ヲ密接

135 昭和3年6月13日 在牛莊岸田領事より
機密第一七二号

錦州在留邦人引揚について

昭和三年六月十三日 (6月20日接受)
在牛莊 田中外務大臣宛

外務大臣男爵 田中 義一殿
錦州在留邦人引揚ニ閑スル件

本件ニ關シ別紙ノ通り不取敢報告申進ス御查閱ヲ請フ追テ引揚ニ關連スル経費ニ關シテハ別信ヲ以テ稟報ス写送付先 在支公使、奉天總領事、閑東長官

(別紙)

(一)錦州地方ハ京津方面ニ於ケル時局ノ進展ニ伴ヒ情勢漸次險惡ニ陥リ北軍傷病兵及予備兵ノ同地ニ駐屯スルモノ亦約二万ヲ超エ殊ニ五月初旬直隸方面ニ於ケル奉軍益々不

利ニ陥リ瀋州山海關方面ノ風雲危急ヲ伝フルニ及ヒ錦州方面ノ治安著ク脅威サレ從テ同地邦人ハ逐日不安ヲ増進シタルヲ以テ不取敢巡查三名ヲ增派シ次テ同月二十日館員ヲ簡派シ現状視察並ニ万一避難等ニ際スル心得ヲ懇訓セシメ置キタルカ其ノ後六月四日奉天ニ於テ列車爆破事件勃発シ其ノ結果錦州方面ノ警備ニ最モ重大ナル關係ヲ有スル吳俊陞ノ遭難致死ハ日本人カ關係シ居ルモノナリ

トノ風説同地方軍隊間ニ流布セラルニ至リ俄然対日感情悪化シ來レル旨出張員ヨリ急電ニ接シタルニ付五日更ニ堤警部外三名ノ警察官ヲ急行セシメ先ツ婦女子引揚ノ速行ヲ措置セシメ一方本官ハ當地道尹兼交渉員ニ対シ交渉ノ上避難ノ際ニ於ケル客車配給其ノ他諸般ノ便宜供与方出先官憲ニ對シ篤ト電訓セシメタリ

(二)奉天列車爆破事件發生以來頓ニ列車ノ運転不規律トナリタル為再三県知事側ヨリモ援助ヲ得當館出張員ニ於テ種々斡旋ノ結果三等客車二輛ノ借切漸ク実現スルコトヲ得六日午後七時婦女子百五名(内鮮人付添男二名同婦女子三十四名)ハ巡查二名ニ保護セラレ錦州駅ヲ出發翌七日午前三時奉天ニ到着右ノ内奉天其ノ他ニ落付キタルモ

ニシ滿蒙ノ開發ニ努メ省民ノ福利増進ニ努ムヘシト

(欄外記入)
二、避難車ハ縣知事ノ援助ヲ得明九日中ニ準備スルコト
三、高橋在留鮮農ニ對シテハ縣公署ヨリ引揚方電話ニテ通報方取計フト共ニ一方特使ヲ急派シ明日正午迄ニ錦州ニ來着セシムルコト

前叙ノ通決定セル旨出張員ヨリ急電ニ接シタルヲ以テ本官ハ八日夜半道尹兼交渉員ヲ往訪シ残留邦人ノ引揚ニ関シ出先官憲ニ於テモ最善ノ協助ヲナサシムル様電訓方申入レタル處之ヲ諒承シ直ニ錦県知事ニ電報ヲ発シタルカ其ノ結果九日午後ニ至リ漸ク客車一輛ノ配給ヲ得兔ニ角殘留民全部集合ヲ了シタル為當館出張員以下内地人三十名鮮人十九名同地引揚ケ同午後四時四十五分発列車ニテ奉天ニ向ケ出發同夜十一時皇姑屯駅ニ到着シタルモ同避難者座乗ノ客車一台ハ同駅ニテ切り離サレタル為折衝ヲ重ネタル末十日午前一時滿鉄奉天駅迄輸送ヲ了シ右ノ内地人十名鮮人五名ハ奉天其他ニ落付ク為分散シ爾余ノ内地人十四名鮮人十四名ハ十日午前十一時三十分奉天発列車ニテ当地ニ到着セリ

(四)九日第二次引揚ニ当リ車輛連結其他多忙ヲ極メタル為出発ニ先チ財産目録等ヲ作成セルモノ極メテ少數ニシテ中ニハ商品全部其ノ儘トシテ引揚クルノ外無キモノアリシカ各自ノ貴重品ノ大部分ハ已ニ引揚前奉天等ニ移送シ置キタル由ニテ同地商品陳列館ニハ同館商品以外他邦人ヨリ寄託ノ物品等モ格納シ日支官憲立会封印ヲ了シ県知事

(五)同地引揚後日本人会幹部ハ本官ヲ來訪シ引揚万般ノ手配ニ対シ謝意ヲ表陳シタルヲ以テ右ニ対シ引揚中ニ於ケル各自ノ連絡並今後ノ推移ニ応シ将来ノ善後措置ヲ講究スルノ要アルコトヲ論達シ置キタリ内地人ノ殆ト全部ハ夫々知人ヲ有スルヲ以テ差当リ格段ノ不都合ヲ感セサルモノノ如キモ中ニハ早晚自活ノ方途ヲ講セサルヘカラサルモノアリ右等ニ関シテハ日本人会ニ於テ考究ノ上案ヲ具シテ陳情官辺ノ援助ニモ懇ヘサルヘカラストノコトニシテ之ニ対シテハ出来得ル限りノ援助考究ヲ辭セサルヘキ旨指示シ置キタリ

(六)避難民鮮人ノ殆ト全部ニ対シテハ差当リ授職ノ途ヲ講セサルヲ得ス已ニ各方面ニ亘リ考案中ニシテ已ニ田庄台其他付近ニ於ケル水田經營鮮人トノ連絡ヲ為サシメタルモノ等アリ其他出來得ル限り速ニ適當ナル授職ニ力メ居レリ

(欄外記入) 鮮人ニ付引揚サセル必要アリシヤ

136 昭和3年6月14日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

村岡関東軍司令官に部下の陰謀等干与取締方

申入れについて

奉天 発
本省 6月14日後着

往電第三二五号ニ閑シ

* 第三二一号
(二三三文書)

137 昭和3年6月16日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

対満州政策実行に関する意見具申

付記 六月 堀内謙介書記官

「満州出張報告」

北京 発
本省 6月16日前着

第八八二号

高柳中将ハ帰連後滿鉄社長及関東長官ニ報告ノ後更ニ十三日來奉兩者ノ意向ヲ齋シ軍司令官及本官ニ対シ幸ニ在満各機關主腦ノ意見ニ大差ナキヲ以テ在奉ノ二人ニ於テ協力事

クトモ当分ハ活動スル事態ハサル状態ニアルモノノ如ク從テ之カ後繼者ト東三省ノ将来トニ対シテハ篤ト考慮ヲ運ラ

ニ於テモ保護ヲ承諾シタル趣ナリ

官ハ八日夜半道尹兼交渉員ヲ往訪シ残留邦人ノ引揚ニ関シ出先官憲ニ於テモ最善ノ協助ヲナサシムル様電訓方申入レタル處之ヲ諒承シ直ニ錦県知事ニ電報ヲ発シタルカ

其ノ結果九日午後ニ至リ漸ク客車一輛ノ配給ヲ得兔ニ角

殘留民全部集合ヲ了シタル為當館出張員以下内地人三十

三名鮮人十九名同地引揚ケ同午後四時四十五分発列車ニ

テ奉天ニ向ケ出發同夜十一時皇姑屯駅ニ到着シタルモ同

避難者座乗ノ客車一台ハ同駅ニテ切り離サレタル為折衝

ヲ重ネタル末十日午前一時滿鉄奉天駅迄輸送ヲ了シ右ノ

内地人十名鮮人五名ハ奉天其他ニ落付ク為分散シ爾余

ノ内地人十四名鮮人十四名ハ十日午前十一時三十分奉天

発列車ニテ当地ニ到着セリ

(四)九日第二次引揚ニ当リ車輛連結其他多忙ヲ極メタル為出発ニ先チ財産目録等ヲ作成セルモノ極メテ少數ニシテ中ニハ商品全部其ノ儘トシテ引揚クルノ外無キモノアリシカ各自ノ貴重品ノ大部分ハ已ニ引揚前奉天等ニ移送シ置キタル由ニテ同地商品陳列館ニハ同館商品以外他邦人ヨリ寄託ノ物品等モ格納シ日支官憲立会封印ヲ了シ県知事

ニ於テモ保護ヲ承諾シタル趣ナリ

(五)恁クシテ高橋付近ニ於ケルニ、三鮮人ノ殘留スルモノヲ除キ錦州地方在留民全部ノ避難ヲ了セル次第ナルカ在留民ニ於テハ同地方去来ノ客ヨリ近ク現地保護ノ為我陸軍ノ錦州出動ヲ見ルニ至ルヘキヲ予想シ為ニ引揚實行ニ就テモ輒モスレハ躊躇逡巡ノ傾アリ全部ノ歩調乱レ勝ニシテ其ノ間當館出張員ニ於テ懇切ニ事態ヲ諒解セシムルニ努メ漸クニシテ格段ノ故障ヲ見ス滯無ク全部ノ結束ヲ整フルヲ得タル次第ナリ

(六)同地引揚後日本人会幹部ハ本官ヲ來訪シ引揚万般ノ手配ニ対シ謝意ヲ表陳シタルヲ以テ右ニ対シ引揚中ニ於ケル各自ノ連絡並今後ノ推移ニ応シ将来ノ善後措置ヲ講究スルノ要アルコトヲ論達シ置キタリ内地人ノ殆ト全部ハ夫々知人ヲ有スルヲ以テ差当リ格段ノ不都合ヲ感セサルモノノ如キモ中ニハ早晚自活ノ方途ヲ講セサルヘカラサルモノアリ右等ニ関シテハ日本人会ニ於テ考究ノ上案ヲ具シテ陳情官辺ノ援助ニモ懇ヘサルヘカラストノコトニシテ之ニ対シテハ出来得ル限りノ援助考究ヲ辭セサルヘキ旨指示シ置キタリ

シ置ク必要アル処作霖若シ立チ得ルトセハ仮令南方ノ勢力山海閥ニ及フトスルモ東三省ハ能ク南方ニ対抗シテ其ノ勢力ヲ排除シ得ヘクサレト作霖若シ立タストセハ東三省ハ權力ノ中心ヲ失ヒテ早晚直接間接ニ南方勢力ノ支配ヲ免カレサル可シ作霖ノ後繼者ニ付テハ今後モ幾多ノ曲折アル可キヤニ見受ケラルカ滿州ヨリノ情報ニ依レハ最近張作相カ最有力ナルカ如キモ作相元來優柔不斷加フルニ多年吉林ノ排外的雰囲気ノ中ニ治政ニ当リテ益々排外的氣勢ヲ促進セシメタル傾向アル事実ニ鑑ミレハ我滿州政策実行上決シテ迎フ可キ人物ニ非ス殊ニ作相若シ出ツレハ必スヤ楊宇霆ノ如キ有力者ノ補佐ヲ必要トスヘク又若シ学良出ツルトスルモ矢張楊宇霆ハ補佐ノ地位ニアリテ事実ハ楊宇霆ノ天下トナル可ク然モ楊等奉天新派ハ常ニ機会タニアラハ南方トノ連絡ヲ策シ居ルカ故ニ楊等ノ政策ハ南方勢力ノ進展ヲ利用シテ益々排外的氣運ヲ促進スル事トナルヘク何レニセヨ南方勢力カ早晚東三省ニ及フヘキハ今日ヨリ明カナルカ南方トシテモ只今ノ所ハ東三省ノ諸問題ニ深ク容喙シテ日本ト真正面ヨリ衝突スルコトヲ避クルニ相違ナキモ南方ノ一般政策タル不平等條約廢棄、帝国主義反対將又二十一箇条問

政策タル不平等條約廢棄、帝國主義反対將又二十一箇条問

(付記)

奉天ニ転電セリ

題等ヲ高唱シ或ハ旅大回収ノ運動ヲ激成シテ日本ノ特殊地位及優越ナル勢力ト衝突ヲ來シ其ノ結果我方トノ間ニ少ナカラサル紛糾ヲ生スヘク我方トシテモ予メ之カ対策ヲ攻究シ置ク必要アルヘシ唯差當リ考フヘキハ新設滿蒙鐵道問題ニシテ過般滿鉄ト奉天派トノ間ニ諒解成リタル五鐵道ニ對シテハ南方側ニ於テ既ニ激烈ナル反対ヲ為シ居リ又右ノ内最モ緊切ノ必要アル吉会及長大両線ニ對シテハ奉天派部内ニ於テモ張作相ノ猛烈ナル反対アリ又之カ煽動ニ依ル官民ノ抗議アルモ兎ニ角張作霖承認ノ下ニ正式ニ交通部代理次長趙鎮ト滿鉄代表トノ間ニ契約ニ調印ヲ了シ契約者趙鎮ハ既ニ吉長、吉敦兩鐵道局長ニ任命セラレテ吉林ニ赴任シ居ル状態ナルニ付テハ此ノ際一応右両鐵道敷設方に就キ吉林当局ノ意向ヲ当リ吉林当局ニ於テ承認セスンハ官民ノ反対ヲ押切リテ實力ヲ以テ飽迄敷設ヲ敢行スルニアラサレハ今後ハ到底契約ヲ實現セシムルコト困難ナルヘク是亦篤ト御考慮ノ必要アルヘキヤニ思考ス

奉天ニ転電セリ

シ置ク必要アルヘシ唯差當リ考フヘキハ新設滿蒙鐵道問題ニシテ過般滿鉄ト奉天派トノ間ニ諒解成リタル五鐵道ニ對

シテハ南方側ニ於テ既ニ激烈ナル反対ヲ為シ居リ又右ノ内

最モ緊切ノ必要アル吉会及長大両線ニ對シテハ奉天派部内

ニ於テモ張作相ノ猛烈ナル反対アリ又之カ煽動ニ依ル官民

ノ抗議アルモ兎ニ角張作霖承認ノ下ニ正式ニ交通部代理次

長趙鎮ト滿鉄代表トノ間ニ契約ニ調印ヲ了シ契約者趙鎮ハ

既ニ吉長、吉敦兩鐵道局長ニ任命セラレテ吉林ニ赴任シ居

- (1) 満州出張報告
- (2) 堀内謙介書記官
- (3) 一、満州時局問題
イ、政権ノ異動
(1) 張作霖ノ死ハ固ヨリ東三省ニ大ナル衝動ヲ与ヘタルモ
今ヤ与論ハ張學良ヲ中心トシテ軍民分治ヲ布クヘシト
云フニ一致シ居レリ軍民分治論ハ于冲漢、王樹幹等主
トシテ之ヲ唱ヘ漸次有力トナリツツアリ
- (2) 学良擁立運動ノ有力ナル所以ハ父作霖ノ余勢、他ニ適
材ナキコト、楊宇霆ニ対スル反感、作霖変死ニ対スル
同情等ノ事情ニ因ル
- (3) 学良奉天省督弁ニ就任シ次第歩ヲ固メ黒龍江省長
ノ後任トシテモ吳泰成ヲ斥ヶ学良ノ腹心萬福麟ヲ任命
セリ
- (4) 問題ハ東三省保安総司令ニ何人カ就任スルヤニ在リ張
作相ハ作霖ノ義弟ニシテ学良モ之ヲ先輩視セサルヘカ
ラス現ニ三省省議会連合会等ハ作相ヲ総司令ニ推シ旧
派ノ有力者張景惠、汲金純等亦之ヲ推戴セントシツ
アリ
- (5) 日本側ノ意向ハ作相カ辞退セシコト望マント云フニ
一

- (1) 漢河方面ニハ目下学良麾下ノ三四方面軍、張宗昌ノ残

軍等尚駐留ス之ニ対スル我態度ニ就キ林、斎藤、松岡、三浦等二十三日協議セリ

(2) 支那側ハ三四方面軍ヲ閔外ニ引込マセハ熱河方面危フシト云フモ日本トシテハ之ヲ引込マセサルヘカラス

(3) 唯南軍追及ノ場合之ヲ阻止スルノ肚ヲ定メ之ヲ奉天側シト云フモ日本トシテハ之ヲ引込マセサルヘカラス

ニ暗示スルノ要アリ（之レハ請訓事項）

二、懸案交渉問題

現下ノ時局ヲ利用シテ滿州ニ於ケル我經濟的發展ノ地歩ヲ進ムルコトハ事宜ニ適セリト思考ス

イ、交渉ノ時機

軍民分治ノ成行如何ニ由ル濫リニ急キテ學良ノ地位ヲ危クスヘカラス

村岡司令官ハ奉天駐軍中ニ交渉着手ヲ主張スレト今直ニ

開談スルコトハ六ヶシク又急速ニ交渉ヲ纏メルコトハ出来サルヘシ

ロ、交渉ノ方法

東方會議ノ方針カ幣原外相末期ノ方針カ二者一ヲ出テサルヘキモ後者ヲ可トセン即チ正々堂々交渉ヲ開始スルヲ得策トス

ハ、交渉ノ順序内容

(1) 先ツ東三省民政援助ヲ名トシ第一段ニ保境安民ヲ勧告ス

(2) 第二段ニ裁兵ヲ贊シ財政援助ヲ申入ル、東三省財政ノ難点ハ軍費拈出難ト奉天票整理難トニアリ我ハ必要ナル借款ニ応シ財政顧問ヲ入ルルヘシ

(3) 次ニ進テ鉄道及鉱山ノ懸案解決ニ力ムヘク又商租問題ハ事實問題トシテ之ヲ解決スヘシ即チ新ニ文書ニ調印スルカ如キコトヲ避ケ邦人ノ商租ニ対シ支那側ヨリ妨害セシメサルコトシ若シ妨害行ハルル場合ニハ我警察力ヲ以テ之ヲ排除スヘシ

鮮人問題ハ小作ノ方法ニ依リ漸次解決スヘシ

三、鮮人問題

イ、解決ノ骨子ハ在滿鮮人ノ保護取締ヲ增進スルニアリ

ロ、先ツ鮮人ノ実情ヲ調査シ之ト密接ナル接觸ヲ保ツ為メ機関ノ充実ヲ必要トス

ハ、奉天ニ差当リ專任ノ副領事（鮮人ニテモ可）一名書記生三名位ヲ置キ其他關係各地ニ一二名宛ノ専務員ヲ配置スヘシ

四、各部ノ連絡

イ、六日ノ大臣訓令ノ趣旨ニ從ヒ各部トモ円滑ナル連絡ニ力メ居レリ

ロ、十二日山本満鉄社長ノ帰朝ニ先チ其旨ヲ含ミテ高柳來奉、村岡、林ト鼎座シテ今後ノ協調ヲ議ス高柳其結果ヲ齋シテ帰運シ木下長官山本社長ト談合ス其際山本社長ハ交渉ノ急速開始ヲ希望シ木下長官ハ自分ハ支那ノ事情ニ通セサルカ故ニ別ニ意見ヲ述ヘサルモ各部ノ協調ヲ希望スト說キ結局此際大ニ準備ヲ為シ満鉄及閏東厅ハ極力奉天ニ於ケル交渉ヲ支持スヘシト申合ス

高柳再ヒ來奉林、村岡ニ其旨ヲ伝フ

村岡曰ク外交ノ事ハ總領事ノ職責、自分ハ傍ヨリ之ヲ援助スヘシト言明ス

ハ、其後村岡、林、打合ヲナス、林請訓ノ必要ヲ説キタル

ニ司令官其要ナシ速ニ实行セヨト主張ス林其後モ司令官ニ交渉ノ性質内容等ヲ理解セシムルニ努メツツアリ

一方満鉄モ新聞、商工会議所等必要ノ向ヲ操縦指導シツツアリ斯くて各方面ノ連絡今日迄好ク保タレツツアリ

五、奉天駐兵

イ、支那側カ日本人ノ所為トナス事由

(1) 事件前約三週間排日ノ空氣濃厚ニシテ謠言疑懼ニ充チ

開戦説サヘ伝ヘラレタル折柄事件突發シタルカ故ニ支那人ハ一時皆必定日人ノ所為ナリト考ヘタルコト（但シ其後此ノ考薄ラキツツアリ）

- (2) 満鉄付属地内ニ発生シタルコト
- (3) 事件前日本人間ニ一般ニ排張ノ空気濃厚ニシテ殊ニ日本浪人等爆弾陰謀ヲ触歩キ居タルモノアリシコト殊ニ模範隊（隊長荒木）ノ後方攬乱ノ陰謀アリ我陸軍特務機関、浪人等之ヲ知リ得タルコト
- (4) 事件當時我監視兵カ現場ヘ直ニ行カサリシコト
（張作霖ノ秘書陳慶雲モ此点ニ言及セルコトアル由）
然シ支那側ニテモ日本人説ヲ信セサルモノアリ例ヘハ奉天兵工廠ノ露人技師ハ現場臨検ノ上日本人ノ所為ナリト云フニ反対シ技師長支那人ハ之ニ反対シ居レリト云フ
- 口、日本新聞通信員其他日本人ニシテ日本人ノ所為ト看做シ殊ニ軍部ト関係アリト考フルモノ多シ其事由
- (1) 浪人ト軍部トノ関係疑ハレ居ルコト
- (2) 事件當時ノ我監視兵ノ態度
- 當時東宮大尉ハ兵十六名ヲ指揮シテ監視所ニアリ爆音ヲ聞キタルモ支那兵直ニ発砲セルヲ聞キ危険ナリト見テ外ニ出テス支那兵ノ満鉄線上ニ登リ来レルニ及ヒ兵ヲ配置セルモ発砲セサリシ由（同大尉供述）尚當時陸
- 橋付近ニハ監視兵居ラサリシ模様ナリ（事件発生ノ場所ヨリ百米突位ノ地ニ吉野特務巡查居リ二回爆音（五分位ノ間ヲ置キ）ヲ聞キ又日本兵監視所ヨリモ発砲セルヤウ記憶セル由）
- (3) 事件ノ二時間前我監視兵ノ突キ殺シタリト云フ所謂使衣隊二名ハ実ハ乞食ニシテ入浴セシメ粉飾セシメタルモノナリトノ風説アリ日本人浪人之ニ関係セルモノアルコト
- (4) 儀峨少佐カ事件直後土肥原大佐公館ニ於テ日本新聞通信員ト会見ノ際其服装ノ破レ具合カ汽車飛降リニ由リテ生シタルモノナルヤニ感セラレタルコト
- (5) 凌印清（東三省招撫使）ト河本大佐等トノ関係
- (6) 事件直後我軍当局ノ態度弁明的ナリシコト
- ハ、支那側ノ疑ハシキ事情
- (1) 事件當時付近ニ支那兵ノ警備シ居ラサリシコト（現ニ支那兵ノ死傷全クナシ）
- 當時齊恩銘ハ五十名ノ憲兵ヲ率ヒ「クロス」ト瀋陽駅間ノ線路ノ警備ニ当リ居タリ
- (2) 事件當時付近ニボロ自動車一台乗棄テアリ又事件直後
- （本人ハ後小林ニ対シ自分カ張本人ナリト誇称シタル由） 同人ノ名ハ當時新聞紙上ニ喧伝セラレ且我軍人トモ関係アルニ顧ミ同人ノ支那側ノ手ニ陥ルコトヲ不利トシ総領事、軍部、関東府協議ノ末六日頃邦人某同伴私服憲兵看視ノ下ニ一旦大連ニ逃レシメタリ
- (5) 大連ニ於テ凌ハ遼東ホテルニ止宿シ初メ隣室ニ憲兵表ニ巡査監視シ居タルカ後遠方ヨリ之ヲ監視スルニ止メタリ然ルニ同人ハ二十日頃再ヒ來奉シ日下普濟会等ト連絡シ種々画策中ナリ
- (6) 二十三日林、斎藤、秦、松岡等協議ノ末今後全然凌ヲ放任シ自由ニ行動セシムルコト若シ支那側ヨリ要求アラハ引渡スコト（林ヨリ拒絶スルハ面白カラスト説ク軍側モ異存ナシ）此事ハ本人ニ予告シ置クコト、小林英一ヲシテ凌ト連絡ヲ保タシムルコト等ヲ決定セリ
- (7) 支那側ニテハ未タ凌ヲ捜査シタルコトナシ唯凌ヲ調査セハ真相判明セント内田領事ニ語レルコトアリ支那側ハ事件ハ日本側ノ計画ニ基クモノト考ヘ居ルカ故ニ恐ラク凌ノ引渡ヲ要求シ來ラサルヘシ（岸田領事ノ報告中井田某ノ言トシテ支那側要求ヲ拒絶セリ云々トアル（4）凌カ果シテ事件ニ関係シタリヤ否ヤ結局不明ナルモ

ハ事実ニ反ス)

(8)要之凌ト事件乃至軍部トノ関係判明セス尚凌ハ邦人佐

藤某ニ対シ曾テ爆破ノ計画ヲ洩ラシ日本領事館及軍部

ヨリ資金ト機械トノ援助ヲ得ハ成功スヘシト語レルコ

トアル由ナルカ軍部ノ同人ニ対スル関係ハ深カラサル

カ如ク河本大佐モ何等「コンミット」シタルコトナキ

様子ナリ

ホ、尚事件後駐奉各国領事へ匿名ノ英文「サー・キュラー」

ヲ送リ當時日本兵ハ「サーチライト」ヲ使用シ居タルコ

ト監視所ヨリ合図ヲナスヲ見タルコト等ヲ記述セリ

右文書ハ英國領事笑ヒ乍ラ林總領事へ示セリト云フ

ヘ、結論

事件カ何人ニ由リテ計画サレ實行サレタルヤ爆薬ノ装置
カ滿鉄線陸橋下ニアリタリヤ將タ列車内ニアリタリヤ凌
印清カ果シテ此事件ニ関係アリヤ否ヤ全ク不明ナリ但シ
浪人ノ関係セサリシコトハ確カナラント思ハル

七、濟南事件

速ニ解決ヲ希望ス解決遅延スルトキハ滿州方面ニ不利ナ
ル影響ヲ与フヘキヲ虞ル青島市政問題ノ如キハ此際余計

138 昭和3年6月16日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

東三省の政況に対し静観が得策である旨土肥

原、儀峨両顧問へ申入れについて

奉天

本省 6月16日後着

*第三二六号

(二三三文書)

土肥原及儀峨両顧問ハ張學良ト會見ノ為山海關經由瀋州ニ

赴ク事トナリ出發前本官ノ指示ヲ受ケ度シトテ十四日參謀
長ノ内命ニ依リ來奉シ張學良ト會見ノ場合ノ応答振り等ニ
付本官ノ意向ヲ求メタルヲ以テ此ノ際先方ヲシテ日本側ニ
頗ラシムル様自然ニ仕向クル事ハ宜シキモ殊更ニ張學良ヲ
守リ立ツルカ如キ態度ヲ當方ヨリ示ス事ヲ避ケ日本トシテ
ハ東三省将来ノ主人公トシテ何人カ立ツヤハ要スルニ日本
ト充分協調シ行ク者ナル限り何人タルト敢テ問ハス三省政
況自然ノ推移ヲ靜觀スルノミトノ程度ニ止ムルヲ得策トス

ヘク其ノ結果或ハ張學良立ツ事ト大体確認セラルニ至ラ
ハ更ニ第二段ノ態度ヲ示スモ遲カラスト申聞ケ置キタリ両
顧問ハ海路秦皇島ヨリ上陸スル予定ニテ儀峨ハ張ノ許ニ留
マリ土肥原ハ再ヒ帰奉スル筈ナリ

北京へ転電セリ

139 昭和3年6月21日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛(電報)

張作霖搭乗列車爆破事件の日本側報告書要領

について

付記一 六月二十一日付在奉天内田(五郎)領事より

在奉天林總領事宛

「列車爆破事件調査報告書」

二 六月十四日調

「張作霖列車爆破事件仮調書」

奉天 発

本省 6月21日後着

付註シ

(3)第二、事件當時ノ警備状況ノ項ニ於テ(a)日支間警戒打合
ヲ記シ之ニ支那側ノ橋軌上共同警戒申出ニ対シ我方ニ於

テ之ヲ拒絶セルコト(b)日本側ノ警備(c)日本側ノ見タル支
那側警備振之ニ対スル支那側ノ主張ヲ保留シ
四第三、拳動不審者ノ出現ノ項ニ於テ我守備兵ノ為メ殺害
サレタル支那人二名ニ付キ本爆破事件関係嫌疑者トシテ

ノコトト思フ

我守備隊側ヨリ現場ニ於テ説明及証拠類ノ提示アリタル
コトヲ陳述シ

コトヲ陳述シ

在奉天日本總領事館
領事 内田 五郎

在奉天總領事 林 久治郎殿

列車爆破事件調査報告書提出ノ件

(五)第四、爆破ノ原因ノ項ニ於テ共同調査ニ着手セルハ事件
後四時間半ヲ経過シ原跡崩レ且爆破ノ原動物件爆破方法
等ハ専門的知識ナキモノノ判定ヲ得サル處ナルモ被害ノ
状況及程度ヨリ推シ相当多量ノ爆薬ヲ使用シ電気仕掛け
依リタルモノナルヘク爆薬ハ結局後部ト食堂車前部付近
ノ車内上部カ又ハ橋脚鉄杭ト石垣ノ間ノ空隙個所ニ装置
セルモノト認メ尚「クロス」通過ノ際列車ノ速力緩慢ナ
リシコト及本爆破ハ列車ノ編成ヲ好ク知ルヲ要スル点ハ
本件真相ヲ知ルニ有力ナル論拠タルヘキ観察ヲ下シ支那
側ハ爆薬装置個所ニ付テハ全然明確ナル意志表示ヲ避ケ
タルコト付言セリ全文郵送

北京、上海、天津、青島、廣東、哈爾賓、吉林、齊齊哈
爾、長春ヘ転電シ間島、鐵嶺、遼陽、安東、牛莊、滿州
里、鄭家屯、通化、海龍、新民府ヘ暗送セリ

(付記一)

*昭和三年六月二十一日

昭和三年六月四日午前五時半奉天郊外滿鉄京奉兩鐵道交叉
地点ニ於テ勃発セル列車爆破事件ニ付依命八ヶ代副領事及
久保田、折笠両書記生帶同四日及五日ノ両日午前十時ヨリ
午後一時半迄ノ間奉天交渉署閔第一科長及安第三科長ト現
場ニ就キ立会ノ上被害状況、現場警備状況、犯人系統及爆
破原因等ニ付詳細調査ヲ了セリ

仍テ右共同調査ノ結果ニヨリ之カ共同報告ヲナスコト其ノ
必然ノ任務ト思考セルニ付本官ニ於テ報告書ヲ起案ノ上六
月十二日之ヲ安第三科長ニ手交シ其ノ審議ニ入リテヨリ十
五日ニ至ル迄前後數回ニ涉リ閔第一科長及安第三科長ト交
渉ヲ重ねタル處支那側ニ於テハ詳細ノ点ニ至ルヤ態度ヲ暖
昧ニシ或ハ初ヨリ共同調印ノ意思ナカリシト避ケ又ハ其任
務ヲ有セスト避ケタルニ付本官ハ共同調査ハ支那側ニ於テ
之ヲ応諾シ現場ニ就キ事實之ヲ行ヒ我報告案ヲ受理シ審議
ニ入リタルモノナルコト及其結果ハ之ヲ取纏メ事件ノ真相

ヲ出来得ル範囲内ニ於テ明カニスルコト両国ノ為得策ナル
コトヲ力説シタルモ支那側ハ上局ニ於テモ事重大ナリトシ
テ本件共同調査報告ヲ好マス事件ハ其儘ノ推移ニ任カス意
向ナルヤニテ立会者ニ於テ共同調印ニ応シ得サル事情アル
モノノ如ク我方ニ於テモ強ヒテ之ヲ求ムルハ本志ニ非サル
ニ付共同調印ヲ止メ本官単独報告ヲ基礎トシ参考ノ為メ之
ニ支那側トノ共同審議ニ於ケル意見ノ相違セル点ヲ註シ別
紙ノ通り報告書ヲ提出スルコトトセリ

(別紙)

昭和三年六月四日満鉄京奉交叉地点列車爆破

事件報告

第一 破壊被害状況

(甲)満鉄会社側ノ破壊被害

(添付)写真第一号

別紙見取図中(1)(2)(3)間ニ架設セラレタル二条ノ陸橋中

(1)(2)間ノ陸橋半下路橋及上路橋ノ二条ハ橋脚上部破壊ノ
為メ墜落シ西側半下路橋桁ハ見取図中(1)付近ニ東側上
路橋ハ(2)付近ニ夫々横タハリ(2)間陸橋ノ西側半下路橋
橋ハ(2)付近ニ夫々横タハリ(2)間陸橋ノ西側半下路橋

(B)橋脚(添付写真第一号)

見取図中(1)ノ橋袂石崖ハ其上部ニ少許リノ破損ヲ認ムル
外他ニ破損ノ箇所ヲ見サルモ火力ノ為石崖ハ相当損害ヲ
受ケ居ルモノノ如シ

見取図中(2)ノ橋脚ハ被害最モ甚タシク橋脚石崖上部両角
中東側ハ十分ノニ西側ハ十分ノ一破壊セラレ居ル外爆破
及火災ノ為石材殆ト風化シ且上部ヨリ地上ニ達スル亀裂
ヲモ認メラルルヲ以テ全然取替フルニ非サレハ将来使用
ニ堪エ得サル状況ニアリ

(C)電線 鉄橋付近満鉄用電線ハ全部切断セラレ付近ニ散乱
セルヲ認メタリ

(乙)支那側ノ破壊被害

(A)貴賓車(津浦線車輛三号車添付写真第二号)

見取図中(1)地点「ガード」ノ東方數十間ノ地点ニ於テ稍
北方ニ傾斜シタル儘停車セリ其被害ヲ検スルニ車輛屋根
及側面窓等粉碎セラレ其ノ内部ニ鉄道枕木石材等散乱シ
居タルモ車輪ニ損害ヲ認メス該車輛内部壁間ニ多量ノ飛

散血痕アル点ヨリ考察セハ車内ニハ多少ノ死傷者アリシ

モノノ如ク思料セラルモ車内ニ死傷者ヲ見サルモ支那

側立会者ハ同車内ヨリ于參謀次長ノ運転手何倫志ノ死体

一個ヲ発見収容シタル旨述ヘタリ

(B) 展望車（第八〇号車輛張作霖ノ乗車シタルト云フ客車添付写真第三号）

本展望車ハ車輪及床ノミヲ残シ一見船檻ヲ失ヒタル難破船ノ如キ格恰ニテ見取図中（ト）「ガード」東端ヨリ四、

五間東方ニ稍西南ニ傾斜シタル儘残骸ヲ横ヘ屋根其他窓等ハ飛散シテ其兩側ニ片影ヲ止ム同車ト食堂車トノ中間ハ被害車輛中爆発ノ焦點タリシモノノ如ク破壊ノ程度最甚シク同所ニ一個ノ焼死体ヲ発見シタルカ其僅カニ焼残リタル名刺ニヨリ李子亨ナルコトヲ知レリ右ニ閑シ支那側ハ同人ハ食堂付「ボーア」ナリト云ヘリ

(C) 食堂車、寝台車（車輛第二一六号及二一四号添付写真第四号）

食堂車ハ見取図中（ト）付近ニ寝台車ハ之ニ連続シテ其西方ニ残骸ヲ止メ共ニ焼残リノ車輛及鉄骨ノ外全部焼失シタリ食堂車ノ北側ニ一個ノ焼死体発見シタルカ支那側立

会者ハ右ハ女ノ死体ナリト主張セリ

(D) 食堂車残骸ノ横ハレル地上ノ「レール」破損シ枕木ニモ多少ノ被害アルモノノ如ク認メラレタリ

註以上各項ニ付支那側立会者ハ何等ノ異議ヲ止メス

第二 事件当時ノ警備状況

事件発生前後ノ満鉄京奉「クロス」地点警備状況ニ付日本側三島守備隊長、三谷憲兵分隊長及支那側憲兵隊金中尉ノ談及各種情報ヲ綜合セハ左ノ如シ

(A) 日支間警戒打合

三日午後三時半頃支那側憲兵隊金中尉ハ齊司令ノ代理トシテ三谷憲兵分隊長ヲ訪ネ同夜張大元帥帰奉ニツキ齊司令ハ瀋陽駅皇姑屯駅間京奉線ヲ騎兵五十余ノ外憲兵數名ヲ以テ警戒シ度キ處南満線日本守備隊ト衝突アリテハ面白カラサルニ付平素知合ナル日本憲兵數名ヲ同地ニ派シ鉄橋下警戒ノ連絡ヲトルト共ニ支那側憲兵モ時々橋上ニ到リ連絡ヲトリタキ旨申出アリ三谷分隊長ハ橋上ハ満鉄汽車通行線ナルカ故ニ日本側ニテ警戒スヘタ支那側憲兵ノ同所ニ到ルハ却テ誤解発生ノ虞モアルニ付之ヲ拒絶シ橋下ノ警戒ニ付テハ上司及軍司令部トモ打合セ特ニ支那

側ノ要望ヲ容レ之ヲ支那側ニ譲ルコトシ同夜八時頃下士一名上等兵二名ヲ金中尉ト共ニ現場ニ派遣シ守備隊分遣所ニ駐屯時々「クロス」地点ニ降リ支那側ト連絡ヲトラシメタリ

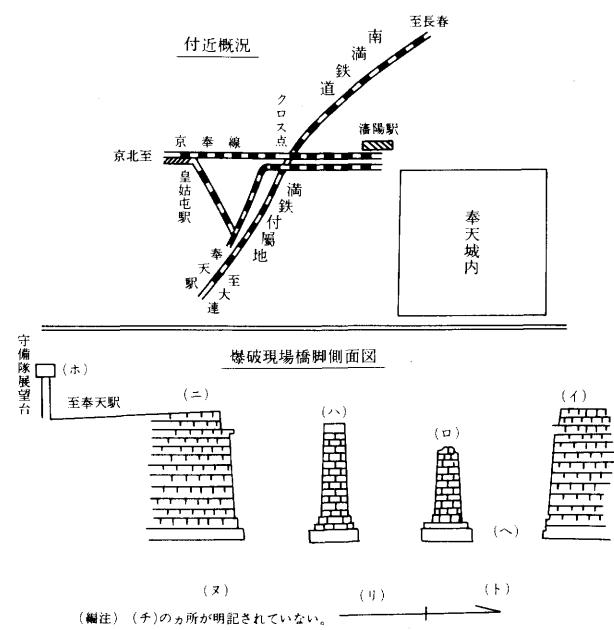
説右ニ対シ支那側ハ三日午後三時半金中尉三谷憲兵分隊長ヲ往訪シ橋上ニモ支那憲兵時々登リ連絡取り度旨申出タル処三谷憲兵分隊長ハ之ヲ承諾シタルニ拘ラス同夜八時現場ニ赴ク際軍司令官ヨリノ命ナリトシテ支那側憲兵ノ橋上ニ到ルヲ拒絶セリト異議ヲ述ヘタリ

(B) 日本側警備

「クロス」地点付近ノ日本側満鉄線守備兵ハ平素八名ナルモ三日夜ハ八時前ヨリ十六名ニ増員シ之ニ將校一名ヲ付シ特ニ警備ヲ嚴ニシ約一時間毎ニ守備兵一名ヲシテ件勃發當時ハ夜明後ナリン為當番守備兵一名ハ展望台ニアリテ周囲ノ警戒ニ任シ其他ハ分遣所内ニアリテ休息シ居タリ

(C) 支那側ノ警備

瀋陽駅ノ警戒ハ相當嚴重ナルモノノ如クナルモ皇姑屯藩



見取図

編注

添付写真第一号より一三号は、同文書に添付されておらず、また、別紙見取図も添付されていない。なお、参謀本部編『昭和三年支那事変出兵史』(七四頁)によれば、見取図は次のとおりである。

(付記二)

* 張作霖列車爆破事件仮調書

(昭和三年六月十四日調)

昭和三年六月四日張作霖北京ヨリ奉天ニ帰還ノ途中午前五時三十分其搭乗列車カ奉天城ヲ去ル約一糠ノ南満、京奉両鉄道「クロス」地点ニ差掛ルヤ突然爆破セラレ張作霖吳俊陞以下奉天派要人多数ノ死亡シ又ハ重輕傷ヲ負フニ至ルカ今日迄ニ判明セル右事件経過概要左ノ如シ

一、列車爆破ト其ノ當時ノ状況

(イ)爆破、昭和三年六月三日午前一時十五分張作霖ハ護衛二個列車ヲ先頭ニシ北京ヲ出発シ奉天ニ向ヘルカ途中山海関ニテ吳俊陞以下奉天派要人多数ノ出迎ヲ受ケタル上吳ノ乗来レル列車ヲモ先行車ノ中ニ加ヘ(但シ吳俊陞ノミハ張作霖ト同車ス)同日午後八時山海関ヲ出発セリ然ルニ翌四日午前五時三十分右張作霖搭乗車南満、京奉両鉄道「クロス」地点ニ差掛け突然一大音響ト共ニ爆破セラレタルカ右ニ付当时張作霖及吳俊陞ト同乗シ居タル儀峨少佐ノ談ニ依レハ張作霖ハ一時失神状態ナリシモ間ニ対シテハ答アリタル由ニテ其ノ内護衛兵集マリ来リ付

ハ展望台付近ノ満鉄線路堤防ノ中腹ヲ密行セル挙動怪シキ支那人三名ヲ発見シ之ヲ誰何シタル処右支那人ハ手ニセル爆弾様ノモノヲ振上ケタルヲ以テ防禦上已ムナク二名ヲ刺殺シタルニ同支那人ハ手榴弾(添付写真第六号)及凌印清号乃至十三号ヲ所持セルヲ発見シタル趣ニテ右兩人ハ本爆発事件関係嫌疑者ナリトシテ各証拠箇ヲ提示シタリ

(註)右ニ対シ支那側ハ何等異議ヲ止メス

第四 爆破ノ原因

共同調査ニ着手シタルハ事件後四時間半ヲ経過シタル後ノコトトテ支那側消防隊及満鉄現業員等輯集シ消火及応急措置ヲトリ爆破當時ノ原形相当崩レ居タルノミナラス爆破ノ原動物及爆破方法等ニ付テハ専門的知識ヲ有セサル者ノ判定シ得ナル処ナルモ調査ノ結果被害ノ状況及程度ヨリ推シ相当多量ノ爆薬ヲ使用シ電気仕掛け爆発セシメタルモノナルヘク爆薬ハ橋上地下又ハ地面ニ装置シタルモノトハ思ハレス又側面又ハ橋上ヨリ投擲シタルモノトモ認メ得ス結局爆薬ハ第八〇号展望車後部乃至食堂車前部付近ノ車内上

在奉天帝国總領事館

領事 内田 五郎

部カ又ハ(ロ)橋脚鉄桁ト石崖トノ間ノ空隙箇所ニ装置セルモノト認メラレタリ尚被害ノ焦点タル展望車ト食堂車トノ中間付近「クロス」ノ東端ヨリ僅カ十五米突ノ地点ニ於テ停車セル事実並被害車輛及後続車輛カ殆ント脱線シ居ラサル事実ニ徴シ陸橋下通過ノ際ニ於ケル該列車ノ速力ハ緩慢ナリシモノト認メラレタル点及関係列車ハ数個列車ニ分タレ本件被害列車ハ二十輛ノ多キヨリナリ時々編成替モ行ハレ得ヘク外部ヨリ各車輛ノ位置ヲ知ルコト頗ル困難ナルニ拘ラス爆発カ殆ト其目標車輛ヨリ外レサリシ事実ヨリ推察シ本件犯人ハ列車ノ編成ニ常ニ注意シ能ク之ヲ知レルモノト認メラレタル点ハ本件真相ヲ知ルニ有力ナル論拠タルヘシト思考セラレタリ

(註)右ニ対シ支那側ハ爆薬装置箇所ニ付テハ明確ナル意志表示ヲ避ケタリ
右ノ外事件ニ関係アリト認メタルモノハ悉ク之ヲ写真ニ撮リ共ニ記録ニ止ムルコトトセリ 以上

昭和三年六月二十一日

近ニアリタル自動車ニ張ヲ救ヒ入レ奉天城内將軍公館ニ連レ行キタル如ク又吳俊陞ハ自己ノ衛兵他ノ列車ニ居タル為後ニ至リ救ハレテ奉天城内ノ私宅ニ移サレタルモノノ如シトノ趣ナリ

(a) 現場ノ警備、爆破ノ現場ハ南滿、奉海兩鐵道ノ「クロス」地点ナリシ為日支双方ノ警備ノ責任ニ関シ新聞紙等ニ於テ種々議論ヲ生シタルカ右ニ閔シ同地方南滿沿線ヲ警備シ居タル三谷憲兵少佐ノ談ニ依レハ六月三日支那憲兵隊蔡司令代表者ハ三谷少佐ヲ訪ヒ同夜張大元帥帰奉スヘキニ付蔡司令ハ瀋陽、皇姑屯両駅間ノ京奉線ヲ騎兵五十名ノ外憲兵數名ヲ以テ警戒スヘキ處南滿線ヲ日本側ニテ警戒スル關係上万一両線「クロス」地点付近ニテ日支間ニ衝突等有リテハ面白カラサルヲ以テ平素知合ノ日本側憲兵隊ヨリモ數名ヲ同地点ニ派遣シ連絡ヲ取ラレ度キ旨申出有リタルニ付三谷少佐ハ上司及軍部トモ打合セノ上右支那側ノ望遠ヲ容レ其ノ結果三日午後八時頃下士一名上等兵二名ヲ支那側ニ赴カシメ尚我憲兵ハ守備隊監視所ニ駐在シ時々「クロス」地点ニ至リ支那側ト連絡ヲ取リ居タル由ナリ

然ルニ瀋陽駅ノ警戒ハ相當嚴重ナリシニモ拘ハラス瀋陽皇姑屯両駅間約一哩ノ沿線ハ前記五十名ノ騎兵隊（但シ警戒地ニテハ乘馬シ居ラサリシ由）ト前記日支連絡ノ為ノ憲兵數名之ニ當リ居ルノミニテ「ガード」近クニハ漸ク一、二名位併ミ居タル由ニテ又事件當時現場ニ居合セタル吉野刑事ノ談ニ拠レハ事件前數十分頃警戒兵ノ中五、六名乗馬ニテ現地ヲ去リ何レヘカ向ヒ又「クロス」地点ノ滿鉄「ガード」ヨリ西方ニハ殆ント警戒兵ヲ認メス東方沿線ハ「ガード」付近ニ一名夫レヨリ數十間ヲ離レテ三、四名位アリタリトノ事ニテ何レニスルモ警戒手薄ナリシハ事實ナルカ如シ

他方南滿鐵道線路ノ警戒ニ付テハ京奉線トノ「クロス」地点ヨリ南方二百米突ノ地点ニ分遣所及櫓式見張所アリ平素ハ八名ノ守備兵ヲ置キタルモ當夜八時前之ヲ十五名ニ増シ將校一名ヲ付シ警戒セシメ約一時間毎ニ守備兵一名及憲兵等「クロス」地点方面ヲ巡回シ支那側ト連絡シ居タリ（尚同夜十一時頃支那人數名ヲ監視所付近ニ認メタルカ次テ四日午前三時半頃三名ノ拳動怪シキ支那人ヲ認メタルニ付我守備兵三人ニテ誰何セルニ抵抗シタルヲ

以テ即座ニ突殺シタルカ其後事件迄別段ノ事ナク事件直後支那兵ハ狼狽シテ我方ニ向ツテモ機関銃ヲ濫射シタルカ日本側応射セス其中銃声止ミタル趣ナリ

(b) 犯人、本件爆破ハ其結果ヨリ判断シ相當大仕掛ニ而モ充分ノ準備ヲ以テ実行セラレタルモノト認メラルモ後述(二)日支共同検証ノ結果大体其ノ裝置個所等判明シタルノミニシテ未タ其ノ何人ノ手ニヨリ又如何ナル方法ヲ以テ行ハレタルモノカハ判明セス

但シ前顯(a)末段我守備兵ニ突殺サレタル支那人ノ懷中ニハ露西亞式ラシキ爆烈弾ト破レタル漢字ノ手紙アリ其ノ内容ハ「一機再ヒ来ラス決行スヘン」トノ趣旨ノ南方側ノ密書ニテ又封筒ニハ奉天付属地彌生町ノ住所ト東三省宣撫使凌印清ナル名前記セラレ居タル由ナリ而シテ右凌印清ハ事件直後奉天付属地ニ居タルニ付我私服憲兵護送ノ下ニ密ニ大連ニ送リ取調中ナル趣ニ付其ノ内何等カノ真相判明スヘシト予期セラル（凌ハ予テヨリ楊宇霆其ノ他支那側各方面ニ相当連絡アルモノノ如シ）

(c) 日支共同検証、在奉天林總領事ハ不取敢日支共同シテ現場検証ヲナシ置ク必要アリト認メ六月四日及五日在奉

(d) 「クロス」地点（南滿線ハ陸橋ニヨリ上部ヲ通り京奉線ハ陸橋ノ下ニ通ス）鐵橋下付近線路上ニ張作霖等ノ乗リ居タル貴賓車次テ食堂車及寝台車ノ順序ニテ三輛残骸ヲ止メ其ノ前方東方數十間ノ地点ニ上部破壊セル鐵鋼車一輛アリ爆弾ノ命中セルハ食堂車ラシク爆発ト火災ノ為鐵骨ヲ止ムルノミ貴賓車ハ屋根、窓硝子吹キ飛ハサレ床ノミ残り寝台車ハ焼尽サレタリ爆破ハ張ノ乗車中ノ居室ヲ狙ヒタルモ外レテ其隣室ト食堂車ニ命中セルモノノ如シ京奉線山領技師及英人顧問等ノ言ニ依レハ京奉側損害約二十万円内外ノ由、京奉線ハ一時不通トナリシモ六月七日復旧セリ

(e) 京奉線上ノ滿鉄線陸橋ハ墜落シ滿鉄線モ一時不通トナリシカ即日仮橋ヲ建設シ列車ヲ運転セリ滿鉄側損害約

五、六万円ノ由

スシテ上部陸橋ノ何処カニ装置セラレタルモノト認定
サレ支那側ハ橋上ヨリ下ニ吊シタルモノナラムト言ヘ
ルモ或ハ橋上「スパン」付近ニ装置セルニアラスヤト
ノ疑アリ

二、張作霖其ノ他要人ノ被害

張作霖ノ容体ニ付テハ支那側ニ於テ之ヲ嚴秘ニ付シ居ル
為正確ナル處ヲ知リ得サルモ奉天留守司令臧式毅其ノ
ノ談ヲ綜合スルニ張ノ負傷ハ眼瞼、頬、足部等ノ小怪我
並腕骨ノ挫折等ニテ且脳震盪ニ惱マサレ居ル趣ナリ又支
那側ニテハ些シタルコトナキ様宣伝シ居レ共既ニ六月四
日死亡説サヘ伝ヘラレ居レリ而シテ林總領事ノ意見ニ依
レハ車輛ノ破壊状態及此ノ後ノ諸般ノ事情ヨリ察スルニ
張ハ未タ死亡ニ至ラストスルモ少ナクモ非常ナル重傷
ト認ムルコト真ナルカ如シトノ由ナリ

吳俊陞ハ事件後間モナク死亡シタル趣ナルカ黒竜江省政
府ニ於テハ奉天上將軍公署ヨリ吳督弁病氣ニテ當分黒竜
江省ニ帰任出来サルニ付第十八師團長吳泰来（吳俊陞ノ
甥）ニ黒竜江省督軍護理ヲ命スル旨電報アリタル趣ヲ六
月八日發表セリ

尚莫德惠重傷、于國輸、潘復輕傷ヲ負ヒタル由ニテ其ノ
他ニモ重輕傷者多數アル模様ナリ

三、日支間ノ関係

- (1) 事件當時支那側衛兵ハ狼狽シ機関銃其ノ他ヲ濫射シ我
鐵道守備隊ニモ弾丸飛来セルモ我方之ニ応射セサリシ為
少時ニシテ止メリ

(2) 事件後支那人間ニハ爆破ハ日支人ノ所為ナリトノ宣伝
アリタル為本邦人ニ對スル支那人ノ心理頗ル悪化シ奉天
付属地外居留邦人ノ脅威ヲ感スルモノ多ク為ニ奉天城内
居住者ノ大部分モ事件後自發的ニ付属地ニ避難シタリ尤
モ支那側ニテハ対日感情ノ悪化ニヨル日支間ノ衝突ヲ惧
レタルモノノ如ク支那新聞紙ニ對シテハ爆破事件ニ付全
然沈黙ヲ守ラシメ何等ノ記事議論ヲモ掲載セシメス
然ルニ奉天省城付近ニハ黒竜江軍（約二、三〇〇）駐屯
シ居ル處吳俊陞死亡ノ報アリテ以來同軍ハ日本側ニ對シ
復仇ヲナスヘシトノ説頻ニ伝ハリ居留民ノ不安増大セリ
右ニ對シ林總領事ハ各方面トモ連絡シ嚴重警戒スルト共
ニ六月八日館員ヲシテ臧參謀長（留守司令）ニ對シ警備
方ヲ極力申入シメ置キタル處支那側ハ全責任ヲ負フヘキ

旨言明セシ趣ナリ（尚林總領事ハ六月七日交渉員宛爆破
事件犯人逮捕及此種事件再発防止方ヲモ公文ヲ以テ要求
シ置ケリ）

(b) 吉林省、黒竜江省等ニ於テモ本件ニ関シ種々謠言伝ハ
リ人心動搖セルノミナラス邦人ニ對スル感情モ多少悪化
ノ徵候アルカ如キモ目下ノ處支那側ニ於テ嚴重警戒ヲナ
シ居ル為メ未タ特ニ不穩ノ行為等無シ但シ我關係各領事
ニ於テハ充分情況ニ注意シ万一名の場合ニ備ヘツツアリ

140

昭和3年6月21日 田中外務大臣より

在奉天林總領事宛（電報）

張學良を訪問し大臣の命として弔意伝達方訓
令

貴電第三四九号ニ閲シ

本省 6月21日後11時25分発

141

昭和3年6月22日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

張作霖搭乗列車爆破事件我方単独報告の中国

側宛送付および全文発表方について

付記 六月二十三日付在奉天錦田公所長より在大連

松岡南満州鉄道会社副社長宛電報奉公情第五
シト思考セラルルニ付慣例ハ慣例トシ此際成ルヘク速ニ貴

亡ニ加フルニ時局收拾ノ大任ニ当リ種々混雜ヲ重ネ居ルヘ
る情報について

四号

張學良未タ貴官ニ挨拶ニ來リ居ラサルカ如キモ張作霖ノ死
亡ニ加フルニ時局收拾ノ大任ニ当リ種々混雜ヲ重ネ居ルヘ
シト思考セラルルニ付慣例ハ慣例トシ此際成ルヘク速ニ貴

奉天 発
本省 6月22日後着

*第三五〇号

列車爆破事件調査ノ結果ハ往電第三四八号ノ通共同調印ニ至ラス昨二十一日既ニ内田ヨリ単独報告トシテ提出アリタル処右ハ軍側トシテモ打合ヲ了セルモノニシテ仮令共同調査ニ非ストスルモ幾分ニテモ我方立場ヲ有利ナラシムルモノト存セラルニ付右報告ヲ参考トシテ支那側へ送致スルト共ニ全文発表スルコトト致シタク御承知アリ度シ

(付記)

奉公情第五四号 昭和三年六月二十三日

奉天公所長 鎌田 弥助

副社長殿

写送付先 支社長、庶務部長、哈事長、各公所長、総領事、特務機関長、第十四師団司令部、守備隊、憲兵隊長

張大元帥カ元帥府並各部ノ印章ヲ悉ク携帶シテ帰奉ノ途ニ

言フ神託テアル諸君ト共ニ奉天ニ帰ツテ此儘臨時政府ヲ奉天ニ移シ度イト言フ極メテ簡単ナモノテアツタ之ニ対シテ何人モ答フルトコロナカツタカ蔭テ或一人ハ声ヲ細メテ「大元帥ハ何故ニ八百倍モ好イ奉天ヲ捨テ北京三界迄乗リ出シテ来タノテアルカ幾分今ノ言葉ニ矛盾カアリハシナイカ」ト揶揄ヒ半分ニ言ツタモノカアツタ

「四日ノ大爆破ニヨツテ大負傷ヲ受ケ途中車内テ多量ノ出血ヲ見府内ニ帰ツテ後ハ殆ント身心共ニ疲レ切ツテ僅カニ呼吸ノミテアツタカ東北病院杜院長ノ注射ニ依テ漸ク僅ノ間意識力回復シタ其際ニ「我走了、我不管了」ト言フ最後

要請について 奉天 発

142 昭和3年6月(24)日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

張学良に対し弔意表明の際張より日本の援助

其代リ官場殊ニ軍閥ハ孰レモ万事消極的ニ傾キツツアル

第三五九号(極秘)
貴電第一〇〇号ニ閔シ
二十四日本官張学良ヲ往訪シ御訓令ノ趣旨ニ從ヒ弔意ヲ表シ閣下ノ御好意アル處ヲ伝ヘタルニ張ハ故人カ生前閣下並ニ日本政府ヨリ受ケタル恩義ト援助ハ自分ニ於テモ良ク之ヲ了得シ居リ特ニ閣下ニ対シテハ親子ノ如キ情誼ヲ覚ヘ感謝ニ堪ヘスト述ヘ更ニ今回督弁就任ニ際シ省内父老ニ宛テタル通電ノ趣旨ニ基キ政務ヲ執リ行フ考ナルカ将来日本ノ援助ヲ待ツニ非サレハ到底民意ニ投合セル施設ヲナス能ハス冀クハ日本政府ニ於テ故人ニ与ヘラレタルヨリ以上ノ支持ヲ与ヘラレム事ヲ懇請シタシ自分ハ東三省ニ於ケル日支

「斯ノ爆破ハ日本人テモナイ労農テモナイ内部ノ陰謀テモナイ天ノ為セル戒メテアル」ト

親善關係ニ顧ミ今後ハ保境安民主義ニ依リ両國民ノ利益均

霧ニ努ムヘク仮令日本側ニ六分ノ利アリ支那側ニハ僅カニ

四分ノ益アル場合ト雖其ノ事業ノ性質カ日本ノ親善ニ資ス

ル處アラハ決然実行スヘシト述ヘ次ニ督弁ニ於テ今後日本

政府ニ希望ノ次第モアラハ遠慮無ク申出テラレ度シトノ御

伝言ニ対シ日本政府ノ好意ニ反スルハ勿論不可ナルモ両国

ハ日支ノ邦交ニ就テハ最善ノ努力ヲ吝マサルモ余既ニ支那

人ナル以上三省民衆ノ意志ニ反スルハ勿論不可ナルモ両国

ノ福利ヲ増進セシムルニ於テハ何事ニ拘ハラス誠意ヲ吐露

シテ事ニ當ルヘク就テハ今後一層ノ好意援助ヲ与ヘラレム

事ヲ伝達ヲ請フト答ヘ終リニ今後三省ノ善後処置ニ付テハ

別ニ改革ヲ行ハサルヤフ尋ネシニ自分トシテハ服装中ハ出

來得ルタケ先考ノ遺制ヲ守ル積リナルモ万事目下協議中ナ

リト述ヘ更ニ南方ニ対シテハ大体民国十二年即チ第一奉直

戦後ノ立場ヲ取り閔外ニアリテ保境安民主義ニ基キ三省ニ

保安司令ヲ設ケ其内ヨリ東三省保安總司令ヲ推挙スヘク又

奉天省行政長官タル劉省長ハ自分等父子ニ対シ忠実ニ奉仕

セル事ニモアリ別ニ更迭ヲ行ハサル考ナリト答ヘタルカ本

官ハ督弁ニ対シ特ニ自重自愛シテ共ニ日支親善ニ努力スヘ

キ旨ヲ懇談シ置ケリ
北京ニ転電セリ

凌印清の張作霖爆死事件に関する言動について

143 昭和3年6月(24) 在奉天林総領事より

田中外務大臣宛(電報)

奉天 本省 6月24日後着

*第三六〇号

凌印清カ爆破事件ニ関係アリヤ否ヤハ本人ハ時ニアルカ如ク言訳シ居ル模様ナルモ俄ニ信用シ難キ處最近同人ハ又復奉天ニ来リタル趣ニ付貴電ノ次第モアリ同人今後ノ処分方ニ付軍及閏東厅側ト打合セノ結果同人カ今後支那側其他ニ對シ如何ナル言動ヲナシ例ヘハ爆破事件カ日本側ノ所為ナリト言フモ何等根拠ナキ處故差支ナク寧ロ此上余リ我方ニテ監視的態度ヲトルコトハ恰モ我方ニテ保護シ居ル如ク謂解モ招ク嫌モアル故ニテ夫レトナク動靜ヲ注意スル位ニ止メ若シ又支那側ヨリ同人ノ引渡ヲ要求シ来る場合ニハ強テ

(現在熱河ニハ湯玉麟、高維嶽軍アリト)ヲ防止スル上ニ

於テ作戦上是非共必要ナリトノ趣ナルカ果シテ然ラハ奉天軍ヲ全部閔外ニ引上ケシムル場合ニハ熱河方面ヨリスル南

軍攻撃ノ脅威ヲ受ケ易ク東三省治安ヲ念トスル我方トシテ

ハ予メ之ニ対シ如何ニ措置スルヤノ考慮ヲ必要トスヘク去

リトテ奉軍ヲ今後長ク灤州左岸ニ止メシムル事ハ

(一)同軍ト南軍トノ衝突ヲ誘致シ易ク又其ノ反面ニハ

(二)右兩者ノ接近妥協ニ依リ南軍ノ閔外ニ対スル勢力ヲ侵入

セシムル結果トナル事モアリ得ヘク右何レニスルモ当地

方治安ノ為面白カラサルヘキヲ以テ此ノ際灤州撤退ヲ奉

天側ニ勧告実施セシムルヲ得策ト思考スル処斯ノ如キ勧

告ニ対シテハ南軍侵入ノ場合帝国政府ニ於テ北軍ヲ援助

シテ南軍ノ滿蒙侵入ヲ防クノ決意アリヤラ反問セラル

事アリ得ヘキ次第ナルカ卑見トシテハ更ニ此ノ際出来得

ル限リ奉天軍ヲ速ニ閔外ニ引揚ケシムル事諸般ノ関係上

得策ト存セラルヲ以テ将来万一熱河方面ヨリノ南軍侵

入アル場合ハ我方トシテ断乎タル態度ニ出ツヘキ事ヲ奉

天側ニ知ラシメテ彼等ヲ安心セシメ前記引揚ヲ勧告スル

コト妥当ノ策ト存セラル就テハ右ニ閔シ何分ノ御回訓ヲ

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

請フ

軍側トモ一応話済ミ

北京ニ転電セリ

145 昭和3年6月27日 在奉天林総領事より

田中外務大臣宛(電報)

張作霖搭乗列車爆破事件の日本側単独発表見合せ意見具申

奉天 本省 6月27日後着 発

*第三七四号

爆破事件共同調査ノ件ニ關シ支那側カ右共同調査ノ発表ヲ好マサル理由ハ主トシテ爆破地点支那側警備ニ手落アリタルヲ自認シ其ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルヲ恐レタル為ト思考セラル処其ノ後ノ状況ヨリ見ルニ支那側好マストテ我方ニテ单独発表センカ支那側モ勢ヒ自己ノ立場ヲ弁明スル必要上事実ヲ糊塗シ例へハ「クロス」地点ハ日本側ニテ警備シ支那側要求ヲ容レサリシ等種々誠シヤカニ並ヘテ發表スルニ至ル無キヤノ惧アリ斯クテハ却テ我方ヲ不利ナラ

北京へ転電セリ

右御参考迄

昭和3年6月27日 在奉天林総領事より

田中外務大臣宛(電報)

146 張学良に対し東三省治安維持に関する日本の関心につき申入れ方訓令

本省 6月27日後4時発

*第一〇三号

貴電第三五九号(四二文書)ニ關シ
貴官ハ張学良ニ面会シ貴官並貴志中將ヲ経テ本大臣ニ致サレタル伝言ハ委細了承セリ自分ハ東三省刻下ノ急務ハ同地

方ノ治安ヲ維持シ保境安民ヲ策スルニ在リト信スルニ付督

弁ニ於テハ單リ奉天省ノミナラス三省全体ニ亘ル治安維持ニ付責任ヲ引受ケ時局ヲ收拾スルノ覺悟アルヲ要スト信ス自分トシテハ督弁ノ困難ナル立場ト其ノ決意トニ對シテハ充分ノ同情ヲ有シ居レリ若シ夫レ東三省ノ治安ヲ紊サムトスル者アル場合ニ於テハ日本トシテモ要スレハ相当ノ手段ニ出ルノ覺悟ヲ有スル次第ナリ尚地方治安維持ト保境安民トニ次イテ必要ナル財政ノ整理其ノ他ニ付テハ督弁ヨリ三省ノ人民ニ発セラレタル通電中ニモ明示セラレ居ル所ナルカ自分トシテモ一々同感ニシテ是非其ノ實行ヲ期セラルル様希望ニ堪ヘサル旨申入レラレ度シ
北京へ転電アリタソ

たしむべき旨出淵外務次官の意見について

本省 6月27日後4時30分発

*第一〇四号

出淵次官ヨリ

張作相ニ對シ東三省保安總司令ノ職ニ就ク様省議會連合会代表者等ヨリ懇請シタル由ナルカ當方ニ於テハ右ハ支那通有ナル一片ノ儀礼ヲ尽シタル迄ニテ結局張作相ハ辭退シ張作良ニ於テ其ノ職ヲ引受クルニ至ルモノト観測シ居レルモ仮リニ張作相就任スルトセハ東三省保安總司令トシテ其ノ保境安民ヲ彼ニ期待スルコトハ到底六ヶ敷カルヘシ若シ此ノ際急速時局ノ收拾ヲ為スコト無クシテ東三省ヲ南方勢力ノ侵潤ニ委スルカ如キコトアラハ国民政府ノ基礎傾向ノ如何サヘ判明セサル今日憂フヘキ事態ヲ生スルカ如キコト無キヲ保セサルニ付東三省トシテハ此ノ際保境安民以テ静ニ形勢ヲ觀望スルヲ以テ上策トスヘク右ノ如キ事態ニ導クニハ先以テ張作良ヲ保安總司令トシテ三省治安ノ全責任ヲ持タシムルコト必要ナルヘシ彼ニシテ我方ノ「モーラル・サッポート」有ルヲ知ラハ奮然努力シ張作相、萬福麟、楊宇霆ノ如キモ自然彼ヲ守リ立テテ時局ノ收拾ニ銳意スルニ

147 昭和3年6月27日 在奉天林総領事宛(電報)
張学良に東三省の治安維持に関し全責任を持

至ルヘキ義ト思考ス此主旨ニ基キ往電第一〇三号ノ通リ貴官ヲ経テ大臣ヨリ学良ニ申入レムトスル次第ナルカ右ハ内政不干涉ノ主義ヲ捨テタルニ非サルハ勿論ニシテ唯往電第一〇二号ニテ申進シタル我方ノ心持ヲ適宜先方ニ通シテ以テ時局ノ收拾ニ便セシメムトスルノ趣旨ニ外ナラス
尚從来右ノ如キ申入レヲ為ス様ノ場合ニハ往々領事館以外ノ「チャンネル」ヲ通シタルコトアルモソレニテハ自然外交ノ統一ヲ紊スノ虞モ之レ有ル故爾後此ノ種ノ事モ一切貴官ヲ通シテ之ヲ為シ度シトノ大臣ノ希望ナルニ付右御含ノ上可然御配慮相成タシ

148 昭和3年6月29日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

関内奉天軍は山海關以北へ引揚げの旨張学良
の談話について

| | |
|-----|---------|
| 奉 天 | 發 |
| 本 省 | 6月29日前着 |

第三八二号

六月二十九日張學良ニ面会シ貴電第一〇三号御訓令ノ通申

入レタルニ張ハ厚ク閣下ノ御好意ヲ感謝シ東三省保安總司令ノ職ハ自分ノ父トモ云フヘキ張作相ノ勤モアリ旁三省會議會連合会推薦等ノ形式ヲ履ミ不日履任ノ運ニ至ルヘキヲ以テ今後ノ御援助ヲ請フト述へ更ニ目下閣内ニ三、四方面軍ノ一部駐屯シ居ルモ之ハ永久ニ駐屯セシムルモノニ非ス熱河方面ニ在ル奉天軍ヲ安全ナラシムル為暫時留メ置クモ完全ナルニ至ラハ全部山海關以北ニ引揚ケル積リナリ南方ヨリハ邢土廉、于珍等連絡ニ來レルモ南方ノ形勢未タ明カナラサル今日何等輕薄ナル回答ヲ為ササル積リナリ自分ハ蔣介石ハ知ラサルモ馮玉祥、閻錫山ノ兩人ヲ知レリ兩人共信用シ難キ人物ニシテ彼等カ将来円満ニ協調シ行キ得ルモノトハ信シ難シ東三省ニハ目下約二十五万ノ兵アルモ自分ハ前言ノ方針ヲ執リ張宗昌ノ山東軍等ハ一切滿州ニ入レシメサル積リナルカ将来三省ノ防備ニハ三十万ノ兵ヲ要スト考フルモ財政上三十万ノ兵ヲ備フル事ハ不可能ナルヲ以テ不足ノ分ハ團練等ヲ以テ補フ積リナリ財政ハ督弁ノ職務ニ非サルモ保境安民ヲ實行スレハ是カ整理容易ナルヘク其ノ最近奉天票昇騰ニ見テモ明白ナリ但シ無闇ニ騰貴スルモ良リ前進シ張作霖ハ遭難ノ際其ノ中ニ在リタル由ナルカ右火薬ハ通州ニテ右列車組立ノ際裝置シタルモノト認メラルル旨内話セル由ナリ

中ニ約一噸ノ火薬ヲ仕掛け右列車ノ「クロス」通過ノ際前方（恐ラクハ機関車）ヨリ電気ノ「スイッチ」ヲ押シタルモノナルヘク展望車及之ニ連結セル食堂車及寝台車ハ滅茶苦茶ニ壞レタルモ展望車ノ前ニ在リタル貴賓車ハ四十呪許リ前進シ張作霖ハ遭難ノ際其ノ中ニ在リタル由ナルカ右火薬ハ通州ニテ右列車組立ノ際裝置シタルモノト認メラルル旨内話セル由ナリ

仏國側ハ張作霖ノ列車爆破及重傷並ニ張學良ノ帰奉等ニ関シ最迅速正確ナル情報ヲ入手シ居リタル事實モアリ時節柄何等御参考迄

奉天ヘ転電セリ

149 昭和3年6月30日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

張作霖搭乗列車爆破は車中に装置せる火薬によるとの情報入手について

北 京 発
本 省 6月30日後着

第九七〇号

150 昭和3年6月30日 田中外務大臣より
在奉天林總領事宛（電報）

奉天軍の閨外撤退ならびに共産党取締りに關し張學良の真意確認方訓令

本 省 6月30日後6時50分発

六月二十一日付在奉天總領事發大臣宛機密公第四四五号ニ
關シ三十日「ジユルナル・ド・ベカノ」主筆「ナシユボウ」ハ鐵道關係者及一宣教師ヨリ得タル情報トシテ安東官
補ニ對シ當時張作霖ノ列車ハ車中ニ裝置セル火薬ヲ電氣仕掛ニテ爆發セシメタルモノニシテ展望車ノ天井及緩房裝置

第一一〇号

原ニ内話ノ次第（貴電第三七三号）アルモ同軍カ同方面ニ集結シ居リ其引上長引クコトハ貴電〔四四文書〕第三六一号ノ如キ事態ノ発生モ懸念セラレ日本トシテハ甚夕望マシカラサル所ナルニ付貴官ハ張学良ニ対シ貴電第三六一号ノ如キ観察従テ我方ニ於テハ瀋州方面ニ集結シ居ル現状ヲ希望シ居ラサルコトモ告ケ右軍ノ处分方ニ関スル同人ノ真意ヲ問訊サレ電報アリ度右返事ノ次第ニ依リテハ當方トシテモ何トカ対策ヲ講セサルヘカラサルヘク場合ニ依リテハ公使館付武官アタリヲシテ閻錫山方面ニ何等カ申込マシムル必要生スルモノ先決問題トスルニ付右御含ノ上最近ノ機会ニ於テ学良知レス何レノ途学良ノ打明ケタル心事ナリ決心ナリヲ確ムルヲ

ノ真意御確メ御回電アリ度

次ニ支那ノ赤化共産党ノ活動ニ付日本トシテ無関心ナル能ハサルハ現内閣成立当初声明シタル通ニシテ本大臣ノ頗ル重キヲ置ク所ナルニ付貴官ハ学良ニ対シ右ノ点並作霖ノ標榜シ来レル所モ亦対赤ニ在リタルコトヲ指摘シ且日本内地ニ於テモ共産党ノ取締ニハ非常ノ注意ヲ払ヒ居ルモ共産党ハ國際的ニ連絡アリ日本トシテハ特ニ満州ニ於ケル是等分子ノ活動ニ注意ヲ払ヒ居ル次第ヲ告ケテ此点ニ対スル彼ノ

ヲ与フル事ト致スヘキニ付左様御承知置アリタシ

152 昭和3年7月(7)日 在中国芳沢公使より
付 記一 七月三日付烟（英太郎）陸軍次官より斎藤（恒）閻東軍參謀長宛電報案
奉天軍の撤退を完了させ南北の離脱を計ること緊要なりとの意見について

二 七月四日付岡本（連一郎）參謀本部總務部長より斎藤閻東軍參謀長宛電報案
松井石根第二部長より松井七夫少将へ伝えたる奉天軍の撤退実現化について

北 京 発 本 省 7月7日後着

* 第一〇〇九号

七月七日建川武官ハ本使ニ対シ當方ニモ電報アリシナランモ為念報告スル趣ヲ以テ曩ニ閻東軍司令官ヨリ參謀本部ニ

原ニ内話ノ次第（貴電第三七三号）アルモ同軍カ同方面ニ集結シ居リ其引上長引クコトハ貴電〔四五文書〕第三六一号ノ如キ事態ノ発生モ懸念セラレ日本トシテハ甚夕望マシカラサル所ナルニ付貴官ハ張学良ニ対シ貴電第三六一号ノ如キ観察従テ我方ニ於テハ瀋州方面ニ集結シ居ル現状ヲ希望シ居ラサルコトモ告ケ右軍ノ处分方ニ関スル同人ノ真意ヲ問訊サレ電報アリ度右返事ノ次第ニ依リテハ當方トシテモ何トカ対策ヲ講セサルヘカラサルヘク場合ニ依リテハ公使館付武官アタリヲシテ閻錫山方面ニ何等カ申込マシムル必要生スルモノ先決問題トスルニ付右御含ノ上最近ノ機会ニ於テ学良知レス何レノ途学良ノ打明ケタル心事ナリ決心ナリヲ確ムルヲ

ノ真意御確メ御回電アリ度

次ニ支那ノ赤化共産党ノ活動ニ付日本トシテ無関心ナル能ハサルハ現内閣成立当初声明シタル通ニシテ本大臣ノ頗ル重キヲ置ク所ナルニ付貴官ハ学良ニ対シ右ノ点並作霖ノ標榜シ来レル所モ亦対赤ニ在リタルコトヲ指摘シ且日本内地ニ於テモ共産党ノ取締ニハ非常ノ注意ヲ払ヒ居ルモ共産党ハ國際的ニ連絡アリ日本トシテハ特ニ満州ニ於ケル是等分子ノ活動ニ注意ヲ払ヒ居ル次第ヲ告ケテ此点ニ対スル彼ノ

決心ヲ訊サレ貴官限リノ思付トシテ此意味ニ於テ東三省ヘノ南方実勢力ノ侵潤並ニ露國ノ活動ニ対シテハ充分ノ警戒ヲ必要トスル旨篤ト警告的懇談ヲ遂ケラレ結果電報アリタシ

北京へ転電アリタシ

151 昭和3年7月(2)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛（電報）

奉天軍の閑外撤退ならびに共産党取締りに関する張学良の真意確認について

奉 天 本 省 7月2日後着

* 第三八七号（極秘）

貴電〔五〇文書〕第一一〇号前段閑内地方奉天軍ノ撤退ニ関スル張学良ノ意見ハ往電第三八二号先月二十九日ノ会談ニテ大体明白ナルノミナラス其ノ後ノ模様ハ漸次撤退実行ノ準備中ナルヤニ見ユルヲ以テ本件ニ関シ更ニ張学良ノ真意ヲ確カムル事ハ此處数日間ノ推移ヲ見テノ上ニ致度尚貴電後段赤化討伐ニ対スル彼ノ意志ハ最近ノ機会ニ於テ之ヲ質シ篤ト警告

對シ南方ノ政権カ急ニ満州ニ波及スルハ出来得ル限り避クルヲ可トスルノ見地ヨリ張学良一派ノ自重ヲ希望スルト同時ニ閑内ニ残レル奉天軍カ南方派ト紛糾ヲ釀シ又ハ不自然ナル妥協ニ巻キ込マルル惧アルニ付漸次之ヲ撤退セシムルノ必要アリ又一方之力為南軍カ奉天派ヲ閑外ニ追撃スルハ好マンカラサルカ故ニ之ヲ阻止スルノ要アルヘキ旨ヲ進言ノ次第アリタルニ対シ參謀本部ハ全然之ニ賛成シ陸軍次官ヨリ右実現ノ為必要ナラハ建川ヨリ南軍側ニ追撃差控ヘ方ヲ申入レシムル事一策ナル旨指令アリタリトテ過般閻東軍司令官ヨリ建川ニ対シ南方側ニ右趣旨申入方依頼越ノ次第アリタル事情ヲ述ヘ之ニ対シ建川ハ若シ南方ノ追撃ヲ阻止スルノ趣旨ナルニ於テハ既ニ五月十八日ノ當方覚書ヲ手交スルニ際シ南北両側ニ対シ篤ト之ヲ申入ルノ必要無カルヘク又仮令其ノ必要アリトスルモ南軍ニ於テ追撃ノ計画アル事確実ナル場合ニ於テ單ニ右覚書ニ付注意ヲ喚起スレハ足ルヘキモ今ノ処右様ノ計画ナシ又他方儀峨カ最近楊宇霆、張学良ヨリ得タル印象ニ依レハ学良ハ從來東三省トンハ飽ク迄保境安民主義ヲ以テ終始シ南軍ト妥協スルコト無ク兵ヲ閑外ニ退クヘキ旨ヲ声明シ居ルニ拘ハラス最近閑

錫山ノ間ニ反馮同盟ヲ策動スルノ計画ヲ立テシツアリ（右ハ楊宇霆ノ入智慧ナルカ如ク其ノ根本ニハ日本ノ圧迫ニ对抗セントスル魂胆アリトノ事ナリ）右策動ノ結果分明スル迄ハ其ノ兵ハ瀋州ヲ撤退セシメサル形勢ナリトノ趣ナル処右ハ或ル意味ニ於テ却テ奉天派カ南軍ニ対シ閔外追撃ノ口実ヲ与フルモノト云フヘク又帝国政府現在ノ方針ハ建川カ密ニ聞知スル処ニ依レハ既ニ五月十八日ノ覚書ノ趣旨トハ多少異リ居ルカ如ク（同覚書ハ南軍ノ閔外ニ出ツル事ヲ許ササルト同時ニ北軍敗退シテ閔外ニ出ツル場合ニハ武装ヲ解除スヘキ事ヲ明言シ居ルモ）最近ハ奉天軍ハ其ノ儘満州ニ帰還セシメ南軍ニ対シテノミ追撃ヲ阻止シ之ニ応セサルニ於テハ武装ヲ解除スルノ方針ヲ取ルカ如ク若シ然ラハ建川トシテハ南軍ノ諸将領ニ対シ日本ノ公平ナル態度トシテ追撃ノ好マンカラサル次第ヲ申入得サル立場ニ在リトテ右ニ関スル本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ハ建川カ右ノ如キ見地ヨリ本件申入ヲ差控フルハ從来ノ行懸上当然ノ措置ナルヘク今後若シ右様ノ申入ヲ為ス必要生シタル場合ニハ如何ナル理由ノ下ニ於テモ予メ本使ノ同意ヲ得ヘキ旨ヲ申聞

メ却テ自然ニ南方ニ通シテ我強庄ヲ防止シ支那国民ニ対スル自己ノ立場ヲ保持スルノ窮策ニ出ツルコトナキヲ保セス殊ニ近年東三省ニ於ケル官民一般ノ対外並政治上ノ思想ニ変徵ヲ來タシアルコトニ注意セハ在満洲ノ我文武官憲ノ支那側ニ対スル態度ハ此間ノ機微ニ応シ寛敵緩急其宜シキヲ失ハサルコト緊要ナリ就中滿蒙諸懸案ノ解決ハ一片紙上ノ約束ヲ以テ完了スルモノニアラス今後尚幾段モノ順序ヲ経サルヘカラサルヲ以テ単ニ武力的圧力ヲ背景トシテ一氣呵成ニ之ヲ解決シ了ラントスルカ如キハ却テ大局上前記ノ不利ニ陥ルコトナシテセサルヲ以テ此点ニ關シテハ特ニ総領事等ノ意見ヲ徵シ形勢ヲ自然ニ善導スル如ク配慮アリ度シ

(二) 北軍ヲシテ仮令如何ナル理由ノ下ニテモ閔内ニ止ラシムルコトハ南北間ノ事端ヲ防遏スル為ニモ將タ又北方ノ一部ノ者ヲシテ南方勢力ヲ故意ニ引入レシムル端ヲ開カシメサル為ニモ不利益ナリトノ貴方ノ觀察ニハ同意スル所ナリ故ニ此際努メテ速カニ奉天軍主力ノ撤退ヲ完了シ南北ノ離脱ヲ計ルコト緊要ナリト信ス之カ為ニハ單リ在奉天主脳者ヲ指導スルノミナラス閔内ニ駐マリアル楊宇霆

(付 記二)

*電報案(極秘、暗号)

第二部長ヨリ松井少将ヘ

奉天軍主力ノ閔外撤退ニ閔スル當方ノ意向ハ閔東軍參謀長宛次官電第二項ノ通ニシテ今日ノ情勢ニ於テハ奉天軍ノ閔内停止ニ依リ反馮連盟ヲ促進シ得ルカ如キ望ミナキノミナラス却テ東三省ノ為不利ナル結果ヲ來スヘキコト明カナルヲ以テ此際断然撤退ヲ実行シ速ニ其内部ヲ固ムヲ得策トスヘシ或ハ直魯軍ニ対スル關係モアルヘキカ此等ノ処置ニ於テハ又自ラ別ノ手段モアルナラム就テハ三十日外務大臣ヨリ林總領事ニ対シテ本件ニ閔スル訓令ノ次第モアリ貴官ハ次

上海ヨリ南京ニ暗送セシム
上海、奉天ニ転電セリ

(付 記一)

昭和三年七月三日陸軍省根本少佐

協議ノ為持參亞細亞局長同意スミ

同日陸軍ヨリ発電ノ答

次官ヨリ閔東軍參謀長ヘ電報案
(一) 東三省新政権者カ努メテ国民政府ト離隔シテ独自ノ態勢ヲ保持シアルコトハ諸般ノ關係上帝國ノ為望マシキコトナルモ東三省内部ノ統制未タ其緒ニ就カス殊ニ爆破事件以来極端ナル恐怖疑惑ノ状態ニ在ル東三省官憲ニ対シ露骨ニ我邦独自ノ意思ヲ表示シ加之武力ヲ以テ之ニ臨ムカ如キ態度ニ出ツルコトハ偶々彼等ヲシテ我真意ヲ疑ハシ

置キタリ本件ハ之迄本省ヨリ何等御來示ニ接セス建川ノ報告ニ依リ初メテ承知シタル次第ナルカ此ノ種國策ノ機微ナル点ニ閔シ軍部限ニテ種々画策ヲ行フ事ノ妥当ナラサルハ申迄モ無ク此ノ点ニ閔シ御一考ヲ煩ハスヲ得ハ好都合ト存ス

右ハ或ル意味ニ於テ却テ奉天派カ南軍ニ対シ閔外追撃ノ口実ヲ与フルモノト云フヘク又帝国政府現在ノ方針ハ建川カ密ニ聞知スル処ニ依レハ既ニ五月十八日ノ覚書ノ趣旨トハ

官電ノ趣旨ヲモ参酌セラレ貴官ノ發意ヲ以テ楊宇霆ヲ説得セラレ速ニ奉軍ノ撤退ヲ実現スル様致シ度ン尚楊カ此際速ニ身ヲ閔外ニ引退シ進ソテ学良ヲ輔佐シテ満州統一ノ事ニ尽力スルコト一般ノ形勢ニ鑑ミ吾人ノ希望スル所ナルコトヲモ詳説サレ彼自身ニ対スル疑念ナカラシムルコトモ亦緊要ナルヤニ察セラル此等モ可然含ミ置カレタシ

153 昭和3年7月10日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

張學良に対する奉天軍の北戴河以北撤退要請
に關し請訓

奉天 7月10日後発
本省 7月11日前着

*
第四一二号(極秘)
(七三文書)
往電第四〇八号ニ閔シ

張學良ニ於テハ閔内駐屯ノ奉天軍ヲ閔外(第二期狀態)ニ引揚クルハ南方ノ態度如何ニ依ルト為シ本官カ右ハ却テ南方ノ反感ヲ唆リ北伐開始ヲ誘致スル虞アリト注意セルニモ拘ラス蔣及閔トノ間ニハ了解アリ問題ハ馮ノミナリト為シ

テ顧ミス閔内ノ勢力争鬭ニ尚野心ヲ捨テサルヤラ疑ハシムル節無キニ非ス特ニ支那本部ノ政争ニ興味ヲ有スル楊宇霆カ今尚昌黎ニ止マリテ三、四方面軍団兵トシテ表面整理ヲ名トシテ帰奉セサル如キ南方ニ対スル駆引ノ為ニシテ機会タニ来ラハ再ヒ軍ヲ南下セシムル下心ト見ラレサルニ非スノ如キハ張學良ノ義ニ督弁就任ニ当リ声明セル保境安民精神ニ矛盾スルノミナラス此ノ儘放任セハ南方ヲシテ東三省ニ対シ軍事行動ヲ起サシムルロ実ヲ得シムル危険アリ且我方トシテハ五月十八日ノ警告ノ趣旨ニ反スル閔内ノ駐兵ヲ黙視シ得ヘカラサルヲ以テ此ノ際本官ヨリ張學良ニ対シ速ニ閔内ノ奉天軍ヲ北戴河以北ニ撤退スヘキ旨ヲ要請シ聽カヌムハ當方ニ於テモ考フル處アルヘキ旨ヲ警告シ度シ但シ右警告ニ当リテハ第三期狀態ニ撤退スル時ハ南方ヨリ軍事行動ヲ開始セラレタル場合戰術上ノ不利ヲ忍ハサルヘカラサルヲ口実トシ弁解ヲ試ムルコトアルヘキモ右ニ対シテハ帝國政府ニ於テハ五月十八日ノ声明ヲ南方ニ對シテ為シ居ル關係上南方ヨリ来ルヘキ軍事行動ニ對シテハ治安維持ノ必要上相当ノ決心ヲ有スル旨ヲ語リテ安心ヲ与フルコトト致シ度ク而シテ本件我要求ヲ張學良ニ於テ直ニ聽カサ

ル場合ニハ之ヲ一般ニ公表シテ輿論ト共ニ學良ヲ強要シ飽迄撤兵ノ実現ヲ計ルコト致度シ就テハ本件至急御詮議アリ度

北京へ転電セリ

154 昭和3年7月11日 田中外務大臣より
在中國芳沢公使宛(電報)

國民革命軍の閔外追撃を阻止するため申入れ
を必要とする場合は公使経由にて実施について

て

本省 7月11日後5時30分発

*
三四二号
(五二文書)
貴電第一〇〇九号ニ閔シ

過般陸軍ヨリ閔東軍ニ宛テタル訓電ニハ「場合ニ依リテハ閔、蔣等ニ対シ建川少将等ヲシテ國民軍ノ閔外進撃ヲ強行セシメサル様ノ手段ヲ講セシムルヲ可トスルコトアルヘキニ付同官ト適宜連絡セラレ度」トアルノミニシテ其ノ趣旨

ハ本大臣發在奉天總領事宛電報(五一文書)第一〇〇号前段ニ述ヘタルト同様ニテ建川ヲシテ直ニ申入ヲ為サシメムトスル意味ニ

テ
アラス諸般ノ情形ヲ考量シ右ノ如キ申入ヲ為サシムル必要有リト認ムル際ハ貴官ニ電報シ貴官ヲ經テ之ヲ為サシムル積ナルニ付右様御承知アリタシ

上海、奉天ニ転電シ上海ヨリ南京ニ暗送セシメラレ度シ

155 昭和3年7月31日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

閔東軍の原駐地復帰に異議ない旨村岡閔東軍
司令官に回答について

奉天 本省 7月31日後着

*
四七五号(極秘)

七月二十九日閔東軍司令官ヨリ近ク南參謀次長來奉其ノ用向ハ明白ナラサルモ朝鮮ヨリ来リ居ル安田旅團及閔東軍ノ原駐地復帰等ノ問題モ出ツル事ト想像セラルル處當地方ノ治安ハ張作霖ノ葬儀前後ニ不時ノ事件出来セヌムハ一先ツ安定ト認メラレ自然閔東軍ノ奉天集中ノ理由モ無クナル筈ナルカ本官ニ於テ對支交渉上特ニ現状維持(奉天集中ノ儘)ヲ必要トスル事無キヤ承知シタシト尋ネタルニ付本官

ニ於テハ治安ニ関スル現状観測ニ付テハ同意見ニシテ支那側ニ対スル當館ノ交渉ハ葬儀終了後成ルヘク速ニ開始ノ意向ヲ以テ目下請訓中ナルカ当地集中關東軍ハ軍ノ都合ニテ何時復帰スルモ異議無キ旨回答シ置ケリ右御含迄在支公使ニ転電セリ

156 昭和3年8月(3)日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

朝鮮より派遣の安田旅団引揚げの時期について

奉天 発

本省 8月3日前着

*第四八一號

八月一日南參謀長ヨリ「朝鮮ヨリ当地派遣ノ安田旅団引揚ノ時期ニ關シ陸軍ニ於テハ大体本月十日前後ヲ以テ同旅団引揚期ト予定シ居レル処貴見如何」ト尋ネラレタルニ依リ本官ハ葬儀終了後直ニ懸案解決交渉ヲ始ムル事トモナラハ其ノ当初ニ於テハ相當陸軍ノ後援ヲ必要トスル事アルヘキモ右ハ目下請訓中ナルヲ以テ回訓ノ内容如何ニ依リテハ更

シ事変ニ關スル日本側ノ説明トシテ甲爆弾説(南方便衣隊カ投ケタルモノトシ其証拠トシテ現地付近ニ発見セラレタル手榴弾及日本守備兵ニヨリ射殺セラレタル二名ノ支那人ヲ挙クルモノ)アルモ作リ話ニ過キス(乙)京奉線上ノ爆薬装置説(高度ノ爆発物ヲ京奉線上ノ橋柱下(on the foot)ニ装置シタリトナスモノ)ハ橋柱下及車台ノ損傷無キヲ以テ事実ニ非サルコト明ナリト述ヘ丙列車内爆薬装置説(日本總領事ハ六月七日奉天交渉員宛ノ抗議ニ於テ此ノ見解ヲ取レリ)アルモ車台ニ破損ナク且橋柱及橋梁ノ破壊ノ大ナルヲ見レハ之ヲ信スル能ハスト云ヒ進ンテ事変ノ際ノ守備ノ責任ニ關シテ橋梁ノ地点ノ守備ニ關シテ日支各其ノ鐵道線路ヲ守備スヘキ約束ヲナシタル旨日本側ハ称ヘ居レルカ支那人ハ支那ノ守備隊ハ橋梁ノ二百「ヤード」以内ニ立入ルコトヲ許サレサリシ旨主張シ居レリ橋梁カ日本人ニヨリ有効ニ守備セラレ居リタルコトハ目撃者ノ証言スル所ナリト論シ其ノ陰謀及事変ノ責任共ニ日本側ニアルカ如キ口吻ヲ弄シ居レルニ対シ七月二十四日「ノース・チャイナ・スタークダード」ハ大要左ノ如キ論説(別紙切抜参照)ヲ載セタ

ニ月末位迄延期ヲ願フヤモ知レスト答へ置キタリ右御含迄

157 昭和3年8月7日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛

張作霖爆死事件に関する新聞報道について

公第九二二号

昭和三年八月七日 在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉

外務大臣男爵 田中 義一殿

張作霖遭難事件調査ニ關スル件

最近「ノース・チャイナ・デーリー・ニュース」、上海「タイムズ」紙上ニ七月十六日上海発「ルータ」通信トシテ張作霖遭難事件ニ關シ日支共同ノ事實調査委員会ノ報告ハ支那側委員ノ署名ヲ拒ミシ為未タ發表セラルニ至ラサル趣ナルカ本事件ハ之ヲ共產党或ハ南方便衣隊ノ所業トシテ葬り去ルヘキモノニ非サレハ事件ノ真相ヲ独自ノ立場ヨリ審査發表スト冒頭シ張作霖列車ノ編成、事変場所ノ状態、目擊者談話、爆破ノ効果及爆破原因等ニ就キ詳細説明

「ルーター」ハ張作霖遭難事件ニ關スル匿名ノ陳述ヲ報道シ居レルカ右ハ上海ノ新聞ニ現ハレタルノミニシテ未タ当地若ハ滿州ニ達セサルモノノ如シ然レトモ「ルーター」カ日本人ヲ攻撃スル見解ニ与シテ詳細ニ事変ヲ報道スルノ態度ヲ執ルハ公正ニシテ紳士的態度ト云フヘカラス右陳述ノ出所ヲ明カニスルカ然ラサレハ「ルーター」自身カ其ノ報告中ニアル乱暴ナル推論ノ原動力ナリトノ批評ヲ甘受セサルヘカラス右報告中最モ問題トナルハ匿名通信者ノ陳述中爆發カ車中ニ起リタルモノニアラス及事変發生前支那側守備兵カ其ノ地点ニ接近スルヲ妨ケラレタリトナス点ナリ「専門家ノ意見」ナルモノハ右匿名通信者ノ報告中ニ挿入セラレ車台ヲ破壊セシシテ車中ノ爆破ヲ行フコトハ不可能ナリトシ從シテ滿鉄橋柱中ニ爆薬ヲ置サレタルモノナルヘキヲ推論シ居レルカ之ニ対スル回答トシテハ如何ナル爆破技師ト雖モ車外ニ爆薬ヲ装置シテ特別ニ張及吳ノ二人ヲ殺シ他ヲ生カス事ヲ得サルヘク又仮令張ヲ殺ス意ナリトスルモ事変當時如何ナル車輛ヲ張及吳カ使用シ居リタルカラト殺リテ外部ヨリ爆發セシムルコト能ハサルヘント答フヘキノミ且又近時爆薬ノ智識ヲ有スルモノハ車台ヲ破壊セスシテ

車内ヨリ爆破スルコトノ可能ナルヲ知レリ

日支共同ノ事実調査委員ノ報告ハ支那側委員カ其内容ニ同意ナルニ拘ラス国民ヨリノ批難及責任ヲ問ハルルヲ虞ルル為之ニ調印セサリシモノナリ

右何等御参考迄茲ニ報告ス

本信写送付先 上海、天津、奉天

158 昭和3年8月13日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

* 張作霖爆死事件に関する中国側警備責任者の
処分について

機密公第五九四号

昭和三年八月十三日

在奉天

(8月20日接受)

外務大臣男爵 田中 義一殿

爆破事件警戒責任者ノ処分ニ關スル件

張作霖列車爆破事件當時現場ノ警戒ニ當レル憲兵司令齊恩銘ハ本月一日付ヲ以テ憲兵司令及奉天全省清鄉督弁並奉天

第一二〇七号

北 京 発
本 省 8月15日後着

数日前奉天ヨリ帰来セル「シンプソン」ハ十四日夜書翰ヲ以テ外国新聞記者ノ要求ニヨリ作成セルモノナリトテ奉天滯在中ノ所感ヲ送付シ来レルカ其ノ要領別電第一二〇八号ノ通

尚右ハ十五日夕新聞記者ニ配布セラレ相当注意ヲ引キ居ル由
別電ト共ニ奉天ヘ転電セリ

(別 電)

北 京 発
本 省 8月16日前着

第一二〇八号

先ツ奉天ハ平穏ナルモ政局ハ極メテ紛糾シ居レリト述ヘタル後林特使ハ張学良トノ会見ニ於テ第一ニ満州ト国民政府トノ関係ヲ明確ニシ第二ニ本年初北京ニ於テ張作霖部下ノ仮ニ署名シタル鉄道契約ノ実行ヲ迫レルモノノ如シ右鉄道

省城戒厳司令ノ各職ヲ免セラレ張作霖トノ旧誼ニヨリ保安總司令部諮詢ノ閑職ヲ与ヘラレ目下自宅ニ謹慎中ニシテ同人ノ親戚タル憲兵司令部督察長兼偵探隊長齊家驥ハ自ラ責任ヲ感シテ辞職シ奉天省会警察廳長張樂山ハ爆破事件警備被免者ヲ見タリ尚事件當時ノ線路警戒ハ憲兵司令部ニ於テ第六区警察署長ハ警察廳科員ニ左遷其他署員ニ二三名ノ趣ナリ

上ノ責任ト老朽淘汰ノ意味ニ於テ革職事件発生地ヲ管轄スル第五回警察署長ハ警察廳科員ニ左遷其他署員ニ二三名ノ趣ナリ

被免者ヲ見タリ尚事件當時ノ線路警戒ハ憲兵司令部ニ於テ第六区警察署長ハ警察廳科員ニ左遷其他署員ニ二三名ノ趣ナリ

右何等御参考迄報告ス

本信写送付先 在支公使

159 昭和3年8月15日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

シンプソンの奉天滯在中の所感要領について

別電 八月十六日着在中国芳沢公使より田中外務大

臣宛第一二〇八号

新聞記者に配布された右要領について

契約ハ滿州ニ於テ反対ヲ受ケタルカ此ノ反対コソ其ノ後支那及滿州ニ起レル悲慘ナル出来事ノ原因ヲ為シタルモノナリト論シ日露戦争以後ノ日本ノ滿州ニ於ケル鉄道契約及支那ノ之ニ対スル対抗ヲ叙シ次テ滿州ニ於ケル日支ノ葛藤ハ常ニ鉄道ヲ中心トスルモノナルカ日本ハ北滿ヲ南滿ノ如ク日本ノ優越権ノ下ニ置カムトスルモノナリト断シ最近ノ政局ニ関シテハ日本カ滿州ニ大兵ヲ擁シテ奉天当局ニ対シ国民政府トノ妥協ニ反対シタル事實ヲ叙シ転シテ張作霖ノ暗殺ニ及ヒ張ノ北京退去直前滿州地方當局ノ承認ヲ条件トシテ鉄道契約作成セラレタルモ滿州關係當局ハ之ヲ承認セサリシカ為日本ト張トノ關係益々疎隔シタリシカ間モナク張ハ五月九日ノ和平通電ヲ発シ終ニ五月十八日ノ日本ノ覺書ニヨリ退京ノ已ムヲ得サルニ至レルモノナルカ故ニ六月四日ノ暗殺ハ誠ニ偶然ニアラサルヲ知ルヘシ爆破ニ関シテハ日支委員ノ共同調査行ハレタルモ真ノ調査ハ未タ遂行ハレス尚右調査報告中ニハ偶然ニモ奇怪ナル事實暴露サレ居リハ即チ事件發生前日本守備隊長ハ京奉線ノ警備ヲ支那側ニ許可シタリト言フニ反シ支那側ハ支那兵カ現地ヨリ三百米以内ニ入ルコトヲ禁セラレタリト述ヘ居ル事實ニシテ

二 满州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

第五四九号

161 昭和3年8月16日 在上海矢田總領事より

田中外務大臣宛（電報）

張作霖爆死事件は日本軍の所為との新聞報道について

本省 8月16日後着 上海 発

ノ徹底的取調ヲ要求シ居ルカ故ニ「クラブ」及外国新聞記者間ノ空氣ヨリ見ルニ鮮カラサル「センセイション」ヲ惹起シタルモノノ如ク十六日ノ「リーダー」ハ「日本秘密結社カ日本陸軍帮助ノ下ニ張作霖ヲ暗殺セリ」トノ見出ノ下ニ一面ニ欄ニ亘リテ之ヲ掲載シタル外「ジュルナルド・ペカン」及漢字新聞ノ多数モ亦之ヲ目立チタル場所ニ載セタリ「タイムズ」ノ「フレイザー」モ日本ノ満州政策ニ対シテハ世間ノ注意益々敏感トナリ居ル關係モアリ爆破事件ニ付テモ事件発生場所ニ行政権ヲ有スル日本官憲ニ於テ今少シク事態ヲ明白ニシ置ク方得策ナリトノ意見ヲ述ヘ居レリ奉天、上海へ転電セリ

日本番兵ノ絶エス人形^(影)動キ居タルヲ目撃ンタル由ナリ又事件直後日本總領事館ハ或壯士ヲ追放シタル事實ヨリ觀スレハ當時ノ日本守備隊關係者ヲ取調フレハ容易ニ事件ノ真相判明スヘク事件ハ或不良分子ノ行為ニシテ日本陸軍ノ或ル者カ之ヲ援助シタルモノナリト述ヘ次テ朝鮮王妃暗殺事件ニ於テ日本官憲力厳重ニ事件ヲ審査シ犯人ヲ処罰シタル事実ヲ叙シ更ニ日本ニ於ケル黒竜会及壯士ノ活動ニ言及シタル後張作霖カ或日本ノ計画ニ反対シタルタメ終ニ暗殺ノ悲運ニ到ル事實ハ全ク疑ヲ容レサルモノノ如ク唯彼ノ死カ必スシモ避クヘカラサルモノニアラサルコトハ同列車ニアリシ儀峨少佐カ殆ト何等ノ傷害タニ受ケサリシコトニ觀ルモ首肯シ得ヘシ更ニ現地ヨリ三百碼ノ場所ニ「フォード」ノ自動車アリシコト二哩ヲ距ル点ニアル著名ナル官吏カ事

他ハ北京奉天間ニ於テ屢々列車ノ編成替行ハレタリト言フモ事実ハ全ク之ニ反シ居ルコト是ナリ公平ナル観察者ハ列車ハ多分十二個ノ「ダイナマイト」装置ニ依リ爆破セラレ其ノ「ダイナマイト」ハ満鉄陸橋ヲ支ヘル橋柱ニ幾箱ニ入レテ仕掛けラレ線ニテ連接セラレ居タルモノナリトスルニ一致ス付近材木置場ノ支那人ノ言ニ依レハ當時現地付近ノ日本番兵ノ絶エス人形^(影)動キ居タルヲ目撃ンタル由ナリ又事件直後日本總領事館ハ或壯士ヲ追放シタル事實ヨリ觀スレハ當時ノ日本守備隊關係者ヲ取調フレハ容易ニ事件ノ真相判明スヘク事件ハ或不良分子ノ行為ニシテ日本陸軍ノ或ル者カ之ヲ援助シタルモノナリト述ヘ次テ朝鮮王妃暗殺事件ニ於テ日本官憲力厳重ニ事件ヲ審査シ犯人ヲ処罰シタル事実ヲ叙シ更ニ日本ニ於ケル黒竜会及壯士ノ活動ニ言及シタル後張作霖カ或日本ノ計画ニ反対シタルタメ終ニ暗殺ノ悲運ニ到ル事實ハ全ク疑ヲ容レサルモノノ如ク唯彼ノ死カ必スシモ避クヘカラサルモノニアラサルコトハ同列車ニアリシ儀峨少佐カ殆ト何等ノ傷害タニ受ケサリシコトニ觀ルモ首肯シ得ヘシ更ニ現地ヨリ三百碼ノ場所ニ「フォード」ノ自動車アリシコト二哩ヲ距ル点ニアル著名ナル官吏カ事

160 昭和3年8月16日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

張作霖爆死事件に日本人が関与しているとの疑惑に関する新聞報道について

北京市 8月16日後着

* 第一二〇九号
一二〇五九文書

往電第一二〇七号ニ関シ

張作霖暗殺事件ハ予テ当地支那人及外国人中ニハ右事件ニ日本人若ハ日本軍人カ加入シ居ラサルヤ又日本官憲ノ取調ニ徹底ヲ欠ク處無キヤ等ノ疑惑ヲ抱クモノ鮮カラサリシカ「シンプソン」ノ「ステートメント」ハ爆破ハ日本ノ不良分子ノ所為ニシテ日本軍人之ヲ助ケタリト断定シ日本官憲

張作霖座乗列車爆破事件ニ関シ事件ノ直後王正廷ニ面会ノ節王ハ其ノ方法ノ残忍且用意周到ニシテ然モ科学的ナル到底支那人ノ能クスル所ニ非スト述ヘタル事アリシカ其ノ後金交渉員モ本官ニ対シ右爆破事件ノ勃發ノ為滿州問題ハ一変シテ世界的大問題トナレリト意味アリ気ニ述ヘタルコトアリンカ其ノ後「ウイクリー・レビュ」ニハ右爆破ヲ日本軍憲ノ援助ニ依ル浪人ノ所為ナリト断定シ朝鮮閔妃殺害事件ト共ニ東洋ニ於ケル二大罪惡ナリト論シタル奉天特派員ノ通信掲載サレ之ト前後シ路透ノ独立調査書発表セラレ右調査書ハ表面ヨリ日本ニ責任アリトハ断定セサルモ読者自身ヲシテ爾ク結論セシムルカ如キ事実ノ配列解釈ヲナシ次テ十五日ノ英字紙（上海「タイムズ」ヲ除ク）ハ奉天ヨリ帰来セル「シンプソン」ノ北京ニ於ケル会见談ナル路透電ヲ発表セリ右ハ日本軍憲ノ所為ナリト匂ハセタル長文ノ記事ニシテ全文各支那紙ニ掲載サレツツアリ次テ翌日ノ英字紙ハ在支公使発閣下宛電報第一二〇六号路透特電ヲ掲ケタリ右ノ如ク爆破事件カ近頃特ニ英國系宣伝機関ニ依リ一ノ注意ヲ惹起シ來リ対日反感挑発ノ結果ヲ馴致シツツアルハ注目ニ値ス

張作霖爆殺事件調査特別委員会第一回会議議事録

* 張作霖爆殺事件調査特別委員会議事録(一)

第一回会議 昭和三年九月二十二日(土)午前十時ヨリ午後零時半迄於外務省小会議室

出席者

(外務省) ○森政務次官、○植原参与官、林総領事、○有田亞細亞局長、岡崎事務官

(陸軍省) ○杉山軍務局長、根本少佐

(関東庁) ○藤岡警務局長

(○印ハ特別委員会委員)

一、午前十時開会出席者一同ニテ審議方法等ニ付意見ノ交換アリ午前十時四十五分田中總理大臣來場セラレ本特別委員会ノ設置ニ付別紙ノ通り訓示ノ上退場サル

二、總理退場後更ニ審議方針ニ付協議シタルカ免ニ角本件ニ付最モ詳細ノ情報ヲ有スヘキ陸軍側調査ノ結果ヲ聞クコトトナリ杉山軍務局長ヨリ左ノ通り陳述アリ

(口)但シ最近工藤鉄三郎ナル者カ小川鐵道大臣ニ宛テタル「爆破事件ノ真相」ナル書類ハ種々矛盾ノ点モアレトモ事件ノ核心ニ触レ居ルカ如キ節モナキニ非ス依リテ陸軍側ニテハ陸軍次官ヨリ右種々ノ矛盾点ヲ指摘スルト共ニ調査方針ヲ示シタル書類ヲ峯憲兵司令官ニ授ケ満州地方ニ出張セシメ関東軍司令官ト協議ノ上本件ノ調査方ヲ命シタルニ付同司令官帰京(十月八日頃帰京ノ筈)シ其報告ニ接サハ更ニ本件ノ真相ヲ捕捉シ得ヘキカトテ右小川鉄相宛工藤書簡(二)並電報(二)及安達隆盛発工藤宛書簡(数通)各写(原紙ハ小川鉄相ノ許ニアル由)ヲ読ミ上ヶ更ニ右書簡中ニ現ハレタル伊藤謙次郎、安達隆盛、劉戴明、某大佐(河本參謀ノコトナルヘシト云フ)、宮川代議士、工藤鉄三郎等ノ關係ヲ説明シ尚小川鉄相ハ既ニ本件關係者ニ五千円ヲ与ヘタル趣ナリト付言セリ

杉山軍務局長陳述

四、次ニ本件ニ関シ各人ノ有スル疑問ノ点ヲ被露スルコトトナリ林総領事ヨリ

(イ)南方便衣隊ト対面シキ疑問支那人ノ刺殺ハ当初警察側モ秦特務機關モ六月三日午後十一時頃ト云ヒタルカ後ニ至リ司令部側ハ四日前三時半ト發表シ其ノ間何等カ打合セニ齟齬アリタルカ如ク感セシム



(ロ)東宮大尉ハ列車爆破當時展望所内ニアリタルカ爆音ヲ聞キ直ニ外部ニ出テタル處支那側衛兵ノ乱射アリタルモ付応射ノ態度ヲレリト述ヘ居レ共警備ノ任ニ当レルモノトシテ斯ル爆音ヲ聞キタル際ハ何ヲ措キテモ直ニ爆破現地ニ赴クコト自然ナラスヤ又同大尉ハ爆音ト同時ニ支那衛兵カ乱射ヲ始メタル為爆破地点ニ到ル余裕ナカリシコトヲ述ヘ居レ共前後ノ事情並儀哉少佐ノ談等ヲ総合スルニ右支那側射撃ハ爆破後數分間ヲ経タル後開始セラレタルモノト認メラル

(ハ)鉄橋上ニ数個ノ土嚢アリタルヲ認メタルカ之ハ如何ナル用途ニ用ヒタルモノナリヤ調査ヲ要スヘシ等述ヘタリ

五、又爆破ニ用ヒタル火薬ノ種類並装置個所ニ付テハ

(イ)林総領事ハ松井(常三郎)予備中佐カ爆煙ヲ見テ推定

コト

(口)相當重要ナル調書等ニハ單ニ何某ノ言フト云フカ如キ
漠然タルコトヲ避ケ出来得ル限り正確ナル聽取書ノ形式
ヲトリ置クコト

(陸軍側カ憲兵司令官ヲシテ必要ノ調査ヲナサシメツツ

アルハ適當ナルモ尚右ト同時ニ陸軍側ノ有スル火薬ノ貯
藏量使用量等ヲ調査シ實際ノ残高ト帖簿上ノ数量ト一致
スルヤ否ヤヲモ調フルコト可然

(二)小川鉄相ノ所持スル本件ニ関係アル書類原紙ハ散佚ヲ
防ク為速ニ本委員会ニ譲受ケ保管スルコト但シ右ハ總理
ヨリ鉄相ニ交渉方ヲ依頼スルコト可然

(三)関東厅ニテハ本件調査ニ当リ特ニ安達隆盛ノ身元劉戴
明ノ現住地（大連ナル由）及其ノ身元劉ノ使用人（便衣
隊トシテ刺殺セラレタリト称スルモノ）ノ遺族等ノ調査
ヲ行フコト

(四)本委員会成立ノ次第八陸軍省ヨリ関東軍司令官ニ通報
済ナルコト

(五)本委員会ニ対シテハ関東厅側ヨリモ警務局長帰任後主
任官一名ヲ派遣滯京セシムヘキコト

(六)本委員会ニ対シテハ關東厅側ヨリモ警務局長帰任後主
任官一名ヲ派遣滯京セシムヘキコト

(五)本委員会ノ事務ハ差当リ根本少佐及岡崎事務官ヲシテ
整理セシメ関東厅側係官出京ノ上ハ更ニ右係官ヲモ之ニ
加フルコト

(岡崎記、陸軍省根本少佐済)

(別紙)

昭和三年九月二十二日於外務省小會議室

張作霖爆殺事件調査特別委員会ニ於ケル田中内

閣總理大臣訓示

張作霖爆殺事件ニツイテハ事件以来関東軍、領事館及關東
厅ニ於テ夫々真相調査ニ力メ居ルモ今日迄其真相突止メ得
サルニツイテハ更ニ一段ノ努力ヲ以テ各關係官厅ニ於テ其
ノ調査ノ歩ヲ進ムルコトヲ希望スルモ同時ニ調査ノ便宜並
統一ノ為時局以來外務省ニ開催シ来リタル外務陸海軍ノ連
絡會議ニ於テ一特別委員会ヲ作リ右委員会ニ於テハ張作霖
爆殺事件ノ真相調査ノ方針ヲ定メ其ノ方針ノ下ニ夫々各機
関ヲ激励シテ情報並証拠ノ蒐集ヲナシ以テ最短期間ニ本大
臣宛報告書ヲ作製セムコトヲ望ム

右特別委員会ノ構成ハ外務政務次官、外務参与官、外務省

亜細亜局長、陸軍省軍務局長及關東厅警務局長トシ報告書
ハ成ルヘク十月中ニ取纏メ得ル様努力スヘン尚右調査ノ為特別委員会ヲ設ケ居ルコトハ當分ノ中絶對之
ヲ極秘トスヘシ

163 昭和3年10月23日

張作霖爆殺事件調査特別委員会第二回會議議事録

張作霖爆殺事件調査特別委員会議事録(二)

第二回會議 昭和三年十月二十三日午後二時ヨリ四時迄

於外務省小會議室

出席者
(外務省)○森政務次官○植原参与官○有田亞
細亜局長、岡崎事務官
(陸軍省)○杉山軍務局長
(關東厅)大場事務官
(○印ハ特別委員会委員)

一、午後二時森政務次官開会ヲ宣シ先ツ藤岡關東厅警務局
長ノ本委員会ニ提出セル報告書（右ハ三通作製シ一通ハ
藤岡局長保管一通ハ大場事務官保管一通ハ本委員会ニ提

出シ目下有田局長保管ス）ニ付大場事務官ノ説明ヲ聽取
ス

二、大場事務官説明要旨

(1)爆破事件当初關東厅側ニテモ凌印清ヲ疑ハシト思ヒ調
査セルカ大シテ關係スル所無カリシ模様ニ付其ノ儘放置
シ置ケルカ今般藤岡局長帰任シ本委員会ノ協議ノ結果ニ
基キ更ニ凌及伊藤謙次郎、安達隆盛等ヲ取調ヘタル結果
カ本件報告書ナルカ關東厅ニテハ爆破其ノモノニ付テハ
深ク調査ノ方法ナカリシ次第ニテ主トシテ其準備行為タ
ル支那人雇入ノ経過ニ付取調ヘ大体左ノ如ク判明セリ

(2)第一次計画 本件ノ中心トナリタルハ伊藤謙二郎（大
石橋居住、石炭販売並褐石販売業）ニシテ彼ハ平素ヨリ
滿州問題等ニロヲ出ス男ナリシカ本年五月張作霖ノ形勢
非トナルヤ滿蒙懸案解決ノ為ニモ此際張ニ代フルニ吳俊
陞辺リヲ以テスルコト可然トナシ五月十五日頃（正確ナ
ル日時判明セス）在奉天關東軍司令部ニ斎藤參謀長ヲ訪
ヒ此際激烈ナル方法ニテ局面転回ヲ計ルコト可然キ旨ヲ
進言セルカ斎藤參謀長ハ單ニ之ヲ聽取スルノミニテ相談
ニ乗ル模様ナカリシニ付伊藤ハ更ニ河本參謀ヲ訪ネ談

河本ニ如何ナル決心アリヤヲ確メタル処河本ハ「國家ノ為ナラハ腹ヲ切ル覺悟モアル」旨ヲ言明シタルニ付茲ニ其計画即懸案解決ノ為張ニ代フルニ吳ヲ以テセムコトヲ述ヘタルニ（當時伊藤等ハ右ニ付テハ吳モ多少ノ諒解アリトノ見込ナリシカ如シ）河本之ニ賛成ス

依テ実行ノ方法トシテ先ツ吳俊陞ト同シ考ヲ有セル張景恵ヲ説クコトトシ張ト義弟ノ約アリト云フ新井宗治（奉天貸家業）ニ相談シ新井ヨリ電話ニテ北京ニアリタル張ニ対シ直ニ來訪方ヲ求メタルモ張ハ来ルヲ得サリシ為更ニ張ノ息ヲ説キ副官ヲ赴燕セシメ本計画ヲ話サシメタルニ張之ニ同意シタル為愈実行ノコトニ決シタルモノノ如シ

(イ)第一次計画ノ齟齬 然ルニ當時張作霖ハ六月十四日頃帰奉ノ見込ナリシニ付其ノ積リニテ計画ヲ進メ居タリシニ六月一日ニ至リ急ニ六月三日帰奉ノコトトナリタルコトヲ知リタル為慌テ吳俊陞ヲ説キ挙事ヲ促シタルモ吳ハ斯ク時日切迫シテハ準備整ハストテ承知セス却テ張作霖出迎ノ為山海關方面ニ出発シ遂ニ当初ノ計画ハ失敗ニ終レリ

(ウ)第一次計画ノ齟齬 然ルニ當時張作霖ハ六月十四日頃帰奉ノ見込ナリシニ付其ノ積リニテ計画ヲ進メ居タリシニ六月一日ニ至リ急ニ六月三日帰奉ノコトトナリタルコトヲ知リタル為慌テ吳俊陞ヲ説キ挙事ヲ促シタルモ吳ハ斯ク時日切迫シテハ準備整ハストテ承知セス却テ張作霖出迎ノ為山海關方面ニ出発シ遂ニ当初ノ計画ハ失敗ニ終レリ

乞食ノ如キ姿ナリシト）（尚彼等ハ六月三日午前四時頃遊廊内ノ福開泉ナル風呂屋ニテ一度ハ断ハラレタルモ強テ頼ミ一人風呂ニ入レル由）然ルニ王某ハ其後逃亡シ結局残リノ二名伊藤ヲ訪ネタルニ（三日朝）伊藤ハ彼等ニ実ハ列車爆破ノ為爆弾ヲ投スルモノナルコトヲ告ケタルニ両名共大イニ狼狽シ逃亡ノ惧モアリタルヲ以テ一旦安達ノ家ニ留メ置キ看視セリ而シテ其際安達ハ本任務ニ成功スレハ一人宛三千円宛又死亡スレハ遺族ニ五千円ヲ与フヘシト云ヒシカ伊藤ハスルコトヲ云へハ後ニ困ルコトヲ生スヘシトテ止メタルモ安達ハ一度爆破トナレハ支那側ハ発砲シ日本側モ之ニ応射スヘク結局奉天ハ半戦争状態トナルヘク其際ハ五千ヤ一万ノ金ハ如何トモナルヘシト答ヘシ由

六月三日午前八時過キ伊藤、安達及劉戴明ハ右二名ノ支那人ニ劉戴明ノ書キタル手紙二通ヲ携帶セシメ奉天瀋陽館（閏東軍幕僚宿舎）ニ伴ヒ河本參謀ニ引渡シタリ而シテ伊藤ハ更ニ現場ニ同道セムコトヲ望ミタルモ河本之ヲ謝絶シ両名ノ支那人ノミヲ自動車ニ同乗セシメ出発セリ從テ伊藤等ハ其ノ後ノ模様ニ付テハ何等知ル所ナシト

(二)第二次計画 依テ伊藤ハ更ニ他ノ計画ヲ以テ当初ノ目的ヲ達成セントシ茲ニ張作霖列車爆破企テ河本參謀ニ之ヲ打明ケ且実行ノ場所トシテハ南満京奉「クロス」地點ヲ選フコト可然旨ヲ進言セリ河本ハ其際金ハ出セヌ旨ヲ述ヘタルカ他方爆破ニハ支那人カ必要ナレハ四、五名雇入レ度シト云ヒ伊藤之カ周旋方ヲ引受ケタリ

而シテ伊藤ハ河本ヨリ右雇入ニハ伊藤自身之ニ当ルヘキコトヲ云ハレタルモ平常支那人ニ交際ナカリシ為新井宗治ニ之ヲ話シ（但シ新井ハ第二次計画ニハ関係ナシト云ヒ居レリ）一應相談ノ上劉戴明（元吉林軍馬營長現在ハ奉天付属地遊廊ニ出資スル匿名組合ノ一員）ノ手ニヨルコトシタルモ劉ハ平常安達隆盛ト往来シ居ルコトヲ知リタル為安達ヨリ邪魔サレヌ様同人ノロノ軽キ男ナルコトハ知リタルモ安達ニモ本計画ヲ洩セル由

劉ハ元部下ノモルヒネ中毒患者リュウバンショウ 及其ノ手ヲ通シチヨウエイキユウ 並王某三名ヲ雇入レ当初ハ表面日本天津軍密偵トナルモノナリテ右三名ニ百円宛（但シ右ハ伊藤ノ言、安達及劉戴明ハ夫々百五十円宛ヲ与ヘタリト申述フ）ヲ与ヘ入湯、理髪ヲナシ且衣服ヲ整ヘシム（彼等ハルハ此ノ両名ナリトハ遊廊ノ風呂屋ノ使用人ノロヨリ洩レ且現場ニテ死者ヲ見タルモノモ確ニ然ル旨ヲ述ヘタル由ニテ右ハ奉天地方一般ノ風説トナレリ

(イ)劉パンショウ 及チヨウエイキユウ 「クロス」地點ニテ刺殺サレタルハ王ハ楊宇霆ノ許ニ在リトノ風説アル旨ヲ披露セリ

伊藤ハ両名共「モヒ」患者ニシテ家族等ハナシト雖モ安達及劉ハリュウバンショウノ家族ハ開原ニチヨウエイキユウノ家族ハ皇姑屯ニ在リ共ニ劉戴明ヨリ毎月二三十元ヲ給シ日下ノ処ハ右ハ彼等カ密偵トナリ得タル金ヲ送リ居レルナリト称シ居

レルモ何時迄モ斯ル状態ニテ糊塗シ置キ得ス早晚彼等ノ死ヲ告ケサルヘカラサルモ其際ハ例ノ五千円ノ問題起ルヘシトテ困リ居ルカ如キ口吻ナリ

惟フニ右問題生スレハ伊藤ハ之ヨリ逃レ得ヘキモ安達ハ死亡支那人ニ家族アリトセハ逃レ得サル関係ニ在ルニ非スヤ然ルニ安達ハ之ヲ口実ニ金ヲ得ムトスルモノニ非スヤトモ考ヘラル

(ト)刺殺支那人所持ノ手紙 右ハ三通アリ内二通ハ劉戴明ノ書キシモノナルモ他ノ一通ハ凌印清ノ用紙ニテ封筒モ凌使用ノモノラシキモ凌ハ自分ノ手蹟ニ非ス又知人中ニモ斯ル手蹟ノ者ナント云フ右ハ恐ラク王清一カ凌ヲ訪ヒタル際用紙及封筒ヲ盜ミタルモノラシキモ手紙ハ王ノ手蹟ニハ非サル由

(尚)王清一ハ井田哲及管原堅郎(退役尉官、兵工廠ニ物品ヲ納メ居レリ)等ト共ニ別派ノ浪人団体ニ属シ凌ハ王清一ノ紹介ニテ之等トモ親シクシ居レル由)

(ハ)劉戴明 支那側ニテハ劉ヲ捕フレハ日本側ノ計画判明スヘシトテ頻ニ其所在ヲ探リ居レル故関係者一同ハ極秘

裡ニ劉ヲ奉天付屬地南大明街、井上骨董店裏ノ借家(安

達カ井上ヨリ借リタルモノ)ニ置キ家賃三〇円生活費月三〇円ヲ給ス然シ将来ハ金ヲ工面シ大連其他ノ安全地帶ニ置ク積ナリト

而シテ伊藤及安達ハ共ニ金ヲ欲シカリ居リ伊藤ハ三千円位使ヒタリト称シ安達モ大ニ中心トナリテ勵キタルニ付金カ入用ナルモ何分ニモ陸軍等ヨリ一文モ貰ハスト称ス彼等ハ右様ノ事ヲ頻ニ吹聴ン居レリ

以上本件調査ニハ奉天警察署長及奉天領事館警察高等係伊藤警部之ニ与レルモ總領事ニモ別段報告ヲ提出セス書類ハ関東長官、藤岡警務局長及大場事務官ノミ閱覽シ大場事務官上京後ハ本件関係ニテノ電報往復ハ同事務官自身暗号ニ組ミ發電ス但シ同事務官上京後ハ本件調査ヲ一時中止シ居レリト

三、以上大場事務官ノ説明ニ対シ森政務次官ヨリ本件報告書ハ前記三通限リニ止メ之以上作成セサルコトヲ希望シ更ニ各委員ヨリ質疑ヲ出シ大場事務官回答ス左ノ如シ

(イ)杉山軍務局長ヨリ

(ト)伊藤カ第一次計画ニ関シ河本ヲ訪問セル日時如何トノ質問ニ対シ右ハ正確ナルコト判明セス五月中頃斎藤參謀

長ヲ訪ヒ其ノ後河本參謀ヲ訪ヒタル事ノミ判明シ居レル旨回答アリタリ

(二)河本ハ其際爆破ハ自分ノ方ニテ引受クルニ付支那人四名ヲ連レ來レト言ヒタル点ハ聽取書中ニアリヤトノ質問ニ対シ右ハ聽取書中ニアリト回答セリ

(ハ)有田亞細亞局長ヨリ

答、右ハ世間ノ風説(ヒソヒソ話)ヨリ種ヲ得タルモノナラム

(三)問、赤塚代議士(前公使)ノ赴奉ハ本件調査ノ為ナリトノコトナルカ如何

答、赤塚代議士ハ左程詳シクハ知リ居ラスト信ス

四、以上質疑応答後杉山軍務局長ハ本件ニ付テハ過般峯憲兵司令官モ取調ヘタル結果陸軍側ニモ相当ニ材料アルモ未

タ辻ツマノ合ハサル處モアリ且関東府ノ報告ニ基キ更ニ取調ヘタキ点モアルニ付陸軍側ノ報告ハ暫ク御猶予アリタント述フ

五、依リテ森次官ヨリ然ラハ陸軍側ノ報告ハ次回ニ聽取スヘキ旨ヲ述ヘ更ニ大場事務官ニ対シ本日ノ會議ニ付関東府ニ報告セラル場合ハ同事務官ヨリ藤岡委員報告ニ付説明ヲナシ之ニ対スル質疑ニ答ヘタリトノ程度ニテ報告セラレタク又関東府側ノ調査ハ当分此ノ程度ニ止メ報告書写モ之以上作成セラレサル様致シタキ旨ヲ述ヘ散会セリ

(二)問、町野武馬、江藤豊二両氏モ東京ニテ同様ノ事ヲ話シ居レル處右情報ノ出所如何